

# 光格上皇主催御会和歌年表 — 文政期編

盛 田 帝 子

## 要 旨

本稿は「光格天皇主催御会和歌年表—享和期・文化期編」(『大手前大学論集』第19号)の続編として、文化15年(文政元年)(1818)～文政13年(天保元年)(1830)までに光格上皇が主催した仙洞御会での光格上皇の御製、および仁孝天皇が主催した内裏御会での光格上皇の御製・仁孝天皇の御製を年表形式で提示したものである。底本には、国立国会図書館所蔵『内裏和歌御会』(請求記号:124-202)・同所蔵『仙洞和歌御会』(124-202)を用いた。また代々御所伝受の保持者を輩出した有栖川宮家伝来の宮内庁書陵部所蔵『御会和歌留』(請求記号:有栖-5081)によって校訂した。文政期は、光格上皇の歌人としての面に光をあてれば、仙洞御会を営みながら、仁孝天皇の歌道教育に力を注いだ時期であり、対面しての和歌指導を行い、仁孝天皇歌壇を支える事になる廷臣達をも含め、次々に御所伝受を相伝している。また在位中に引き続き、中宮欣子内親王の重用や女房歌人達の活躍なども見られる。その他の文化面に光をあてれば、管絃に力を入れながら、修学院離宮への御幸の再興や、中務卿韶仁親王への入木道御伝受の相伝、また、前権大納言四辻公萬から蘇合香、箏を相伝されるなどの事がある。『光格天皇実録』(ゆまに書房、2006年)等から出典を示して事項を記し、それらの事柄と御会の運営状況との関係性、文政期の光格上皇の動向を立体的に提示することを試みた。

**キーワード**：光格天皇、宮廷歌会、欣子内親王、仁孝天皇、御所伝受

## 1、解説

### 一、文政期の光格上皇と和歌御会

本稿は、光格上皇が48歳であった文化15年（1818）1月（4月22日に文政に改元）～60歳であった天保元年（1831）12月（文政13年12月10日に天保に改元）の14年間の御会和歌を中心とする年譜を掲載する。底本には、国立国会図書館所蔵『内裏和歌御会』（請求記号：124-202）・同所蔵『仙洞和歌御会』（124-202）を用いた。また代々御所伝受の保持者を輩出した有栖川宮家伝来の宮内庁書陵部所蔵『御会和歌留』（有栖-5081）によって校訂した。

譲位後、最初の正月を仙洞で迎えた光格上皇は、文化15年1月18日に披講をとまった和歌御会始に出御し「静かなるやまのゆき消の色そへて霞むはこやのはるぞたのしき」（歌題「霞添春気色」と詠進。中宮も「さほ姫の霞のころもかさねてぞはるとは見ゆれ山のはのそら」（同題）と詠進している。光格上皇の御製からは「はこやのはる」（仙洞御所で迎える初めての春）が、精神的にも身体的にも満ち足りた「たのしき」状態であったことが知られる。その6日後の1月24日、内裏で行われた仁孝天皇主催の和歌御会始には「ことたがへにその品がらはかはれどもおなじ心よきみが代の春」（歌題「貴賤迎春」と、仁孝天皇の治世に対するメッセージを含んだ御製を詠進している。

このように、仙洞御所・内裏御所で行われた和歌御会始を皮切りに、文政年間を通じて、仙洞御所では、年ごとに行われる七夕御会や柿本神影供、月ごとに行われる月次御会、また、水無瀬宮御法楽、聖廟御法楽、石清水社御法楽、賀茂社御法楽などの法楽和歌御会、選ばれし歌人が集い不定期に行われる当座御会、修学院離宮へ御幸した折に開催する修学院御幸御会・修学院御当座などを主催してみずからも詠進している。また、一年の初めに仁孝天皇が主催して内裏で催される当座御会始には、仙洞御所から内裏へ御幸して出御し、その場で御製を詠進。仁孝天皇の御製を添削してもいる。

文政元年（1818）10月には、光格天皇の即位以来、宮廷歌壇の中心人物の一人であり、歌壇運営の補佐的役割を果たした実兄の閑院宮一品美仁親王が六十二歳で薨去。また文政4年10月には頭瘡を病み俄かに浮腫を發するが年内には順快するなどの事が起こっているが、文政7年9月には修学院離宮への御幸を再興し、文政10年には中務卿韶仁親王に入木道御伝受を相伝。また、文政2年には前権大納言四辻公萬から蘇合香、箏を相伝されるなど文化的な活動も精力的に行っている。

## 二、宮内庁書陵部所蔵『御会和歌留』について

ところで、宮内庁書陵部所蔵『御会和歌留』（有栖-5081）の文政十二年九月十四日の当座御会の記録の巻末に以下のように注記されている。

十月廿九日冷泉為全ヨリ御到来。十一月二日同家被返。

この当座御会は、文政12年9月14日、59歳の光格上皇が、修学院離宮に御幸した折に、壽月観において行った当座和歌御会の記録で、題者・奉行ともに冷泉為全が務めている。つまり、注記は、修学院離宮の壽月観で催された当座御会から約1か月半後の10月29日に、当日、題者・奉行を務めた冷泉為全より有栖川宮家に、当日詠進された詠草の記録が届き、それを書写した有栖川宮家から、11月2日に冷泉家に対して記録が返却されたことが知られるのである。

また、文政12年10月7日、仙洞で行われた当座御会の記録の巻末にも「十一月廿九日奉行為脩ヨリ御到来。十二月二日同家へ被返」と注記があり、奉行を勤めていた藤谷為脩（右兵衛督）のもとより、11月29日に有栖川宮家へ、10月7日の仙洞での当座御会に詠進された詠草記録が届き、それを書写し終えた有栖川宮家から12月2日に藤谷家に、その記録が返却されていることが知られるのである。これらの例から、宮内庁書陵部所蔵『御会和歌留』（有栖-5081）は、和歌御会で奉行を務めていた家等からその記録を借りて書写したものであるといえる。

同じく、『御会和歌留』（有栖-5081）によれば、文政8年4月24日、内裏で催された月次御会の仁孝天皇御製には「後日被出」との注記があり、巻末には「後日被出御製、五月七日御到来、同八日御順達」と注記がある。つまり、月次御会は4月24日に催されているが、実際に仁孝天皇の御製が提出されたのは5月7日であり、遅れて提出された仁孝天皇御製は、5月8日に順次、有栖川宮家などの御会人数に加えられる歌人のもとへ送達されたことが知られるのである。

『御会和歌留』（有栖-5081）には、他にも、詠進した歌人達の上記のような詠進の遅れ等の注記がたびたび施されており、御会和歌記録の成立の過程をうかがうことができる。

## 三、仁孝天皇への歌道教育

年譜を俯瞰して注目されるのは、讓位後の仁孝天皇に対する和歌の指導である。東山御文庫マイクロフィルム「仁孝天皇御詠草並光格天皇御添削書」（111-1-4-1）等の一連の資料によれば、光格上皇は、仁孝天皇が和歌御会に提出する前の御製のほぼ全てに添削を施している。添削は、御会始、七夕御会、重陽御会、月次御会、水無瀬宮

御法楽、聖廟御法楽、女房月次御会などの定例の和歌御会に加え、当座和歌御会や内々の和歌御会の御製にも及んでおり、即位後の仁孝天皇の和歌教育をいかに懇切丁寧に行っていたかが知られる。

例えば、文政2年12月25日に内裏で行われた和歌当座御会では、仁孝天皇は組題30首の内「千鳥」の題で「あらいその浪のさはぎのむら千鳥いづこの浦になきわたるらむ」を清書提出していることが国立国会図書館所蔵『内裏和歌御会』（請求記号：124-202）・宮内庁書陵部『御会和歌留』（有栖-5081）から知られるのだが、仁孝天皇が光格上皇に添削を請うために「千鳥」の題で詠進した御製が最初は三首であったことや、光格天皇の添削・批言については、東山御文庫マイクロフィルム「仁孝天皇御詠草並光格天皇御添削書」（111-1-4-1）のうちの「文政二年十二月廿五日 当座」とウハ書された包紙に包まれた〔光格上皇添削仁孝天皇御製〕1枚、および添付された〔光格上皇批言〕1枚から明らかになる。以下に翻刻する。

(光格上皇添削仁孝天皇御製)

千鳥

立帰りむかしのあとを  
したひつゝ、和哥の浦はに  
千鳥鳴なり

／あらいその浪にさわぎて (→光格上皇添削：あらいその浪のさはぎの)  
立ちどりいづことまりと (→光格上皇添削：むらちどりいづこのうらに)  
鳴わたるらん  
すまの浦や月のかげさへ  
寒きよにいそべの千鳥  
ともさそふ聲

(光格上皇批言)

千鳥

はしも一通りは御宜候えども  
御哥がら十分になく候  
中が御宜しく存上候て  
少々  
直し上申候事  
猶くわしくは書とり  
がたく候まゝ

参上のせつ

可申上候事

兼仁

仁孝天皇は「千鳥」の題で三首の御製を光格上皇に提出した。光格上皇は、端、中、奥の三首の御製のうち、端の「立帰りむかしのあとをしたひつゝ和哥の浦はに千鳥鳴なり」は、歌としていちおうはできているけれども、風格が十分ではないという理由で落とし、中の「あらいその浪にさわぎて立ちどりいづことまりと鳴わたるらん」という御製の二句から三句にかけて、また四句に添削を加え、「あらいその浪のさはぎのむらちどりいづこのうらに鳴わたるらん」として合点（合格点）を与えている。仁孝天皇は、添削を受けた中の御製を清書して提出したことになる。ここで、注目したいのは、光格上皇の批言の中に「猶くわしくは書とりがたく候まゝ参上のせつ可申上候事」とあることで、添削書のみではなく、対面でしか教示できない事柄を、口頭で詳細に伝えていたことが知られるのである。このように、文政年間を通して、光格上皇はたびたび内裏に御幸して対面して和歌を教え、仁孝天皇主催の当座御会始にも出座していたことが知られるのである。

#### 四、仁孝天皇および廷臣たちへの御所伝受

仁孝天皇への歌道教育に重きを置きながら、他の廷臣たちにも御所伝受を相伝している。以下に関係事項とともに掲げる。

- ・文政元年（1818）10月6日 閑院宮一品美仁親王、薨去
- ・文政2年（1819）9月21日 仁孝天皇に和歌天仁遠波伝受を相伝（禁裏に御幸）
- ・文政2年10月17日 参議飛鳥井雅光に和歌天仁遠波伝受を相伝（仙洞）
- ・文政2年11月24日 閑院宮孝仁親王に和歌天仁遠波伝受を相伝（仙洞の御賀宴間）
- ・文政2年12月2日 関白一条忠良に和歌三部抄伝受を相伝（仙洞の御賀宴間）
- ・文政3年（1820）2月10日 有栖川宮韶仁親王に和歌天仁遠波伝受を相伝（仙洞の御賀宴間）
- ・文政3年（1820）2月20日 有栖川宮織仁親王、薨去
- ・文政4年（1821）2月8日 関白一条忠良に伊勢物語伝受を相伝（仙洞の御賀宴間）
- ・文政4年5月2日 正三位高松公祐に和歌天仁遠波伝受を相伝（仙洞）
- ・文政5年（1822）4月22日 仁孝天皇に和歌三部抄伝受を相伝（禁裏に御幸）
- ・文政8年（1825）9月21日 一條忠良に古今伝受を相伝（仙洞）
- ・文政9年（1826）9月26日 一條忠良に和歌灌頂以後の御伝受（一事伝受）を相伝

(仙洞)

- ・文政9年12月11日 仁孝天皇に伊勢物語伝受を相伝(禁裏に御幸)
- ・文政10年(1827)4月7日 中務卿韶仁親王に三部抄伝受を相伝(仙洞)
- ・文政12年(1829)9月27日 権中納言飛鳥井雅光に三部抄伝受を相伝(仙洞)

仁孝天皇に御所伝受の第一段階である天仁遠波伝受を相伝した光格上皇は、文政2年9月30日に内裏で催された当座御会において、「四方のくにおさまる君が御代なれや野やまのたびも道ひろくして」(歌題「旅」と仁孝天皇の御代を寿ぐ御製を詠んでおり、第二段階の三部抄伝受を相伝した年の文政5年9月13日に、仁孝天皇が主催した内裏の当座御会には、光格上皇も御幸して出御し「秋いく世君が御池にくもるなよみづの心も月の光りと」(歌題「池月」と詠み、仁孝天皇は「あやうさも影に忘れて渡るらむ月こそしるべ木曾のかけ橋」(歌題「橋月」と詠んでいる。和歌の添削や対面しての教導を通じて仁孝天皇が光格上皇の教えを吸収してゆく様子がうかがわれる。

## 五、中宮欣子内親王と女房歌人たち

光格上皇は中宮欣子内親王の御歌を上皇の次に位置付けて和歌御会記録に掲載させた。在位時代より、中宮の御歌を重んじ、宮中の女房歌人に添削を施すなどの指導を行っている。御会始、七夕御会、重陽御会には必ず女房達が詠進しており、宮廷御会において中宮をはじめとする女性歌人の活動が注目される。

仙洞御会においても、文政2年までは「中宮御歌」として、皇太后となった文政3年3月14日以降は「大宮御歌」として欣子内親王の御歌が見える。例えば、文政2年1月18日に仙洞で催された御会始では「天晴有鶴声」という題で「さし出る朝日のそらのつるのこゑをのが心もはれわたるらし」、同年5月2日に内裏で催された御会始では「寄世祝言」という題で「くにたみもおさまれるよのときなりといはふ心はつきせざるらし」という御歌が光格上皇の御製の次に掲載されている。

## 2、凡例

- 一 国立国会図書館所蔵『内裏和歌御会』(請求記号:124-202:国会本内裏と記載)・同所蔵『仙洞和歌御会』(124-202:国会本仙洞と記載)を底本とし、宮内庁書陵部『御会和歌留』(有栖-5081:有栖川宮本と記載)で校訂した。
- 一 御会名、歌題、諸役名、光格上皇の御製翻刻は、全て原文通りとした。ただし、光格上皇・仁孝天皇の御製については、読みやすさを考えて、濁点を付した。なお〔 〕内は割注である。
- 一 光格上皇が、仁孝天皇主催の内裏和歌御会に出詠している場合も漏らさずその御製を記録

- した。その際、「院御製」として記録されているため、御製の最後に〔院御製〕と翻刻した。
- 一 仁孝天皇が主催した内裏和歌御会のすべての記録も翻刻した。その際、仁孝天皇の御製は備考に翻刻した。
  - 一 底本の注記、および光格天皇の伝記的事項は出典を示して記載した。
  - 一 中宮や女房が出詠している場合には、備考にその旨を記した。
  - 一 その他、特記すべき事項は備考に記した。

### 3、使用した文献および参考文献

国立国会図書館所蔵『内裏和歌御会』（請求記号：124-202）

国立国会図書館所蔵『仙洞和歌御会』（請求記号：124-202）

宮内庁書陵部『御会和歌留』（有栖-5081）

監修 藤井譲治 吉岡眞之『光格天皇実録』第三巻・第四巻（ゆまに書房、2006年）

本稿は、JSPS 科研費「幕末維新时期における天皇歌壇を中心とする文芸ネットワークの研究」（17K02479）による研究成果の一部である。

光格天皇主催御会和歌資料 — 文政期編

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格上皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文化15年 1月4日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸始				光格天皇実録	
文化15年 1月7日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文化15年 1月18日	48	和歌御会始	仙洞	霽添春気色	静かなるやまのゆき消の色 そへて霞むはこやのはるぞ たのしき	民部卿 (冷泉 為則卿)	民部卿 (冷泉 為則卿)	読師：権大納言 (大 炊御門経久卿)、講 師：雅久朝臣 (飛鳥 井侍従)、発声：源 中納言 (庭田重能 卿)	国会本仙洞 有 榎川宮本	中宮御歌「さほ姫の霞のころもかさねてぞはるはは見ゆ れ山のはのそら」(光格天皇御製)の次に記載。女房達： しん大納言、権中納言、あやめの小路、匂当内侍、中將 のないし、命婦いせ、命婦白晝、伊賀、紀伊 (巻末)。「和 歌御会始ヲ行ハル、出御、御製アラセラル」(光格天皇 実録)
文化15年 1月24日	48	御会始	内裏	貴賤迎春	ことぶくにその品からはか はれどもおなじ心よきみが 代の春 (院御製)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	読師：中山大納言 (忠頼卿)、講師：光 成 (藤橋弁)、発声： 綾小路三位 (有長 卿)	国会本内裏 有 榎川宮本	仁孝天皇御製 (巻頭)の次に光格上皇御製 (院御製) が 掲載。中宮御歌、なし。仁孝天皇御製「しづのめがつむ や雪まの若なにも雲あへだてぬはるはしられて」(巻 頭)。女御・女房達：女御御方、宰相典侍、権典侍、新 大納言、権中納言、匂当内侍、中将内侍、侍従内侍、命 婦伊豫、命婦白晝、命婦大御乳、伊賀 (巻末)
文化15年 2月5日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文化15年 2月11日	48	当座御会始	内裏	組題30首 (1~3字 題) 光格：松	すべらぎの代々のためしも 縁そふ雲井の松の春の言の 葉 (院御製)	冷泉前大納言 (為章卿)	万里小路中納 言 (建房卿)	講師：雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	国会本内裏 有 榎川宮本	仁孝天皇御製「立春：うちはへて春くる今朝は吹風の池 のこほりをまだとくらし」(巻頭)
文化15年 2月11日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文化15年 2月20日	48	当座御会始	仙洞	組題30首 (2字題) 光格：朝霧	朝附日かすみてにほふ影 とゝもにねくらを出る鶯の ころ	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	源中納言 (庭 田重能卿)	講師：雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	国会本仙洞 有 榎川宮本	「和歌当座御会始ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇 実録)
文化15年 2月21日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文化15年 2月22日	48	水無瀬宮御 法楽	内裏	組題20首 (1~2字 題) 仁孝：河霞		冷泉前大納言 (為章卿)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	講師：経則 (勸修寺 弁)	国会本内裏	仁孝天皇御製「河霞：水無せ河せの氷も今朝は先春を しらせて霞むのどけさ」
文化15年 2月22日	48	水無瀬宮御 法楽	仙洞	組題3首 (1字題) 光格：花	思ひねの夢の面影覚ぬらし まひひらけたる今朝の初花	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	講師：光成 (広橋弁)	国会本仙洞 有 榎川宮本	「小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披講アリ」(光格天 皇実録)
文化15年 2月24日	48	月次御会	内裏	組題100首 (1~2 字題) 仁孝：霞、逢 恋		左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)		国会本内裏	仁孝天皇御製「霞：この朝け舟漕出る浦のなみ塩路はる かにかすむのどけさ、逢恋：うさ月日すまし思ひのつれ なさもわすれてよよかはずまくら」
文化15年 2月25日	48	聖廟御法楽	内裏	組題50首 (2~3字 題) 仁孝：早春梅		冷泉前大納言 (為章卿)	源中納言 (庭 田重能卿)	雅久朝臣 (飛鳥井侍 従)	国会本内裏	仁孝天皇御製「早春梅：のどけしなつこへたてぬ春風 に此神がきの梅ぞにほへる」
文化15年 2月25日	48	聖廟御法楽	仙洞	組題50首 (1~3字 題) 光格：霞春式	佐保姫の春の心のめたけさ はよにみてる袖のかすみ そしる	冷泉前大納言 (為章卿)	万里小路中納 言 (建房卿)	基仲朝臣 (東園頭中 将)	国会本仙洞 有 榎川宮本	「小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披講アリ」(光格天皇実 録)
文化15年 2月28日	48	当座御会	内裏	組題20首 (2~3字 題) 仁孝：花映日		左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「花映日：久堅の天の戸出る朝日かけ梢の 花の色をそふらし」



年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項の御所作	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政1年 5月27日	48		仙洞		寛政の御遊のため出御。第の御所作				光格天皇実録	
文政1年 6月1日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社に参拝				光格天皇実録	
文政1年 6月13日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社に参拝				光格天皇実録	
文政1年 6月21日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政1年 6月24日	48	月次御会	内裏	組題100首 (2~3字題) 仁孝：殿遣火、山家		雅久朝臣 (飛鳥井侍従)	左衛門督 (飛鳥井雅光卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「殿遣火：さらでだにいぶせき夏のしづがやに煙たつてかやりをぞなく、山家：よるはなれしづかにすめるなるらひとて人もとひこぬおのひのいほ」
文政1年 6月25日	48	聖廟御法楽	仙洞	組題50首 (2字題) 光格：納涼	手にならず肩もしばしわすれ水むすべはすゝし杜の下かげ	民部卿 (冷泉為則卿)	右兵衛督 (藤谷為脩卿)	講師：為全朝臣 (冷泉侍従)	国会本内裏 国会本仙洞 有栖川宮本	「小御所に於て聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実録)
文政1年 6月25日	48	聖廟御法楽	内裏	組題50首 (2~3字題) 仁孝：藤羅麦		民部卿 (冷泉為則卿)	万里小路中納言 (建房卿)	講師：俊明朝臣 (坊城頭弁)	国会本内裏	仁孝天皇御製「藤羅麦：藤羅もいろにぞつる夏草のしける籠のなでこの花」
文政1年 7月1日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政1年 7月7日	48	七夕御会	内裏	七夕喜晴	一年のくもきりはれし天のかほしものこゝろも空に見えつゝ (院御製)	民部卿	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製 (巻頭)、光格上皇御製の順に挿載。中宮御歌なし。仁孝天皇御製「雲きりははつあきかげに晴てけふちざりうれしくほくはやあふらむ」。女御・女房連：女御御方、大典侍、幸相典侍、権典侍、新大納言、権中納言、勾当内侍、侍従内侍、命婦伊豫、命婦伯耆、命婦大御乳、伊賀
文政1年 7月14日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政1年 7月14日	48		仙洞		光格上皇、柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政1年 7月18日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政1年 7月20日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政1年 7月24日	48	月次御会	内裏	女郎花、秋風、寄糸恋		為全朝臣 (冷泉侍従)	右衛門督 (驚尾隆純卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「女郎花：をみなへしさげる野原にかりねして契りわすれぬ露のたまくら、秋風：今朝ははや庭のおき原そよぎつゝ袂すゝ袂すゝしき秋かせぞふく、寄糸恋：うき中にかけてもあはぬかたいたを玉の緒にとはなと思ひけむ」
文政1年 8月24日	48	月次御会	内裏	組題100首 (2~4字題) 仁孝：江月、月前雁		民部卿 (冷泉為則卿)	右衛門督 (驚尾隆純卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「江月：秋ふかくまきみだるゝむらあしの露の玉江にすめるつきかげ、月前雁：雲もなしつきすめよの天のとにこゑをほにあげてわたる雁がね」
文政1年 8月28日	48	当座御会	内裏	組題20首 (2字題) 仁孝：河霧		民部卿 (冷泉為則卿)	万里小路中納言 (建房卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「河霧：大ぬ川くたす俺もみえわかす秋霧深き浪の夕暮」
文政1年 9月1日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社に参拝				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表— 文政期編

文政1年 9月9日	48	重陽御会	内裏	菊花久歳		冷泉前大納言 (為重卿)	民部卿(冷泉 為則卿)	国会本内裏	仁孝天皇御製「ふりせじなこゝのがさねににほへるもなほなが月のしらくのはな」。女御・女房達：女御御方、勾当内侍、侍従内侍、命婦伊豫、命婦伯耆、命婦大御乳
文政1年 9月15日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政1年 9月24日	48	月次御会	内裏	秋時雨、紅葉、海辺朝		為全朝臣(冷泉侍従)	雅久朝臣(飛鳥井侍従)	国会本内裏	仁孝天皇御製「秋時雨：さらでだに秋のゆふへは物つきにさびしさぞへて時雨降なり、紅葉：露にそめ霜にぬれつゝ紅葉のさびさかくなる秋の此ごろ、海辺朝：沖つかせ朝ざりはるゝ浪の上にあらははれ出る浦の初しま」
文政1年 10月6日	48		内裏		閑院宮一品美仁親王薨去(62歳)			光格天皇実録	
文政1年 10月19日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政1年 10月24日	48	月次御会	内裏	組題10首(1~4字題)寄名所恋		雅久朝臣(飛鳥井侍従)	左衛門督(飛鳥井雅光卿)	国会本内裏	仁孝天皇御製「寄名所恋：いつ泣かあはでの社の夕時雨袖のみぬれて年のへぬらん」
文政1年 10月27日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政1年 11月5日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社・柿本社に参拜			光格天皇実録	
文政1年 11月7日	48		仙洞		上下御霊社に来たる十日より七日間、御祈禱を仰せつゝ			光格天皇実録	
文政1年 11月10日	48		内裏		禁裏に御幸。仁孝天皇に大嘗会神饌の御伝授を相伝			光格天皇実録	
文政1年 11月17日	48		内裏		禁裏に御幸。仁孝天皇、大嘗会御習礼のため延立殿に出御のため、同殿に渡御			光格天皇実録	
文政1年 11月21日	48		内裏		大嘗会のため禁裏に御幸。悠紀殿に渡御			光格天皇実録	
文政1年 11月22日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政1年 11月23日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政1年 11月24日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政1年 12月1日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社に参拜			光格天皇実録	
文政1年 12月2日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政1年 12月5日	48		内裏		光格上皇、禁裏の内侍所臨時御神楽に内々に御幸			光格天皇実録	
文政1年 12月10日	48		仙洞		光格上皇、中宮御所に渡御			光格天皇実録	
文政1年 12月18日	48		仙洞		光格上皇、中宮御所に渡御			光格天皇実録	
文政1年 12月24日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸			光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名 月次御会	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政4年 12月28日	48		内裏	組廻100首(かな纏) 仁孝：すみがま、た け	光格天皇御製および事項	左衛門尉(飛鳥井推光卿)	民部卿(冷泉為則卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「すみがま：雪の色もかすむとみしは小野山にやく炭がまの煙なりけり、たけ：九重に千世万代を契りつゝうつてなの竹のいやさかふ塵」
文政2年 1月1日	49		仙洞		四方拜のため出御、諸臣拜礼。朝餉において御園園				光格天皇実録	
文政2年 1月3日	49		仙洞		吉書御覧のため出御				光格天皇実録	
文政2年 1月4日	49				禁裏への御幸始を延引				光格天皇実録	
文政2年 1月7日	49		仙洞		白馬御覧のため出御				光格天皇実録	
文政2年 1月8日	49		仙洞		一月六日、皇女城宮養去により、一月八日より三日間、物音を停む				光格天皇実録	
文政2年 1月11日	49		仙洞		節分方遣のため別殿(呉服所)に渡御。豊岡三位、実久、久延、基延等を召す				光格天皇実録	
文政2年 1月13日	49		仙洞		諸礼のため牛刻前に小御所に出御、千秋万歳御覧。次に、太元御法・後七日御修法結願のため弘御所に出御、僧等に謁す				光格天皇実録	
文政2年 1月16日	49		内裏		禁裏に御幸始を追行				光格天皇実録	
文政2年 1月18日	49	御会始	仙洞	天晴有勸声	声たかみふりざけみれば天の原日影うらゝにたつぞまふなる	左衛門督(明日香井推光卿)	権中納言(庭田重能卿)	読師：中山大納言(忠頼卿)、講師：光成(広橋右中弁)、免声：左衛門督(明日香井推光卿)	国会本仙洞 有栖川宮本	中宮御歌「さし出る朝日のそらのこ糸おのか心もはれわたるらし」(光格天皇御製の次に記載)。女房連：大すけ、新大納言、おやゆめ小路、勾当内侍、命婦伊与、命婦ほろぎ、伊賀、紀伊(巻末)。「和歌御会始ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政2年 1月19日	49		仙洞		皇子狝宮養去により、三日間、物音を停む				光格天皇実録	
文政2年 2月2日	49		仙洞		前右大臣徳大寺実祖の養去により、三日間、物音を停む				光格天皇実録	
文政2年 2月5日	49		内裏		仁孝天皇が痲瘋を病まれたため禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 2月8日	49		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 2月10日	49		仙洞		中宮御所に渡御				光格天皇実録	
文政2年 2月22日	49		仙洞		夜、別殿に渡御。男女を召さす				光格天皇実録	
文政2年 4月7日	49		仙洞		夜、別殿に渡御。男女を召さす				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表—文政期編

文政2年 4月27日	49		内裏					石清水臨時祭が行われるた め禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政2年 後4月13日	49		内裏					禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政2年 後4月16日	49	水無瀬宮御 法楽(去二 月廿二日御 延引)	仙洞	組題20首(2~4字 題)光格:晩春月				ならひととてわりなきかげよ 春更しありあけの月もかす みこめつゝ	民部卿(冷泉 為則卿)	藤屋中納言 (隆純卿)	雅久朝臣(明日香井 侍従)	国会本仙洞 有栖川宮本	光格天皇実録	【小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ】(光格天 皇実録)
文政2年 後4月19日	49		仙洞					夜、別殿(呉服所)に渡御。 大原三位、恭光等を召す				光格天皇実録		
文政2年 後4月20日	49	聖廟御法楽 (去二月廿 五日御延 引)	仙洞	組題50首(3字題) 光格:花未開				雨そゝぎ春のひかりもつる ふ枝といまいく日あらは花 に見てまし	為全朝臣(冷 泉侍従)	為全朝臣(冷 泉侍従)	講師:顕孝(葉室権 右中弁)	国会本仙洞 有栖川宮本		
文政2年 後4月21日	49	和歌当座御 会	仙洞	組題30首(2字題) 光格:若菜				響まよいくさのほつかに見 る色も春をわかぬのかすが の>はら	左衛門尉(明 日香井雅光 卿)	為全朝臣(冷 泉侍従)	講師:顕孝(葉室権 右中弁)	国会本仙洞 有栖川宮本	【和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル】(光格天皇実 録)	
文政2年 後4月23日	49		内裏					光格上皇、禁裏に御幸し 内々に能御覽				光格天皇実録		
文政2年 5月2日	49	御会始	内裏	寄世祝言				すべらざは神のまもりも八 百よろつ三種のたから御代 のひかりに(院御覧)	民部卿(冷泉 為則卿)	雅久(明日井 侍従)	読師:中山大納言 (忠輝卿)、講師:顕 孝(葉室権右中弁)、 発声:権中納言(庭 田重能卿)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製(巻頭)、光格上皇御製、中宮御歌の順に 記載。仁孝天皇御製【四方の海をさまる世とてくにつた みにぎはひうたふたふとゑもゆたげし、中宮御歌【くにつた みもをさまれるよのときなりといはふ心はつぎせざるら し】。女御御方・女房連:女御、大弐侍、権中納言、侍従内侍、 督のすげ、新大納言、権中納言、勾当内侍、侍従内侍、 命婦伊与、命婦伯耆、命婦大御乳、伊賀(巻末)	
文政2年 5月7日	49		仙洞					鎮守社に参拝				光格天皇実録		
文政2年 5月8日	49	当座御会	内裏	組題30首(3字題) 光格:萩花盛				鎮守社・柿本社に参拝	民部卿(冷泉 為則卿)	左衛門督(明 日香井雅光 卿)	講師:為全朝臣(冷 泉侍従)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製:「早春露:春あさみざりにふれる白ゆ さはまだ消なくにかずむ山のは」(巻頭)	
文政2年 5月18日	49		内裏					禁裏に御幸				光格天皇実録		
文政2年 5月21日	49	和歌当座御 会	仙洞	組題20首(2字題) 仁孝:郭公				鎮守社・柿本社に参拝	左衛門督(明 日香井雅光 卿)	為全朝臣(冷 泉侍従)		光格天皇実録		
文政2年 5月22日	49	水無瀬宮御 法楽(去二 月分)	内裏	組題20首(1~2字 題)仁孝:若菜					民部卿(冷泉 為則卿)	為全朝臣(冷 泉侍従)	講師:雅久朝臣(明 日香井侍従)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「郭公:あしひきの山ほとゝぎすをちかへ りたえすかたらふ五月雨のぞら」。有栖川宮本には、仁 孝天皇御製に「後日被改」と注記あり	
文政2年 5月23日	49		内裏					禁裏に御幸				光格天皇実録	仁孝天皇御製「若菜:きえあへぬ雪まをわけてもえいつ る野へのわかなをつむものどけし」	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政2年 5月24日	49	月次御会	内裏	組題100首(2字題) 仁孝：初春、田家	光格天皇御製および事項	左衛門督(明日香井雅光卿)	權中納言(庭田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「初春：朝日かげにほへる山のかすむこそゆき消もよほすはるはたつらぬ。田家：しづかすむ門田のさなへなつたけて藤吹ちらす風のすゝしさ」
文政2年 5月25日	49	聖廟御法楽 (芸二二分)	内裏	組題50首(1字題) 仁孝：霞		左衛門督(明日香井雅光卿)	右衛門督(万里小路建房卿)	顯孝(葉室權右中弁)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「霞：一よまの春にあげゆへ此朝けこの神がきのかすむのどけさ」(巻頭)
文政2年 6月2日	49		仙洞		夜、別殿(呉服所)に遊御。 權中納言、保右朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政2年 6月11日	49		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政2年 6月16日	49		仙洞		嘉祥の儀に出御				光格天皇実録	
文政2年 6月17日	49		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 6月22日	49		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政2年 6月24日	49	月次御会	内裏	夕立雲、松下水、後朝恋		民部卿(冷泉為朝卿)	右衛門督(万里小路建房卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夕立雲：風はやみやみーむらきほふ夕だちの雲にきこゆるなるかみのおと、松下水：あつさをもりすれてむすぶ山かげの松のしたゆく水ぞすゝしき、後朝恋：衣々のなごりつきせでおもかげのかへるあしたも身にそふはうし」
文政2年 6月25日	49	聖廟御法楽	仙洞	組題10首(2字題) 光格：蚊火		雅久朝臣(明日香井侍従)	右兵衛督(藤谷為脩卿)	講師：光成(広橋石中弁)	国会本仙洞 有栖川宮本	「小御所二於于聖廟御法楽ノ披露アリ」(光格天皇実録)
文政2年 6月25日	49	聖廟御法楽	内裏	組題10首(2字題) 仁孝：夏野		為全朝臣(為全朝臣)	雅久朝臣(飛鳥井侍従)	講師：為全朝臣(冷泉侍従)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏野：あつさ弓入のすゝきしげりあひて行かたたどる夏のこのころ」
文政2年 6月30日	49		仙洞		六月祓に出御、茅輪あり。				光格天皇実録	
文政2年 7月7日	49	七夕御会	内裏	七夕草花	舟よするあまのかはらの花すゝきまねきとめてよあけやすき夜も(院御製)	左衛門督(明日香井雅光卿)	為全朝臣(冷泉侍従)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製(巻頭)、光格天皇御製、中宮御歌の順に記載。仁孝天皇御製「ほしやなほあかすめつらんおりにあひてけふさきそめし花の千種を」。中宮御歌「ゆふ露をうちもはらばらばらむけまほしほのいもせのこ夏の花」。女御・女房達：女御御方、宰相典侍、舊典侍、新大納言、権中納言、勾当内侍、侍従内侍、命婦伊与、命婦伯耆、命婦大御乳、伊賀(巻末)
文政2年 7月14日	49		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 7月16日	49		仙洞		夜、別殿(呉服所)に遊御。 花山院大納言、公元朝臣を召す				光格天皇実録	
文政2年 7月21日	49		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政2年 7月24日	49	月次御会	内裏	組題100首(3~4字題) 仁孝：水辺萩、月夜萩		雅久朝臣(明日香井侍従)	左衛門督(明日香井雅光卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「水辺萩：かけつるまきの萩はきさくころほにしきをさらす池のさゝなみ、月夜萩：かきりなきちきりは千年久かたの露井のあきとすめる月影」

光格上皇主催御会和歌年表 一文政期編

文政2年 7月27日	49		内裏		禁裏に御幸						光格天皇実録	
文政2年 8月1日	49		仙洞		八朔の儀						光格天皇実録	
文政2年 8月16日	49	当座御会	内裏	組題20首 (3~4字 題) 光格：河辺月	よど河や夜舟いざよふつき きりもはれわたる波ぞ月に なりゆく (院御製)	権中納言 (明 田重能卿)	雅久朝臣 (明 日香井侍従)				国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月前雲：きえやらでたなびくよひのつき 雲をはらひつづくせよ月の下風」
文政2年 8月16日	49		内裏		禁裏に御幸						光格天皇実録	
文政2年 8月18日	49		仙洞		鎮守社・柿本社に参拜						光格天皇実録	
文政2年 8月24日	49	月次御会	内裏	秋夕露、水上月、風 前雁		為全朝臣 (冷 泉侍従)	雅久朝臣 (明 日香井侍従)				国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「秋夕露：秋といへばふく風さへもさびし きにあはれそへたるゆふぐれつゆ。水上月：久かたの そらすむ月のかけ見えて秋はさやけきにはのいけみつ、 風前雁：このあざけきくもめつらし秋風にさそはれわた るはつかりのこゑ。」
文政2年 8月30日	49		仙洞		仁孝天皇への和歌天仁遠波 伝受のため、玉津島・住吉 両社、月照寺に便いを運わ し、御撫物を進献						光格天皇実録	
文政2年 9月9日	49	重陽御会	内裏	月照菊		為全朝臣 (冷 泉侍従)	右衛門督 (万 里小路建房 卿)				国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「すみわたる月のひかりにみがく、れて霞も くもらずにほふ白さぎ」。女御・女房達；女御御方、督 典侍、写当内侍、命婦伊与、命婦伯耆、命婦大御乳 (卷 末)
文政2年 9月13日	49	当座御会	仙洞	組題20首 (3~5字 題) 光格：月前風	くさ木にはしらわれぬ夜半の 風の色も月をよぎたる雲に 見えけり	為全朝臣 (冷 泉侍従)	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)				国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」 (光格天皇実 録)
文政2年 9月15日	49		内裏		禁裏に御幸						光格天皇実録	
文政2年 9月18日	49	神影供	仙洞	菊花露芳	仙人のあきのかざしのさく の露にほひもちよのぶちと なるらし	為全朝臣 (冷 泉侍従)	左衛門督 (明 日香井雅光 卿)	講師：花山院大納言 〔兼厚卿〕、講師：為 全朝臣、奏声：持明 院三位 (基延卿)			国会本仙洞 有栖川宮本	「柿本神影供ヲ行ハル、出御アラセラル」 (光格天皇実録)
文政2年 9月21日	49		内裏		禁裏に御幸し、仁孝天皇に 和歌天仁遠波伝受を相伝						光格天皇実録	
文政2年 9月24日	49	月次御会	内裏	組題100首 (3~4 字題) 仁孝：露添紅 葉、寄玉恋		民部卿 (冷泉 為則卿)	為全朝臣 (冷 泉侍従)				国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「露添紅葉：そめつくす木々の紅葉の色を 又なほいくしほにそふる夕露。寄玉恋：袖にちるなみだ のたまのかずそひてあふことかたきよなよなのこと」
文政2年 9月24日	49		仙洞		壽山亭で覆箱を御覧						光格天皇実録	
文政2年 9月25日	49		仙洞		管絃の御遊のため出御。等 の御所作						光格天皇実録	
文政2年 9月30日	49	当座御会	内裏	組題30首 (1~3字 題) 光格：旅	四方のくにをさままる君が御 代なれや野やまのたむも道 ひろくして (院御製)	民部卿 (冷泉 為則卿)	左衛門督 (明 日香井雅光 卿)	講師：光成朝臣 (廣 橋頭弁)			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「松上露：此朝け春立ちらしもときはなるま つのみどりのかすむしほ」 (巻頭)
文政2年 9月30日	49		内裏		禁裏に御幸						光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政2年 10月2日	49		仙洞		十月二日・三日の両日、仙洞御所で、後醍醐天皇の七回聖忌を引上げて法華勧法を行う。出御				光格天皇実録	
文政2年 10月7日	49	当座御会	仙洞	組題30首 (2~3字 題) 光格：鶯告春	ゆきとくくる松のうぐひすさ かえそふこと葉の花の香を しるこゑ	為全朝臣 (冷 泉侍従)	鷲尾中納言 (降純卿)	講師：為全朝臣 (冷 泉侍従)	国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル」(光格天皇実録)
文政2年 10月10日	49		仙洞		玄猪の儀				光格天皇実録	
文政2年 10月17日	49		仙洞		参議飛鳥井雅光に和歌天仁 速波伝受を相伝				光格天皇実録	
文政2年 10月18日	49		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政2年 10月20日	49		内裏		仁孝天皇の御代始の御染始 のため、祭裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 10月23日	49		内裏		内々に仕舞雜子能を御覧の ため、祭裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 10月24日	49	月次御会	内裏	十月見紅葉、残菊留 秋、浦松風		民部卿 (冷泉 為則卿)	権中納言 (庭 田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「十月見紅葉・神無月しぐれしくれてもみ ち葉の秋にもまさる干しほをぞ見る、残菊留秋：おく霜 にかれてもきくのほふこそ秋のなごりを糴のこしけ れ、浦松風：すみよしや浦わのまつの風の風のごさもいく干 よよばふ神のめぐみに」
文政2年 11月17日	49		仙洞		十一月二十四日に閏院宮孝 仁親王に和歌天仁速波伝受 を、十二月二日に関白一条 忠良に三部抄伝受を相伝す るために、翌十八日から七 日間、上御霊・下御霊・北 野の三社に御祈禱を仰せつ く				光格天皇実録	
文政2年 11月21日	49		内裏		祭裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 11月22日	49		仙洞		別殿 (呉服所) に渡御、新 源三位、基逸朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政2年 11月24日	49		仙洞		閏院宮孝仁親王に和歌天仁 速波伝受を相伝 (御賀宴 間)				光格天皇実録	
文政2年 11月24日	49	月次御会	内裏	組題100首 (1~3 字題) 仁孝：神楽、 初達恋、河		雅久朝臣 (明 日香井侍従)	民部卿 (冷泉 為則卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「神楽：おもしろく神ぞさくらしとどりどりに ふくふえ竹やうたふさかき葉、初達恋：おもひわひむ すほほれしもむきかへてとけそめにける中の下ひも、 河：まもります神のめぐみみ五十鈴川ながれのす系は 代々にたえせし」
文政2年 11月27日	49		内裏		祭裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 12月2日	49		仙洞		関白一条忠良に和歌三部抄 伝受を相伝 (御賀宴間)				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表 — 文政期編

文政2年 12月7日	和歌当座御 会	仙洞	組題30首 (1～4字 題) 光格：霞	花鳥の春の色音を先こめて 見せもかきせもかすむ初し は	雅久朝臣 (明 日香井侍從)	民部卿 (冷泉 為則卿)	国 会 本 仙 洞 有 烟 川 宮 本	〔和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル〕 (光格天皇実 録)
文政2年 12月23日		内裏		内々に仕舞躰子を御覧のた め、禁裏に御幸			光 格 天 皇 実 録	
文政2年 12月24日	月次御会	内裏	鷹狩、埋火、恋衣		左衛門尉 (明 日香井雅光 卿)	右兵衛尉 (藤 谷為脩卿)	国 会 本 内 裏 有 烟 川 宮 本	仁孝天皇御製「鷹狩：ふる雪のさむさもしらじかり人の 鳥立の野へにいざむこゝろは、埋火：よりそへばやがて さむさもわすれられてたちざりかたきうつみ火のもと、恋 衣：おもひあまりよりの衣をかへしてもうらみはかりの ゆめぞつれなき」
文政2年 12月25日	和歌当座御 会	内裏	組題30首 (2～3字 題) 仁孝：千鳥		為全朝臣 (冷 泉侍從)	民部卿 (冷泉 為則卿)	国 会 本 内 裏 有 烟 川 宮 本	仁孝天皇御製「千鳥：あらいその涼のさわさのむら千鳥 いつこの浦になきわたらむ」
文政2年 12月26日		仙洞		御有卦明の賞宴のため出御			光 格 天 皇 実 録	
文政2年 12月27日		仙洞		前権大納言四辻公直が、光 格上皇に、蘇合香、簪を相 伝			光 格 天 皇 実 録	
文政3年 1月1日		仙洞		四方拜のため出御			光 格 天 皇 実 録	
文政3年 1月2日		仙洞		朝餉において御齒固、拜 礼。小御所に出御、諸臣に 講す			光 格 天 皇 実 録	
文政3年 1月3日		仙洞		吉書御覧のため出御			光 格 天 皇 実 録	
文政3年 1月4日		内裏		禁裏に御幸始			光 格 天 皇 実 録	
文政3年 1月7日		仙洞		千秋万歳・白馬御覧のため 出御			光 格 天 皇 実 録	
文政3年 1月13日		仙洞		諸礼のため弘御所・小御所 に出御			光 格 天 皇 実 録	
文政3年 1月14日		仙洞		太元帥法・後七日御修法結 願のため弘御所に出御、尚 法阿闍梨に講す			光 格 天 皇 実 録	
文政3年 1月15日		仙洞		御吉書・三替打のため出御			光 格 天 皇 実 録	
文政3年 1月18日	和歌御会始	仙洞	松有春色	雪のうちもまつの常盤は頭 れしいまひとしほのはるの 色かな	為全朝臣 (隆純卿)	鷹尾中納言 (隆純卿)	国 会 本 仙 洞 有 烟 川 宮 本	女房達：大すけ、新大納言、権中納言、権中納言、あやめの小路、 勾当内し、命婦伊世、命婦伊志、命婦はうき、伊賀、紀伊 (卷末)。 〔和歌御会始ヲ行ハル、出御、御製アラセラル〕 (光格天 皇実録)
文政3年 1月24日	和歌御会始	内裏	江上春望	山本は鶯のねもかすむ日の はるゝ入江にうかぶ揚草 (院御製)	雅久朝臣	為全朝臣 (冷 泉侍從)	国 会 本 内 裏 有 烟 川 宮 本	仁孝天皇御製 (巻頭)、光格上皇御製の順に記載。中宮 御歌なし。仁孝天皇御製「またなくのみまのどかに鶯 みつゝ梅が香にほふなには江のはる」。女御・女房達： 女御御方、大興侍、宰相典侍、齋典侍、新大納言、権中 納言、勾当内侍、侍從内侍、命婦伊よ、命婦白書、命婦 大御乳、伊賀 (卷末)

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政3年 1月28日	50		仙洞		光格天皇御製および事項 有栖川宮頼仁親王へ和歌天 仁遠波伝受の相伝のため、 二月一日より七日間、上御 霊・下御霊・北野三社に御 祈禱を仰せつく				光格天皇聖纂	
文政3年 2月1日	50		仙洞		鎮守社に参拜				光格天皇聖纂	
文政3年 2月4日	50	当座御会	内裏	組題30首(2字題) 光格上皇：旅行	朝な朝な霞とくもに立いつ るたびちも春はのどけかり けり(院御製)	左衛門督(飛 鳥井雅光卿)	雅久朝臣(飛 鳥井侍従)	講師：為全朝臣(冷 泉侍従)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早春：浅みどりかすみの式立そめてまだ さ着しる朝戸出の空」(巻頭)
文政3年 2月4日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇聖纂	
文政3年 2月5日	50		仙洞		夜、別殿に渡御(小御所)。 豊岡三位、重徳等を召す				光格天皇聖纂	
文政3年 2月10日	50		仙洞		有栖川宮頼仁親王へ和歌天 仁遠波伝受を相伝(御賀宴 間)				光格天皇聖纂	
文政3年 2月20日	50		仙洞		有栖川宮頼仁親王、薨去				光格天皇聖纂	
文政3年 2月21日	50		仙洞		有栖川宮頼仁親王薨去によ り、三日間物音を停む				光格天皇聖纂	
文政3年 2月25日	50	聖廟御法楽	仙洞	組題50首(2字題) 光格：春雪	春を浅み猶もさえて沫雪の ちりかふ空は霞むともなき	左衛門督(飛 鳥井雅光卿)	雅久朝臣(飛 鳥井侍従)	頭孝(葉室弁)	国会本仙洞 有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇聖 纂)
文政3年 2月25日	50	聖廟御法楽	内裏	組題50首(2~3字 題)仁孝：初春風		為全朝臣(冷 泉侍従)	民部卿(冷泉 為則卿)	講師：為全朝臣(冷 泉侍従)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「初春風：昨日みし雪げの雪を吹すて>今 朝はのどけき春の初風」(巻頭)
文政3年 2月26日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇聖纂	
文政3年 2月28日	50	月次御会	内裏	組題20首(1~3字 題)仁孝：霞、忍恋、 旅		左衛門督(飛 鳥井雅光卿)	左衛門督(飛 鳥井雅光卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「霞：雪残る深山のおくも霞みけり春のい たらぬかたはあらじな、忍恋：いかゞせむうきなてし と忍ぶれど思ひの原よそにみえなば、旅：さかりなる旅 路の花を分行に鑑わすられぬ故郷の春」
文政3年 3月17日	50		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 男方召さず				光格天皇聖纂	
文政3年 3月20日	50	当座御会	仙洞	組題30首(2字題) 光格：松霞	朝露棚引にけり山松のゆき げの積立まさりつ>	民部卿(冷泉 為則卿)	右衛門督(万 里小路建房 卿)	講師：光成朝臣(廣 橋頭弁)	国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇聖 纂)
文政3年 3月22日	50		仙洞		御有卦入の賀宴のため出御				光格天皇聖纂	
文政3年 3月22日	50	水無瀬宮御 法楽(去月 分)	内裏	組題20首(3字題) 仁孝：柳帯露		民部卿(冷泉 為則卿)	右兵衛督(藤 谷為脩卿)	講師：顕孝(葉室弁)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「柳帯露：露露の玉のをなれやゆるく吹か ぜによらる>青柳のいと」
文政3年 3月24日	50	月次御会	内裏	藤、蛙、舟		冷泉前大納言 (為草卿)	右衛門督(万 里小路建房 卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝行天皇御製「藤：池さしの岩ねににほふち波やい くよの春をかけて咲らむ、蛙：なが行春の日はかすをか は水にせよとめて鳴蛙なるらし、舟：見るが中に行へも 速くなるみかた波路をわくる沖のとも舟」

光格上皇主催御会和歌年表一文政期編

文政3年 3月24日	50					禁裏に御幸							光格天皇実録		「柿本神影供ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政3年 3月28日	50	神影供	内裏	仙洞	社頭桜花	神垣はやはらく春の影そひ てちるべくもあらぬ桜花か な	民部卿(冷泉 為則卿)	為全朝臣(冷 泉侍從)	詠師：甘露寺前大納 言(国長卿)、講師： 隆光(御原弁)、発 声：左衛門督(飛鳥 井雅光卿)				国 会 本 仙 洞 有 栖 川 宮 本		
文政3年 4月5日	50		仙洞			御有卦入の御祝を行われ 内々に猿蓑御覽							光格天皇実録		
文政3年 4月8日	50		内裏			禁裏に御幸							光格天皇実録		
文政3年 4月11日	50	水無瀬宮御 法楽(去二 月分)	仙洞	仙洞	組題20首(1~2字 題)光格：早春	うちぢさす都の空の霞より 世に花鳥の春はしるしも	雅久朝臣(飛 鳥井侍從)	右衛門督(万 里小路建房 卿)	講師：隆光朝臣(柳 原弁)				国 会 本 仙 洞 有 栖 川 宮 本		「小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天 皇実録)
文政3年 4月16日	50		内裏			禁裏に御幸							光格天皇実録		
文政3年 4月25日	50		仙洞			前左大臣近衛基前の薨去の ため三日間、物音を停む							光格天皇実録		
文政3年 4月28日	50	月次御会	内裏	内裏	組題100首(2~4 字題)仁孝：簷新樹、 見月、寄鳥恋		雅久朝臣(飛 鳥井侍從)	鷹尾中納言 (隆純)					国 会 本 内 裏 有 栖 川 宮 本		仁孝天皇御製「簷新樹：花になれし梅も桜も茂りありあひて 軒ばの樹々ぞ面がはりせ。見月：名にしおふ萩の藤中 もよよとぞとみるにくまなく澄る月かけ。寄鳥恋：待人 はこぬよ更行槇の戸をうしや水鷗の向た>>>くらん
文政3年 4月28日	50		仙洞			夜、別殿(小御所)に遊御。 大原三位、実久朝臣等を召 す							光格天皇実録		
文政3年 5月1日	50		仙洞			鎮守社に参拜							光格天皇実録		
文政3年 5月2日	50		内裏			禁裏に御幸							光格天皇実録		
文政3年 5月4日	50	和歌当座御 会	内裏	内裏	組題20首(1~2字 題)仁孝：鶯		雅久朝臣(飛 鳥井侍從)	鷹尾中納言 (隆純卿)					国 会 本 内 裏 有 栖 川 宮 本		仁孝天皇御製「鶯：新玉の年のはじめに吉初て千世の春 しる鶯の声」(巻頭)
文政3年 5月13日	50		仙洞			常御所修復のため、十三日 より連日小御所に渡御							光格天皇実録		
文政3年 5月17日	50		内裏			禁裏に御幸							光格天皇実録		
文政3年 5月21日	50		仙洞			壽山亭で辨秋を御覽							光格天皇実録		
文政3年 5月24日	50	月次御会	内裏	内裏	夏月、夏花、夏虫		為全朝臣(冷 泉侍從)	雅久朝臣(飛 鳥井侍從)					国 会 本 内 裏 有 栖 川 宮 本		仁孝天皇御製「夏月：時しらぬ霜もおくかどなつ月のま さこにすめる影のすゝしさ。夏花：五月雨にうちそぼち つ>>咲おもる外面のあふち色ふかくみゆ。夏虫：よなよ なに影もみだれてとぶほたる何の思ひや身をこがすら ん」
文政3年 6月2日	50		仙洞			常御所の修復竣工により還 御							光格天皇実録		
文政3年 6月11日	50		仙洞			別殿(小御所)に渡御、花 山院大神言、通修等を召す							光格天皇実録		
文政3年 6月13日	50		内裏			禁裏に御幸							光格天皇実録		

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政3年 6月16日	50		仙洞		光格天皇御製に御出 嘉祥の儀に御幸				光格天皇御製	
文政3年 6月19日	50		内裏		菫裏に御幸				光格天皇御製	
文政3年 6月24日	50	月次御会	内裏	組題100首(2字題) 仁孝：夕立、鷹狩、 海村		民部卿(冷泉 為則卿)	為全朝臣(冷 泉侍従)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夕立：はげしくもきふとみてし夕立の はや速かたに鳴かみのおと 鷹狩：雪吹ちるかた野々み のを狩くらし帰る袂にさゆる山風、海村：漕かへる舟の 行へをみ渡せば里ひと村の漁人の家々」
文政3年 6月25日	50	聖廟御法楽	内裏	組題50首(1～3字 題) 仁孝：曉蛩		左衛門督(飛 鳥井雅光卿)	右衛門督(万 里小路建房 卿)	講師：隆光(柳原弁)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「曉蛩：燈はうすく成行有明の窓をてらし て蛩とぶかかけ」
文政3年 6月25日	50	聖廟御法楽	仙洞	組題50首(1～3字 題) 光格：蛩	秋近み未こす萩の中頃に露 とみだれて飛蛩かな	為全朝臣(冷 泉侍従)	左衛門督(飛 鳥井雅光卿)	侍 為全朝臣(冷泉 侍従)	国会本仙洞 有栖川宮本	「小御所二於于聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇御 製)
文政3年 6月16日	50		仙洞		六月祓に出御、茅輪あり				光格天皇御製	
文政3年 7月7日	50	七夕御会	内裏	星河秋興	五百機の錦よそほふ天河さ りのとほりも雲のは袖も (院御製)	為全朝臣(冷 泉侍従)	権中納言(庭 田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に掲載。大宮御歌な し。仁孝天皇御製「あまの河ふな出涼しく雲晴て月もさ やけさほし合のそら」(巻頭)。女房達：大すけ、幸相典 侍、督のすけ、新大納言、勾当内侍、命婦伊豫、命婦伯 耆、命婦大御乳、伊賀(巻末)
文政3年 7月14日	50		内裏		菫裏に御幸				光格天皇御製	
文政3年 7月21日	50		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 男女、召されず				光格天皇御製	
文政3年 7月24日	50	月次御会	内裏	竹露、聞鹿、秋恋		雅久朝臣	権中納言(庭 田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「竹露：秋風のはらふ跡より蘆あまる蘆の 竹の露のさやけさ、聞鹿：松風のふくにたくへてきこゆ 也秋の深山のさをしかの声、秋恋：わりなしや人の心の 秋のかぜ吹そめておく袖の白露」
文政3年 8月1日	50		仙洞		八朔の儀				光格天皇御製	
文政3年 8月17日	50		内裏		菫裏に御幸				光格天皇御製	
文政3年 8月24日	50	月次御会	内裏	組題100首(2～4 字題) 仁孝：秋露、 松風入琴、奇草恋		民部卿(冷泉 為則卿)	民部卿(冷泉 為則卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「秋露：百草の蘆のにしきあやなくもたち へだてたる今朝の秋露、松風入琴：かきならすもやのを ことの言をそへてえならすかふ事の松風、奇草恋：人 は忘れ我は忍ぶの草の右にこひつゝ年をふるぞつれな さ」
文政3年 8月26日	50		仙洞		鎮守社に参拜				光格天皇御製	
文政3年 8月28日	50	当座御会	内裏	組題20首(2字題) 光格：朝露	天の戸の明る光りも玉しけ る露の雲の秋のしら露(院 御製)	民部卿(冷泉 為則卿)	右衛門督(万 里小路建房 卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「松露：山まつの茂る緑も染かゝる露の紅 葉に秋をわくかけ」
文政3年 8月28日	50		内裏		菫裏に御幸				光格天皇御製	

光格上皇主催御会和歌年表—文政期編

文政3年 8月30日	50	当座御会	仙洞	組題20首(2~3字 題)光格:虫恨	草垣の露寒くなるうつらがれ によよひ虫の声恨むらん	為全朝臣(冷 泉侍従)	源中納言(庭 田重能卿)	国念本内裏 有栖川宮本 光格天皇実録	「和歌当座御会行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政3年 9月2日	50	重陽御会	内裏	対菊梨久	夜、別殿(小御所)に渡御。 男女、召されず	民部卿(冷泉 為則卿)	鷹尾中納言 (隆純卿)	国念本内裏 有栖川宮本 光格天皇実録	仁孝天皇御製「ちざりつゝ猫尾はやさむ千々の秋もおい せぬ菊のけふのさかりを」。光格上皇御製・大宮御歌な し。女房達:大典侍、宰相典侍、普典侍、勾当内侍、命 婦伯耆(卷末)
文政3年 9月11日	50		仙洞		鎮守社・椿本社に参拝			光格天皇実録	
文政3年 9月13日	50	和歌当座御 会	内裏	組題30首(3~4字 題)光格:月前松虫	松虫の声する方も白妙に月 すむ野へはいざとひゆかむ 〔院御製〕	為全朝臣(冷 泉侍従)	右兵衛督(藤 右為備卿)	国念本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「十三夜月:長月やさやけき影も今宵こそ なにおふよはと尚みくらめ」(巻頭)
文政3年 9月24日	50	月次御会	内裏	月前紅葉、瀧辺紅 葉、紅葉交松		為全朝臣(冷 泉侍従)	権中納言(庭 田重能卿)	国念本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月前紅葉:よるも猶月の光りのてらすよ り色をみざりの木々の紅葉、瀧辺紅葉、幾千守りより まげて落す瀧の糸を顔にそむる紅葉のかけ、紅葉交 松:枝かはすきしの紅葉の織しほに松の常盤も秋をわく らし」
文政3年 9月26日	50		内裏		内々に鴛葉御覧のため、禁 裏に御幸			光格天皇実録	
文政3年 10月4日	50		仙洞		玄袿の儀あり			光格天皇実録	
文政3年 10月5日	50		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政3年 10月15日	50		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 刑部卿、重徳等を召す			光格天皇実録	
文政3年 10月18日	50		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政3年 10月23日	50		仙洞		壽山亭で獲稻を御覧			光格天皇実録	
文政3年 10月24日	50	月次御会	内裏	組題100首(2~5 字題)仁孝:時雨晴 陰、野寒草、絹代		雅久朝臣(飛 鳥井侍従)	右兵衛督(藤 合為備卿)	国念本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「時雨晴陰:浮雲の立まよひつゝ村しくれ ふるかとみればはるゝ日の影、野寒草:あきにみし千種 の花のかけもななく霜がわねたる野へのさびしき、絹代: かゝり火の影更る夜も絹代もり猶いねやらず水魚や待ら ん」
文政3年 10月24日	50		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政3年 10月26日	50	和歌当座御 会	内裏	組題20首(3字題) 仁孝:草花露		雅久朝臣(飛 鳥井侍従)	為全朝臣(冷 泉侍従)	国念本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「草花露:秋霧のはる、まがきの朝ほらけ つゆに色そふ花の百草」
文政3年 10月30日	50	当座御会	仙洞	組題20首(3字題) 光格:蚊遣火	夕がほの花をどよよるしつ がやにあたら蚊遣の煙たつ 〔女〕	雅久朝臣(飛 鳥井侍従)	民部卿(冷泉 為則卿)	国念本内裏 有栖川宮本	「和歌当座御会行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政3年 11月17日	50		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政3年 11月20日	50		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名 月次御会	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政3年 11月24日	50		内裏	夜姿、雪、旅行	光格天皇御製および事項	冷泉前大納言 (為章卿)	権中納言(庭 田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夜姿：うつみ火はきゆともよしやかさね つ>冬をわする>小夜のをぶすま、雪：降つちる外山は かに見わたすも都へたてぬ今朝のしら雪、旅行：行す 泉のひなの長路を思ふよりのや遠さかる故さとのそら」
文政3年 11月27日	50		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 花山院大納言、隆起朝臣等 を召す				光格天皇実録	
文政3年 12月11日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政3年 12月23日	50		仙洞		鎮守社・柿本社に参拜				光格天皇実録	
文政3年 12月24日	50	月次御会	内裏	組題100首(2~4 字題)仁孝：竹雪、 増彦、名所鶴		為全朝臣(冷 泉侍従)	権中納言(庭 田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「竹雪：下折の声もさむけし窓の竹夜深く 雪や降重るらん、増彦：蓬にそひあはぬに贈る思ひ戒こ ひてふ物はわりなかりけり、名所鶴：幾千世も敷かさぬ らし蒲田にむれつ>遊ぶ鶴の毛衣」
文政3年 12月25日	50	当座御会	内裏	組題30首(2~3字 題)仁孝：江春曙		冷泉前新大納 言(為則卿)	権中納言(庭 田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「江春曙：堀江こぐたななし小ぶねたちか すみゆくへいさよふ春の明ほの」
文政3年 12月28日	50	和歌当座御 会	仙洞	組題30首(2~3字 題)光格：夕郭公	子禰村雨過し夕書の月とと もにも雲間もる声	冷泉前新大納 言(為則卿)	右兵衛督(藤 谷為脩卿)		国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政4年 1月1日	51		仙洞		四方拝のため出御				光格天皇実録	
文政4年 1月2日	51		仙洞		朝餉において御齒固				光格天皇実録	
文政4年 1月3日	51		仙洞		吉書御覧のため出御				光格天皇実録	
文政4年 1月4日	51		内裏		禁裏に御幸始				光格天皇実録	
文政4年 1月7日	51		仙洞		千秋万歳・白馬御覧				光格天皇実録	
文政4年 1月14日	51		仙洞		太元帥法・後七日御修法結 願のため弘御所に出席、阿 法阿闍梨に謁す				光格天皇実録	
文政4年 1月15日	51		仙洞		御吉書・三棗打のため出御				光格天皇実録	
文政4年 1月18日	51	和歌御会始	仙洞	池水淡静	ささら浪かすみよする春 の色にいけの心のどけさ も見ゆ	雅久朝臣	左衛門督	読師：冷泉前新大納 言、講師：顕季、究 声：持明院三位、講 燭：庭田一位、山科 前大納言、権中納 言、外山前中納言、 冷泉前中納言、久世 三位、綾小路三位	光格天皇実録	光格上皇、出御
文政4年 1月24日	51		仙洞		鎮守社に参拜				光格天皇実録	内裏御会始「驚為春友：うくひすのももさへつりを百千 度もしきのはるに碧や華む(光かく上皇御製)」(皇室 文学体系第三輯「光格天皇御集拾遺」)

光格上皇主催御会和歌年表—文政期編

文政4年 1月26日	51	内裏		菰裏に御幸					光格天皇実録 「柳：朝な朝な春をどりにうちへはへていくる風も霞むあをやぎ(光格上皇御製)」(皇室文学大系第三輯「光格天皇御真拾遺」)
文政4年 1月27日	51	仙洞		二月八日に関白一条忠良に伊勢物語御伝受相伝のため、二月二日より七日間、上下御霊社・北野社に御祈禱を仰せつ					光格天皇実録
文政4年 1月28日	51	仙洞	和歌当座御会	組題30首	為全朝臣	為全朝臣	講師：為全朝臣	光格天皇実録 「早春霞：春きての日敷も見てあきがすみしに夜をおりはゆるそら(光格上皇御製)」(皇室文学大系第三輯「光格天皇御真拾遺」)	
文政4年 2月8日	51	仙洞		関白一条忠良に伊勢物語伝受を相伝(御宴宴間)				光格天皇実録	
文政4年 2月11日	51	仙洞		附に親王、幕去。この日より三日間、物言を停めらる				光格天皇実録	
文政4年 2月16日	51	仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。男女、召さす				光格天皇実録	
文政4年 3月24日		内裏	月次御会	桜、雉、恋	左衛門督(飛鳥井雅光卿)	雅久朝臣(飛鳥井少将)		国会本内裏有栖川宮本 仁孝天皇御製「桜：山桜咲にけらしもかすみつゝ高ねに見ゆる花のしら雲。雉：雪わけしかりばの小野もはるといへば朝出る草にさす鳴なり。恋：はな鳥の色にもねにもつらめや物思ふ身のつらきゝろは」	
文政4年 3月25日	51	内裏	聖廟御法楽(去月御延引)	組題50首(2字題) 仁孝：社霞	冷泉前新大納言(為則卿)	右兵衛督(藤谷為脩卿)	講師：為全朝臣(冷泉侍従)	国会本内裏有栖川宮本 仁孝天皇御製「社霞：松海もかすみにけりな浅緑北野もりの春の明ほの」	
文政4年 3月28日	51	仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。縫小路三位、公元朝臣を召す				光格天皇実録	
文政4年 4月5日	51	内裏		菰裏に御幸				光格天皇実録	
文政4年 4月10日	51	仙洞	水無瀬宮御法楽(去二月分)	組題20首(2字題) 光格：朝霞	左衛門督(飛鳥井雅光卿)	為全朝臣(冷泉侍従)	講師：顕孝(兼壺弁)	「小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実録)	
文政4年 4月13日	51	仙洞		五月二日、正三位高松公祐に和歌天仁遠波御伝授を相伝するため、四月十四日より七日間、上下御霊・北野の三社に御祈禱を仰せつ				光格天皇実録	
文政4年 4月18日	51	仙洞	神影供	夏山残花	左衛門督(飛鳥井雅光卿)	冷泉前新大納言(為則卿)	講師：徳大寺大納言(美堅卿)、講師：雅久朝臣(飛鳥井侍従)、発声：綾小路三位(有長卿)	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実録)	
文政4年 4月20日	51	仙洞	聖廟御法楽(去二月分)	組題50首(3~5字題) 光格：名所霞	為全朝臣(冷泉新少将)	権中納言(庭田重能卿)	講師：為全朝臣(冷泉侍従)	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実録)	
文政4年 4月24日	51	内裏	月次御会	組題100首(3~4字題) 仁孝：池上花、毎夜待那公、月光映露	冷泉前新大納言(為則卿)	雅久朝臣(飛鳥井侍従)		国会本内裏有栖川宮本 仁孝天皇御製「池上花：影つす岸の影のみみちて花にぞかす春の池水。毎夜待那公：子規声もらさなん夜をかざね待ふかしぬる心づくしに。月光映露：澄わたる月の光りにみがぐれていとゞ玉しく庭の白露」	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政4年 5月1日	51		仙洞		光格天皇御製に参拜				光格天皇実録	
文政4年 5月2日	51		仙洞		鎮守社に参拜				光格天皇実録	
文政4年 5月4日	51	和歌当座御 会	内裏	組題20首(3字題) 光格・洛陽月	正三位高松公祐に和歌天仁 遠波伝受を相伝 うち日さすみやこの秋はよ と、もに漏照まさる月詠の 影(院御製)	雅久朝臣(飛 鳥井侍従)	為全朝臣(冷 泉少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「題：霞中驚；立極ふ霞の心まをりきて はこもほのかににほぶ露」(巻頭)。「禁裏ニ於テ和歌 当座御会ヲ行ハル、之ニ御幸アラセラル」(光格天皇実 録)
文政4年 5月10日	51		仙洞		別殿(吳服所)に渡御。高 松三位、陸起朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政4年 5月13日	51	和歌当座御 会	仙洞	組題30首(1~4字 題) 光格・拂衣	衣つぎぬたの音のうらむ るを遣かた人にしらせてし かな	左衛門督(飛 鳥井雅光卿)	為全朝臣(冷 泉新少将)		国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政4年 5月22日	51		仙洞		二十一日から二十二日にか けて泉涌寺で営まれる福禱 光院宮の百箇日御法会に代 参として上冷泉為全を運わ す				光格天皇実録	
文政4年 5月24日	51		仙洞		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政4年 5月24日	51	月次御会	内裏	盧橘、水鶏、海辺		冷泉前新大納 言(為則卿)	右衛門督(万 里小路建房 卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「盧橘：五月雨にはな立花のうちしめりか をりえならぬ軒の夕風、水鶏：夏の上のぬるまほどなき 團の戸を猶明よとてたゞく氷鑊か、海辺：海風やみるめ をそへて朝風の浪のまにまにうかぶ釣ふね」
文政4年 5月27日	51		仙洞		壽山亭で挿袂を御覧				光格天皇実録	
文政4年 6月9日	51		仙洞		仁孝天皇の皇子鎌宮、薨 去。この日より三日間、物 言を停む				光格天皇実録	
文政4年 6月16日	51		仙洞		この日より禁裏觸縁により 觸縁の儀を停む				光格天皇実録	
文政4年 7月22日	51		仙洞		觸縁竟祓を行う				光格天皇実録	
文政4年 8月1日	51		仙洞		八朔の儀				光格天皇実録	
文政4年 8月5日	51		仙洞		別殿(吳服所)に渡御。左 権大夫、通修等を召す				光格天皇実録	
文政4年 8月24日	51	月次御会	内裏	組題100首(1~3 字題)仁孝・菰、冬 月、寄弓恋		為全朝臣(冷 泉少将)	為全朝臣(冷 泉少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「菰：小夜深く風にいづくおとて、蒲お どろかす軒の下萩、冬月：まの浦や浪よる尾花種枯て 入江を寒みこほる月かけ、寄弓恋：人心あだちらの真弓お しかへしなむびきやすと猶引てまし」
文政4年 8月25日	51	当座御会	内裏	組題20首(2~4字 題)仁孝：雲間対月		冷泉前新大納 言(為則卿)	為全朝臣(冷 泉少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「雲間対月：晴やらぬ雲間の影をかこち つゝながむるまゝに更るよの月」
文政4年 8月26日	51		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表—文政期編

文政4年 9月2日	51	仙洞		鎮守社に参拜					光格天皇実録	
文政4年 9月8日	51	仙洞		鎮守社・柿本社に参拜					光格天皇実録	
文政4年 9月9日	51	内裏	毎秋愛菊			左衛門督(飛鳥井雅光卿)	右兵衛督(藤谷為脩卿)		国会本内裏有栖川宮本	光格天皇御製・大宮御歌なし。仁孝天皇御製「秋ごとに いろ香をそへて咲にほふ花のしらぎくめでつゝぞみる。 准后御方・女房達：准后御方、大典侍、幸相典侍(巻末)
文政4年 9月11日	51	仙洞		鎮守社・柿本社に参拜					光格天皇実録	
文政4年 9月13日	51	仙洞		八月二十二日に将重徳川家 齋女元姫が逝去したことの 報告を受け、三日間、物音を 停む					光格天皇実録	
文政4年 9月16日	51	仙洞		別殿(呉服所)に渡御。新 源三位、有言朝臣等を召す					光格天皇実録	
文政4年 9月23日	51	内裏		蔡裏に御幸					光格天皇実録	
文政4年 9月24日	51	内裏	舞、秋霜、思			冷泉前大納言(飛鳥井少将)	雅久朝臣(飛鳥井少将)		国会本内裏有栖川宮本	仁孝天皇御製「鶉：夜を驚み秋も栗野ゝかた鶉露ふか草 にわひつゝや鳴、秋霜：咲鏡の花にかさねて長月のまが きふるさぬ霜の白紗、思：思ひかはみつづのうたかたなか なかに消はせてもせてうさのみぞそふ」
文政4年 9月28日	51	仙洞	組題20首(2字題) 光格：梅雨	雲の涼たつも八重ぶさ芦の 屋のこやいつ迄ぞさみだ るゝ空 玄酒の儀		雅久朝臣(飛鳥井少将)	冷泉前大納言(為則卿)		国会本仙洞有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政4年 10月10日	51	仙洞							光格天皇実録	
文政4年 10月16日	51	仙洞		壽山亭で獲稻を御覧					光格天皇実録	
文政4年 10月17日	51	仙洞		頭痛を病み、櫓かに浮腫を 発す					光格天皇実録	
文政4年 10月24日	51	内裏	組題100首(3~4 字題)仁孝：折梅花、 漣上蟬、蕊落葉			雅久朝臣(飛鳥井少将)	為全朝臣(冷泉少将)		国会本内裏有栖川宮本	仁孝天皇御製「折梅花：咲匂ふみちの行ての梅のはない さ歌つとに折てかへらむ、漣上蟬：落瀬つたきつしは波 声そへてこすゑになかく蟬を鳴なる、蕊落葉：よすがら に風のしくれの窓つとときゝしは木々の落葉なりけり」。 有栖川宮本には、仁孝天皇御製の三首ともに「後日搬出。 十一月廿九日御到来」と注があり、1か月以上後に提出 されていたことが知られる
文政4年 10月26日	51	仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 男女を召さず					光格天皇実録	
文政4年 11月22日	51	仙洞		垂鑑寺宮崇徳女王、薨去。 この日より三日間、御帳、 物音を停む					光格天皇実録	
文政4年 11月28日	51	内裏	雪上月、千鳥、松色 久			冷泉前大納言(為則卿)	右衛門督(万里小路建房卿)		国会本内裏有栖川宮本	仁孝天皇御製「雪上月：すむ月も降つも雪もさやけさの ひかりをみがく玉しきの庭、千鳥：鳴わたるこもせ寒け し小夜千鳥囀みつ空に友さそひつゝ、松色久：うごきな き岩のいほほに立そむてみどりの松の千世ちきるかな」
文政4年 12月11日	51	仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 男女を召さず					光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政4年 12月24日	51	月次御会	内裏	組題100首(3~5 字題)仁孝:名所宸 雁、名所宸置、名所竹	光格天皇御製および事項	左衛門督(飛 鳥井雅光卿)	左衛門督(飛 鳥井雅光卿)		国会本内裏 有烟川宮本	仁孝天皇御製「名所雁：難波江やあしへの五に声かはし 空飛かりのなびく浦かぜ、名所宸置：大原やをしほの山 の朝くもり賤が放やく煙或らん、名所竹：成りありあふ竹の 緑も障うつむ雪にふしみの里の朝戸出」
文政4年 12月27日	51		仙洞		頭痛、日をおって順快につ ぎ、年内に御祝儀を行 うが、その費用に關して御付 武士から申達あり				光格天皇実録	
文政5年 1月1日	52		仙洞		四方拜には出御せず、御齒 固の事あり				光格天皇実録	
文政5年 1月3日	52		仙洞		吉書御覽。朝前に出御				光格天皇実録	
文政5年 1月7日	52		仙洞		千秋万歳・白馬御覽のため 出御				光格天皇実録	
文政5年 1月11日	52		仙洞		諸礼を行う。關詔の儀なし				光格天皇実録	
文政5年 1月13日	52		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 修理権大夫、通考等を召す				光格天皇実録	
文政5年 1月14日	52		仙洞		太元帥法・後七日御修法結 願のため尚法阿闍梨參院。 關詔の儀なし。				光格天皇実録	
文政5年 1月15日	52		仙洞		御吉書・三替打のため小御 所に出御				光格天皇実録	
文政5年 1月18日	52	和歌御会始	仙洞	子日契	手にみでてる千年のみどり二 葉にもこめし子日のこまつ はらかな	冷泉前新大納 言(為則卿)	為全朝臣(冷 泉少将)	読師：徳大寺大納言 (美堅卿)、講師：陸 光(柳原弁)、奏声：陸 権中納言(庭田重能 卿)	国会本内裏 有烟川宮本	准后御方・女官達：准后御方、小侍従、新大納言、あや めの小路、中侍内侍、小少将、命婦伊豫、命婦 伯耆、紀伊(巻末)。「和歌御会始(牙行)ハレ、出御、御製 アラセラル」(光格天皇実録)
文政5年 1月27日	52	御会始	内裏	禁中春	露なつ大内やまはうち日さ すみやこの春の初しほのか げ(院御製)	左衛門督	坊城中納言 (俊明卿)	読師：鷲尾大納言 (隆純卿)、講師：為 全朝臣(冷泉少将)、 奏声：左衛門督(飛 鳥井雅光卿)	国会本内裏 有烟川宮本	仁孝天皇御製(巻頭)、光格天皇御製の順に掲載。仁孝 天皇御製「折にあふあけむらさきの袖はくめでたかにく むや春のさかづき」(巻頭)。准后・女官達：准后、大典 侍、宰相典侍、禮典侍、新大納言、中侍内侍、侍従内侍、 命婦伊豫、命婦伯耆(巻末)
文政5年 後1月15日	52		内裏		禁裏に御幸始				光格天皇実録	
文政5年 後1月15日	52		仙洞		石清水社法楽和歌御会を行 う				光格天皇実録	
文政5年 後1月24日	52	月次御会	内裏	組題100首(2~3 字題)仁孝:春神祇、 夏風、秋花		冷泉前新大納 言(為則卿)	雅久朝臣(飛 鳥井少将)		国会本内裏 有烟川宮本	仁孝天皇御製「春神祇：春日山その二月の神祭や、ちか しどていはふ宮人、夏風：六月の照日の影もや>>くれて す>>しくかよふ軒の夕風、秋花：野へは今秋に紐とく袂 薄はなの千種の錦をぞおる」
文政5年 後1月26日	52	陽大樹五十 賀	内裏	松延齡		左衛門督(飛 鳥井雅光卿)	冷泉前新大納 言(為則卿)		国会本内裏 有烟川宮本	仁孝天皇御製「みどりそふ五十の春をははじめにて尽ぬよ はひはまつのいく千世」

光格上皇主催御会和歌年表—文政期編

文政5年 後1月26日	52	仙詞		別殿(小御所)に渡御。花山院大納言、重徳朝臣等を召す					光格天皇実録	
文政5年 2月2日	52	仙詞		將軍徳川家慶の五十歳につき、無異安穩の為、内侍所千度祓を仰せつく					光格天皇実録	
文政5年 2月13日	52	仙詞		毎夜契恋					光格天皇実録	
文政5年 2月22日	52	内裏	水無瀬宮御法楽	組題20首(3~4字題)仁孝:春雪散風	為全朝臣(冷泉少将)	権中納言(庭田重能卿)	頭孝(業室弁)	国会本内裏有烟川宮本	光格天皇実録	仁孝天皇御製「春雪散風:花はいまだ句はぬ庭の朝風におも影ちらす春のあわ雪」
文政5年 2月22日	52	仙詞	水無瀬宮御法楽	組題20首(3字題)光格:花咲日	雅久朝臣(飛鳥井少将)	左衛門督(飛鳥井雅光卿)	講師:基茂朝臣(園頭中将)	国会本仙詞有烟川宮本	光格天皇実録	「小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実録)
文政5年 2月23日	52	内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録		
文政5年 2月24日	52	内裏	月次御会	花洛春月、帰雁恋、寄理木恋	為全朝臣(冷泉少将)	左衛門督(飛鳥井雅光卿)		国会本内裏有烟川宮本	光格天皇実録	仁孝天皇御製「花洛春月:名にしあふ花の郷の春の月かむむもあかねおほ夜の影、帰雁恋:麗しく露路はるかに降る雁行へやいづこ遠ざかるこゑ、寄理木恋:なとり川名はむれ木のいつ迄ぞ逢こと浪にくちもはてまで」
文政5年 2月25日	52	内裏	聖廟御法楽	組題50首(2~3字題)仁孝:待花	雅久朝臣(飛鳥井少将)	為全朝臣(冷泉少将)	光成朝臣(廣橋頭弁)	国会本内裏有烟川宮本	光格天皇実録	仁孝天皇御製「待花:ちはやぶる北野>もりの桜花神も心に咲をまつらん」
文政5年 2月25日	52	仙詞	聖廟御法楽	組題50首(1字題)光格:霞	左衛門督(飛鳥井雅光卿)	冷泉前新大納言(為則卿)	講師:雅久朝臣(飛鳥井少将)	国会本仙詞有烟川宮本	光格天皇実録	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実録)
文政5年 2月30日	52	内裏	和歌当座御会	組題30首(1~3字題)光格:帰雁	左衛門督(飛鳥井雅光卿)	左衛門督(飛鳥井少将)	雅久朝臣(飛鳥井少将)	国会本内裏有烟川宮本	光格天皇実録	仁孝天皇御製「若菜:あわ雪は散ともよしや打むれていさ春の野>若なつま>し」(巻頭)
文政5年 2月30日	52	内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録		
文政5年 3月2日	52	仙詞	当座御会	組題30首(2~4字題)光格:露満山	冷泉前新大納言(為則卿)	雅久朝臣(飛鳥井少将)	為全朝臣(冷泉少将)	国会本仙詞有烟川宮本	光格天皇実録	「和歌当座御会始ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政5年 3月10日	52	仙詞		別殿(小御所)に渡御。堀川三位、通修等を召す				光格天皇実録		
文政5年 3月11日	52	内裏	当座御会	組題20首(3字題)光格:簾外燕	冷泉前新大納言(為則卿)	右衛門督(万里小路建房里)		国会本内裏有烟川宮本	光格天皇実録	仁孝天皇御製「八重桜:えならずよ雲とまがひて陰高くささかさなれる八重桜かな」(巻頭)
文政5年 3月18日	52	仙詞	神影供	春曙月	雅久朝臣	左衛門督(飛鳥井雅光卿)	講師:源一位(庭田重胤卿)、講師:雅久朝臣(飛鳥井少将)、發声:持明院三位(基延卿)	国会本仙詞有烟川宮本	光格天皇実録	「柿本神影供ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政5年 3月20日	52	内裏	月次御会	御業始のため禁裏に御幸				光格天皇実録		
文政5年 3月24日	52	内裏	月次御会	組題100首(2~4字題)仁孝:折歌冬、見恋、寄橋雑	為全朝臣(冷泉少将)	権中納言(庭田重能卿)		国会本内裏有烟川宮本	光格天皇実録	仁孝天皇御製「折歌冬:をしとだにいはぬ色なる山吹は折はや花の主もとがめじ、見恋:ほのみつる人の面影はすらすら冠ふしわかで身にそふもつし、寄橋雑:世を渡る身のほどほにあやふさもかけてわする木書のかげ橋」。有烟川宮本によれば、仁孝天皇御製には、すべて「後日被出」と注があり、後日に提出されたことがわか

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政5年 3月24日	52	聖廟御法楽	仙洞	重菜	光格天皇御製および事項 二十四日・二十五日、聖廟 法楽和歌を行う				光格天皇実録	
文政5年 3月28日	52	当座御会	仙洞	組歌20首(2~4字 題) 光格・春朝	鶴の鳴ぬのみかは春はたゞ 花を思ひに朝しせられし	上皇御題	右衛門督(万 里小路建房 卿)		国 宗本仙洞 有栖川宮本	〔和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル〕(光格天皇実 録)
文政5年 4月4日	52		仙洞		仁孝天皇への三節抄御伝受 のため、四月十五日より伊 勢神宮に、四月十日より玉 津島・住吉神社に祈禱を仰 せつく				光格天皇実録	
文政5年 4月5日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政5年 4月13日	52		仙洞		仁孝天皇への三節抄御伝受 のため、十四日より七日 間、上御霊・下御霊・北野 の三社に祈禱を仰せつく				光格天皇実録	
文政5年 4月18日	52		仙洞		小御所において管弦の御遊 を行つたため出御、箏の御所 作				光格天皇実録	
文政5年 4月22日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政5年 4月22日	52		内裏		禁裏に御幸し、仁孝天皇へ 和歌三節抄伝受を相伝				光格天皇実録	
文政5年 4月24日	52	月次御会	内裏	葵、恋、鶴		左衛門督(飛 鳥井推光卿)	権中納言(庭 田重能卿)		国 宗本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「葵：千早振かものみあはれにあふの草万代 かけていはふもろ人、恋：年月に猶まさりゆめ思ひとち しらでや人のつれなかるらむ、鶴：わかぬの浦やさかゆる 松に千世しめて伴ふ鶴の声をゆたけき」
文政5年 4月24日	52		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 縁小路三位、慶起朝臣を召 す				光格天皇実録	
文政5年 4月25日	52		仙洞		將軍徳川家齊・家慶が任叙 の御礼として侍従松平頼昭 等を遣わし物を献ずるの に、弘御所に出席し講ず				光格天皇実録	
文政5年 4月26日	52		仙洞		鎮守本社・北小社の仮殿遷 座を行う				光格天皇実録	
文政5年 4月28日	52	当座御会	内裏	組歌30首(2字題) 光格：別恋	いかにしたひいかにこた む衣々の名残有明の月もし らみて(院御製)	雅久朝臣(飛 鳥井少将)	坊城中納言 (俊明卿)	講師：光成朝臣(廣 橋頭弁)	国 宗本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「初春：日の影も今朝はうららに神路山も も枝の松のかすむ初春」(巻頭)
文政5年 4月28日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政5年 5月2日	52		仙洞		内々に能御覽				光格天皇実録	
文政5年 5月7日	52	当座御会	仙洞	組歌30首(2字題) 光格：子日	小松ひき袂ぶ言葉の子日こ そちよを手にこころ春の初入	左衛門督(飛 鳥井推光卿)	雅久朝臣(飛 鳥井少将)	頭孝(葉壺弁)	国 宗本仙洞 有栖川宮本	〔和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル〕(光格天皇実 録)

光格上皇主権御会和歌年表一 文政期編

文政5年 5月16日	52		仙洞		壽山亭で撰袂を御覽						光格天皇実録	
文政5年 5月17日	52		仙洞		養生のために年に二三度、 修学院に御幸するため、御 茶座・御庭園の修理を治定						光格天皇実録	
文政5年 5月18日	52		内裏		禁裏に御幸						光格天皇実録	
文政5年 5月24日	52	月次御会	内裏	組題10首(2字題) 仁孝：早苗、梅雨、 旅行		雅久朝臣(飛 鳥井少将)	坊城中納言 (俊明卿)				国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早苗：千町田にうゑし早苗の若梅枝のた のみも見えて涼しき、梅雨：日をへつ>をやみちやらず 五月雨に色づく梅は落つくしても、旅行：たひ衣すを野 花遠み分きつ>杖もぬる>道しほの露」
文政5年 6月7日	52		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 大原三位、久雄朝臣等を召 す						光格天皇実録	
文政5年 6月16日	52		仙洞		嘉祥の嶺に出御						光格天皇実録	
文政5年 6月24日	52	月次御会	内裏	瞿麦、夕顔、緑竹		為全朝臣(冷 泉少将)	冷泉前大納言 (為則卿)				国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「瞿麦：さささまに庭のまがきを朝な夕な いろどる花は大和なでしこ、夕顔：たそがれのしづが垣 ほに咲かけて露もす>しくほふ夕顔、緑竹：生そはむ す委もはるかにわか縁千尋あるかげの茂るくれ竹」
文政5年 6月25日	52	聖廟御法楽	内裏	組題50首(かな題) 仁孝：ゆふだち		左衛門督(飛 鳥井雅光卿)	雅久朝臣(飛 鳥井少将)	基茂朝臣(團頭中 将)			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「ゆふだち：雲風のたゝ時のまにさほひ つ>ふふるかとみればすぐる夕立」
文政5年 6月25日	52	聖廟御法楽	仙洞	組題50首(2字題) 光格：夕顔		雅久朝臣(飛 鳥井少将)	坊城中納言 (俊明卿)	共福(清閑寺弁)			国会本仙洞 有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実 録)
文政5年 6月26日	52		内裏		禁裏に御幸						光格天皇実録	
文政5年 6月30日	52		仙洞		六月祓を行う。茅輪の事あ り						光格天皇実録	
文政5年 7月2日	52		仙洞		鎮守社に参拜						光格天皇実録	
文政5年 7月5日	52		仙洞		皇女治宮、兼去。この日よ り三日間、物音を停む						光格天皇実録	
文政5年 7月14日	52		内裏		禁裏に御幸						光格天皇実録	
文政5年 7月20日	52	月次御会	仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 左京権大夫、実季等を召す	為全朝臣(冷 泉少将)	右兵衛督(藤 合為梅卿)				国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「薄：穂に出て何まねくらむ糸す>さくる 人もなき秋の野原に、雲：在明の月かげしらむ山端にひ とすちか>る横雲の空、鏡：みがげ猶光くもら可朝な朝 な心もすみてむかふ鏡は」
文政5年 8月7日	52		内裏		禁裏に御幸						光格天皇実録	
文政5年 8月20日	52		仙洞	露	賀茂社法楽和歌御会を行う						光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政5年 8月24日	52	月次御会	内裏	嵯峨野虫、須磨浦 月、葛城山雲	光格天皇御製および事項	左衛門尉(飛 鳥井雅光卿)	為全朝臣(冷 泉少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「嵯峨野虫：所がらわきてあやおるむしの ねやさが野の原の花の千種に、須磨浦月；すまの浦やせ き歌こゆる秋風に波路をひろみすめゆる月影、葛城山雲； かつらきやたかまの山のおきの色にかゝるもさむし類の しら雲」
文政5年 8月24日	52		仙洞		一乘院尊諸緒王、業去。こ の日より三日間、物音を停 む				光格天皇実録	
文政5年 8月27日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政5年 9月1日	52		仙洞		鎮守本社正遷宮を行う				光格天皇実録	
文政5年 9月2日	52		仙洞		鎮守北小社正遷宮を行う				光格天皇実録	
文政5年 9月4日	52		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 刑部卿、為全朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政5年 9月9日	52	重陽御会	内裏	菊添佳色		雅久朝臣(飛 鳥井少将)	為全朝臣(冷 泉少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「なが月にもてはやされて花の色のおほい くしほかまさるむら菊」。准后御方・女房連；准后御方、 宰相典侍、賢典侍、中將内侍、侍従内侍、命婦伊豫、命 婦大御乳(巻末)
文政5年 9月11日	52		仙洞		鎮守社・柿本社に参拜				光格天皇実録	
文政5年 9月13日	52	当座御会	内裏	組題30首(2字題) 光格・池月	秋いく世君が御池にくもる なよみづの心も月の光りと (院御製)	為全朝臣(冷 泉少将)	権中納言(庭 田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「橋月：あやふさも影に忘れて渡るらむ月 こそしるべ木曾のかけ橋」
文政5年 9月20日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政5年 9月24日	52	月次御会	内裏	組題100首(2字題) 仁孝・秋浦、秋木、 秋鳥		為全朝臣(冷 泉少将)	雅久朝臣(飛 鳥井少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「秋浦：いそつたひ行かふ舟も紅葉の色の ここがるゝ秋のうらうら、秋木：はえあれや滲染なすち みち葉にまじるみどりの秋のむら立、秋鳥：つらがるゝ 野へのまくすの秋風に夜寒をわびて馴なくらし」
文政5年 9月24日	52	和歌当座御 会	仙洞	組題30首(2~4字 題)光格・朝菊	露霜に朝毎色のまさり草む へ万代も長月の花	為全朝臣(冷 泉少将)	右兵衛督(藤 合為権卿)		国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政5年 10月7日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政5年 10月10日	52		仙洞		玄緒の儀				光格天皇実録	
文政5年 10月13日	52		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 修理大夫、恭光等を召す				光格天皇実録	
文政5年 10月20日	52		仙洞		壽山亭で獲福をご覽				光格天皇実録	
文政5年 10月21日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表—文政期編

文政5年 10月24日	52	月次御会	内裏	松上霜、湖千鳥、奇舟恋		冷泉前大納言 (為別御)	右衛門督(万里小路建房卿)	国会内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「松上霜：ふかみどり鶯囀の松もしる妙に冬をわきつゝ置るあざしも、湖千鳥：瀬の海や比良山かせに及千鳥ともまどはして立どわくこ奈、奇舟恋：いつまでかつれなき人をまつら舟よるべもなみにこがれわびつゝ」
文政5年 10月27日	52	和歌当座御会	内裏	組題30首(1~2字題)光格：千鳥	むら千鳥声打むれて群くるは沖の小島に浪らしも(院御製)	左衛門督(飛鳥井雅光卿)	右兵衛督(藤合為脩卿)	国会内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「霜：おとたてし軒ばの涙も枯ふして霜のみふかき庭の寒けさ」
文政5年 11月13日	52		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政5年 11月24日	52	月次御会	内裏	組題100首(1~4字題)仁孝：霰、不逢恋、山家		為全朝臣(冷泉少将)	雅久朝臣(飛鳥井少将)	国会内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「霰：闇寒み小夜更ぬらしさ>の葉にあられみなる>おとも身にしむ、不逢恋：こがれわびあはで袖のみしほたる>浦の塩やく海人ならねども、山家：月花のみやこをよそにすみしむるみやまのおくのいほそしつけき」
文政5年 11月26日	52		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。三位中将、久雄朝臣等を召す			光格天皇実録	
文政5年 12月4日	52		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政5年 12月21日	52		仙洞	紅葉	賀茂社法楽和歌御会を行う		坊城中納言	光格天皇実録	
文政5年 12月24日	52	月次御会	内裏	連日雪、年内鶯、歳頭雪		雅久朝臣(飛鳥井少将)	雅久朝臣(飛鳥井少将)	国会内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「連日雪：けぬがうへに猶降そひて庭の面はたゞしろ妙の雪の北ごろ、年内鶯：かつ咲し梅のいほはでやさせむむねのこななにくぐむすのなく、歳頭雪：天つ袖なづるやいく世うごきなきいはまほにか>る昔のころもほ」
文政5年 12月25日	52		仙洞		夜、別殿(皇殿所)に渡御。大原三位、実久、実孚等を召す			光格天皇実録	
文政6年 1月1日	53		仙洞		四方拜に出御			光格天皇実録	
文政6年 1月2日	53		仙洞		御園固、拜礼あり。諸臣に跪す			光格天皇実録	
文政6年 1月3日	53		仙洞		吉書御覧のため出御			光格天皇実録	
文政6年 1月4日	53		内裏		禁裏に御幸始			光格天皇実録	
文政6年 1月7日	53		仙洞		千秋万歳・白馬御覧			光格天皇実録	
文政6年 1月8日	53		仙洞		大和万歳・臨時万歳御覧			光格天皇実録	
文政6年 1月13日	53		仙洞		諸礼を行う。弘御所・小御所に出御			光格天皇実録	
文政6年 1月14日	53		仙洞		太元御法・後七日御修法結願のため高法阿闍梨参院。弘御所に出御し講す			光格天皇実録	
文政6年 1月15日	53		仙洞		御吉書・三誓打のため小御所に出御			光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政6年 1月18日	53	御会始	仙洞	水榭多佳趣	光格天皇御製および事項 水とけみつぬるむ江のなみの あやおるやつゝみの青柳 のいと	左衛門督	雅久	読師：齋尾大納言、 講師：共福、発声： 左衛門督	有栖川宮本	准后御方・女房達：准后御方、大すけ、新大納言、高浦 小路、中将のいし、小少将、小侍従、命婦伊与、命婦 はらつき、紀伊（巻末）。[和歌御会始ヲ行ハル、出御、御 親アラセラルル]（光格天皇実録）
文政6年 1月30日	53		仙洞		小御所において管弦の御遊 を行う。出御				光格天皇実録	
文政6年 2月2日	53		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政6年 2月8日	53		仙洞		夜、別殿（呉服所）に渡御。 男女、召さす				光格天皇実録	
文政6年 2月22日	53	水無瀬宮御 法美	仙洞	組題20首（3～4字 題）光格・露知春 かな	山たかみ雪もさながらうづ もれてはるを水無瀬に立霞 かな	為全朝臣	俊明	講師：光成朝臣	有栖川宮本	〔小御所二於テ水無瀬宮御法美和歌ノ披露アリ〕（光格天 皇実録）
文政6年 2月25日	53	聖廟御法美	仙洞	組題50首（2字題） 光格・梅香	萬木の花てふ花の花の香も むめのにほひに何及ぶべき かな	雅久朝臣	建房	隆光	有栖川宮本	〔小御所二於テ聖廟御法美和歌ノ詠上アリ〕（光格天皇実 録）
文政6年 3月7日	53	御会始	内裏	霞満山	佐ほ矩の春のころものおり はへてかすみかゝらぬ山は あらしな（院御製）	雅久朝臣（右 少将）	左衛門督（雅 光卿）	読師：花山院大納言 （家厚卿）、講師：基 茂朝臣（頭右中将）、 発声：權中納言（重 能卿）	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に掲載。仁孝天皇御製 〔はる霞みねにも尾にも御引てひとつみとりのやまの色 かな〕（巻頭）。准后御方・女房達：准后、大典侍、宰相 典侍、賢典侍、新大納言、中将内侍、侍従内侍、命婦伊 豫、命婦伯耆、命婦大御乳（巻末）
文政6年 3月8日	53		仙洞		小御所において管弦の御作 を行う。出御、箏の御所作				光格天皇実録	
文政6年 3月10日	53	当座御会	内裏	組題30首（2字題） 光格・江鷺	あらぶ江に波よりしろくた つ鷺や桜柳の春のにしきを もある哉	冷泉前大納言 （為朝卿）	右衛門督（建 房卿）	共福（藏人 權右中 弁）	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製〔朝霞：いつる日の影ものどかに山こりの 尾上をかけて立かむす空〕（巻頭）
文政6年 3月10日	53		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政6年 3月18日	53	神影供	仙洞	花色春久	年ごとに物おもひなき花を 見てこそ、うらたけきはるに もある哉	為全朝臣	雅久	読師：花山院大納 言、講師：為全朝臣、 発声：權中納言	有栖川宮本	〔神本神影供ヲ行ハル、出御アラセラルル〕（光格天皇実録）
文政6年 3月19日	53		仙洞		夜、別殿（呉服所）に渡御。 刑部卿、恭光等を召す				光格天皇実録	
文政6年 3月21日	53		仙洞		鎮守社に参拜				光格天皇実録	
文政6年 3月22日	53	水無瀬宮御 法美（去月 分）	内裏	組題20首（3～4字 題）仁孝・水細霞		雅久朝臣（右 少将）	權中納言（重 能卿）	講師：雅久朝臣（右 少将）	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製〔水細霞：水無瀬河波ものどかに霞みつゝ みどりにむかふ山本のはる〕
文政6年 3月24日	53	月次御会	内裏	組題5首（1～2字 題）仁孝・花・月・雪		左衛門督（雅 光卿）	為全朝臣（左 少将）		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製〔花：此ごろはいづくも花の咲みちてい かに匂ふ春風のそら、月：秋風の軍行まゝに飄はれてか けすみ渡る中空の月、雪：しほし猶はらははでぬはや雪に 今朝なびくもあかぬ庭のくれ竹〕
文政6年 3月26日	53		仙洞		内々、猿蓑御覽				光格天皇実録	
文政6年 3月30日	53		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表 — 文政期編

文政6年 4月2日	53	内裏		禁裏に御幸						光格天皇実録	
文政6年 4月3日	53	仙洞		仁孝天皇の皇女ならびに准 后藤原繁子(27)、薨去。 この日より五日間、物言を 停む						光格天皇実録	
文政6年 4月11日	53			新皇嘉門院(藤原繁子)入 棺の儀。この日より天下齋 穢						光格天皇実録	
文政6年 5月7日	53			新皇嘉門院のために般舟三 昧院において御法会を行う						光格天皇実録	
文政6年 5月14日	53			新皇嘉門院のために泉涌寺 において法用弥陀三昧を行 う						光格天皇実録	
文政6年 5月21日	53	仙洞		新皇嘉門院尽七日忌によ り、代参として正三位東久 世通岑を般舟三昧院ならび に泉涌寺に進む。また民 部卿冷泉為訓をもって法華 經一部を泉涌寺に納め、御 香奠を備えさせる						光格天皇実録	
文政6年 5月22日	53	仙洞		新皇嘉門院のために承真親 王に仙洞において御法会を 行わせる						光格天皇実録	
文政6年 6月3日	53	仙洞		觸籠景清祓あり						光格天皇実録	
文政6年 6月7日	53	仙洞		嵩山亭で椿袂を御覧						光格天皇実録	
文政6年 6月14日	53	仙洞		石清水社法楽和歌御会を行 う			右兵衛督			光格天皇実録	
文政6年 6月16日	53	内裏	聖廟御法楽 (去二月分)	組題50首(2~3字 題)仁孝:立春		為全朝臣(左 少将)	雅久朝臣(右 少将)	講師:為全朝臣(左 少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「立春:松梅もかすみあひつ>暮ははやき た野>もりに立はじむらし」(巻頭)
文政6年 6月16日	53	仙洞		嘉祿の儀のため出御						光格天皇実録	
文政6年 6月17日	53	仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 大原三位、通修等を召す						光格天皇実録	
文政6年 6月23日	53	内裏		禁裏に御幸						光格天皇実録	
文政6年 6月24日	53	内裏	月次御会	風前夏草、蒲辺蝉 声、名所眺望		雅久朝臣(右 少将)	為全朝臣(左 少将)			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「風前夏草:吹風のいるもす>しくしら露 の玉をちらせの庭のなつ草、蒲辺蝉声:たきのいどの か>るいはねの木間より涼しくひびくせみのもろごゑ、 名所眺望:わたの原見わたすま>にはるばると八十島か けて晴るゆふなき」
文政6年 6月24日	53	聖廟御法楽	賀茂社御法 楽	組題50首 小御所において賀茂社法楽 和歌御会を行う		冷泉前大納言	右兵衛督	講師:為全朝臣		光格天皇実録	
文政6年 6月25日	53	内裏	聖廟御法楽	組題50首(2~4字 題)仁孝:翟麦露		雅久朝臣(右 少将)	権中納言(重 能卿)	講師:基茂朝臣(頭 右中将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「翟麦露:白露はかさしの玉と置そへてこ とに色ますすなでしこの花」

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政6年 6月25日	53	聖廟御法楽	仙洞	組題50首(2字題) 光格：夏日	光格天皇御製および事項 いく重ともあやしき差を たむむ雲に照日かやく水 無月の空	冷泉前大納言	為備	講師：基茂朝臣	有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実録)
文政6年 6月29日	53		仙洞		六月祓のため御。茅輪の 事あり				光格天皇実録	
文政6年 7月7日	53	七夕御会	内裏	七夕天	すしざはあまの河はとき くばかりほし合の影の澄わ たるそら(院御製)	冷泉前大納言 (為則卿)	雅久朝臣(右 少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「久かたの天のかはなみよこころ星の蓬瀬と晴わたらめ」(巻頭)。大宮御歌「まづむかふくちもともにもすし合のそらにぞ有ける」。女房達：大典侍、重相典侍、嵯典侍、新大納言、中將内侍、侍從内侍、命婦伊豫、命婦白誓、命婦大御乳(巻末)
文政6年 7月12日	53				桃園天皇の聖忌・新皇嘉門 院の百箇日のため泉涌寺に おいて御法事				光格天皇実録	
文政6年 7月13日	53		仙洞		新皇嘉門院の百箇日忌のた め御代参として権中納言四 社公説を船舟三味院・泉涌 寺に遣わす				光格天皇実録	
文政6年 7月14日	53		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政6年 7月18日	53		仙洞		下御霊社神輿を御拝				光格天皇実録	
文政6年 7月24日	53	月次御会	内裏	組題100首(2~3 字題)仁孝：菽盛、 寄風恋、旅泊		全朝臣(左 少将)	坊城中納言 (為則卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「菽盛：えならずよき紫に咲みちて露も色そふ野迎の萩恋。寄風恋：思ふ方のたよりにいつまつの戸にふくはくはうらめし軒の秋風。旅泊：いく夜半か月を枕にしきたへへのうきねになれし波の友舟」
文政6年 7月28日	53		仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 修理権大夫、実孚等を召す				光格天皇実録	
文政6年 8月1日	53		仙洞		八朔の儀あり				光格天皇実録	
文政6年 8月16日	53	和歌当座御 会	内裏	組題5首(4字題) 光格：月夜多秋	月とともにもに明らけき影をた めしにてちとせもみかけ君 が代の秋(院御製)	左衛門督(雅 光卿)	冷泉前大納言 (為則卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「不知夜月：さやけさは昨日の秋におとらめや名におふ月のいざよひの影」(巻頭)
文政6年 8月18日	53		仙洞		下御霊社神輿を御拝				光格天皇実録	
文政6年 8月23日	53	当座御会	仙洞	組題30首(2字題) 光格：若菜	水とけ春立氷のわか水にく む手もゆらに根せりつま し	雅久	雅久	講師：為全朝臣	有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政6年 8月24日	53	月次御会	内裏	月為終夜友、鶉鳴草 花中、稀逢不絶恋		左衛門督(雅 光卿)	右兵衛督(為 備卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月為終夜友：秋の夜のながきもさらにおほほえず見つゝなぐさむ月を友とて、鶉鳴草花中：はさすゝさ花のしきの床しめめでなくやつらの声もえならすゝ稀逢不絶恋：わりなしや絶はてもせていつまてかまねなる中にかゝるちざりは」
文政6年 8月26日	53		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表 — 文政期編

文政6年 9月9日	53	重陽御会	内裏	九月九日菊			為全朝臣(左 少将)	冷泉前大納言 (為即卿)		国奈本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「名にしおふなが月のけふ月も日もちよ がさねに匂ふらさぎく。女房達；大典侍、誓典侍、中 将内侍、侍從内侍、命婦伊豫、命婦伯耆、命婦大御乳(卷 末)
文政6年 9月10日	53		仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 高松三位、久雄朝臣等を召 す				光格天皇実録		
文政6年 9月16日	53		仙洞		前右大臣三條美起薨去。こ の日より三日間、物音を停 む				光格天皇実録		
文政6年 9月21日	53		仙洞		鎮守社・柿本社に参拜				光格天皇実録		
文政6年 9月23日	53		仙洞		修学院御茶屋御幸の費用に ついて、御附系より両役に 申達				光格天皇実録		
文政6年 9月24日	53	月次御会	内裏	組題100首(2~4 字題)仁孝；山路菊、 紅葉映日、寄絵恋		雅久朝臣(右 少将)	右衛門督(建 房卿)		国奈本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「山路菊；をる袖にこぼるゝ色も千世にほ ふ山路の菊の花のしら露。紅葉映日；露しく丸染し紅葉 のいく千入いま一しほと照す日の影、寄絵恋；あだなれ やすがたこそみれ写し絵は思ひのかずをいふべくもな し」。有栖川宮本によれば、仁孝天皇御製には、すべて 「後日被出」と注があり、後日に提出されたことがわか る	
文政6年 9月27日	53		内裏		蕨裏に御幸				光格天皇実録		
文政6年 10月2日	53	当座御会	仙洞	組題20首(3字題) 光格；徳上殿	冬ざれば霞みだれて蕨の葉 のみやまもさらになふく なり	為全	為則		有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)	
文政6年 10月4日	53		仙洞		玄猪の儀				光格天皇実録		
文政6年 10月7日	53		内裏		蕨裏に御幸				光格天皇実録		
文政6年 10月15日	53		仙洞		壽山亭で獲稻を御覧				光格天皇実録		
文政6年 10月18日	53		内裏		蕨裏御覧のため蕨裏に御幸				光格天皇実録		
文政6年 10月22日	53		仙洞		管弦の御遊のため出御。和 琴の御所作				光格天皇実録		
文政6年 10月23日	53		仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 變小路三位、重徳朝臣等を 召す				光格天皇実録		
文政6年 10月24日	53	当座御会	内裏	組題20首(3~4字 題)仁孝；寄鶴祝		雅久朝臣(右 少将)	為全朝臣(左 少将)		国奈本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「寄鶴祝；いく千とせつきぬ肺を契りつゝ 九重の庭になるゝ友鶴」 仁孝天皇御製「待初雪；神無月まだ冬浅き毎朝毎朝待 待初雪、河千鳥；友千鳥ともよひかはし るゝものは事のほつ雪、河千鳥；友千鳥ともよひかはし かも河や瀬々にしばねこゑも寒けれし、旅行眺；あふさか の閑路よふかくええゆけはほや東雲の鳥のこゑこゑ」	
文政6年 10月24日	53	月次御会	内裏	待初雪、河千鳥、旅 行眺		為全朝臣(左 少将)	左衛門督(雅 光卿)		国奈本内裏 有栖川宮本		

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政6年 11月9日	53		仙洞		桃園天皇の聖高のため泉涌寺において御法事。御代参として参議左兵衛督高倉水雅を般舟三昧院・泉涌寺に遣わす				光格天皇実録	
文政6年 11月16日	53		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政6年 11月24日	53	当座御会	内裏	組題100首(かな題) 仁孝：冬の田、人をまつ、ほし		左衛門督(雅光卿)	右兵衛督(為脩卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「冬の田：もりすてしめめかれ行冬の田に残るもさびしづつがよりいほ、人をまつ；待に瀧よかれがちなるあだ人をいつまでとてか何なのむらん。(ほし；むら雲の晴行まゝに天のはらはほしのはやしそ光がさすふ)」
文政6年 11月25日	53		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政6年 12月5日	53	仙洞	仙洞	夜、別殿(呉服所)に渡御。高松三位、通修等を召す					光格天皇実録	
文政6年 12月11日	53	当座御会	仙洞	組題20首(3~4字題)光格：閑踏雪満雪	坂のせき踏降うつむ朝毎の雪	冷泉前大納言	為脩		有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政6年 12月24日	53	月次御会	内裏	早春薫風、海辺冬鶴、奇山袈恋		雅久朝臣(右少将)	坊城中納言(俊明卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早春薫風：雪ちらす風にいくたひさぞはれて春まぢがほの庭のむめが春、海辺冬鶴：年とよもに雪つもりのうら寒みたてるやまがふ鶴の毛ころも、奇山袈恋：もろともにもすゑのまつ山波かけて絶じと契る中はかはらし」
文政6年 12月28日	53		仙洞		謡曲ヲ行う				光格天皇実録	
文政7年 1月1日	54		仙洞		四方祥に出御、拜礼。弘御所に出御、諸臣に謁す				光格天皇実録	
文政7年 1月2日	54		仙洞		御園固				光格天皇実録	
文政7年 1月3日	54		仙洞		吉書御覧のため出御				光格天皇実録	
文政7年 1月4日	54		内裏		禁裏に御幸始				光格天皇実録	
文政7年 1月6日	54		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。大原三位、久雄を召す				光格天皇実録	
文政7年 1月7日	54		仙洞		白馬御覧のため出御				光格天皇実録	
文政7年 1月11日	54		仙洞		千秋万歳御覧のため出御				光格天皇実録	
文政7年 1月13日	54		仙洞		諸礼を行う。弘御所・小御所に出御				光格天皇実録	
文政7年 1月14日	54		仙洞		太元師法・後七日御修法結願のため西法阿闍梨参院。弘御所に出御し謁す				光格天皇実録	





光格上皇主催御会和歌年表—文政期編

文政7年 6月17日	54	内裏	蘇裏に御幸	左衛門督	雅久	重能	講師：雅久朝臣	光格天皇実録	仁孝天皇御製「夏朝：照しつる夜半の虫は影消てあさ日すましき露の草むら、秋山：たちこめし露吹晴て見渡せば秋風たかき大比えの山、冬鳥：ちりつからふ秋葉とみえて池の面の波のあやなすをのいくむれ」 仁孝天皇御製「夏草：はえあれやれざゆりなりてしこ色わきて草のまがきの露に吹かけ」
文政7年 6月24日	54	内裏	組題100首(2~3字題)仁孝：夏朝、秋山、冬鳥	為全朝臣	重能	為則	正房	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏朝：照しつる夜半の虫は影消てあさ日すましき露の草むら、秋山：たちこめし露吹晴て見渡せば秋風たかき大比えの山、冬鳥：ちりつからふ秋葉とみえて池の面の波のあやなすをのいくむれ」 仁孝天皇御製「夏草：はえあれやれざゆりなりてしこ色わきて草のまがきの露に吹かけ」
文政7年 6月25日	54	内裏	組題50首(2字題)仁孝：夏草	為全朝臣	重能	為則	正房	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏朝：照しつる夜半の虫は影消てあさ日すましき露の草むら、秋山：たちこめし露吹晴て見渡せば秋風たかき大比えの山、冬鳥：ちりつからふ秋葉とみえて池の面の波のあやなすをのいくむれ」 仁孝天皇御製「夏草：はえあれやれざゆりなりてしこ色わきて草のまがきの露に吹かけ」
文政7年 5月25日	54	仙洞	夜、別殿(小御所)に渡御。高松三位、基造朝臣等を召す					光格天皇実録	
文政7年 6月25日	54	仙洞	組題50首(3~4字題)光格：水上虫	為則	為則	為則	正房	有栖川宮本	
文政7年 6月29日	54	仙洞	六月祓・茅輪の事あり					光格天皇実録	
文政7年 7月4日	54	仙洞	九月中下旬に修学院山荘に御幸の旨を仰せ出す					光格天皇実録	
文政7年 7月7日	54	内裏	星夕言志 花さかぬことの葉ながら七種にそふるたるむけとほしはうけ南(院御製)	雅久朝臣	建房	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に掲載。大宮御歌なほころぶ萩の花ぞえならぬ、女郎花：をみなへしあだなる花とみながらも色めく野へは過がてにする、尾花：秋さぬとはやほにいてまねくなり尾花が袖の露の夕かせ」 仁孝天皇御製「脚殿もねがひのいとすな絶すかけしちざりや幾千々のあきし。女房遣：大典侍、室相典侍、督典侍、新十納言、権中納言、中將内侍、侍従内侍、命婦伊豫、命婦伯耆、命婦大御乳(卷末)
文政7年 7月14日	54	内裏	蘇裏に御幸					光格天皇実録	
文政7年 7月24日	54	内裏	萩花、女郎花、尾花	民部卿	雅光			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「萩花：こむらさき草のまがきのしら露にほころぶ萩の花ぞえならぬ、女郎花：をみなへしあだなる花とみながらも色めく野へは過がてにする、尾花：秋さぬとはやほにいてまねくなり尾花が袖の露の夕かせ」
文政7年 7月27日	54	仙洞	修学院離宮御茶屋の上棟を行う					光格天皇実録	
文政7年 8月1日	54	仙洞	八朔の儀					光格天皇実録	
文政7年 8月10日	54	仙洞	夜、別殿(小御所)に渡御。武者小路三位、恭光等を召す					光格天皇実録	
文政7年 8月18日	54	仙洞	鎮守社・柿本社等に参拝					光格天皇実録	
文政7年 8月24日	54	内裏	組題100首(2~5字題)仁孝：月前風、浦月、月前鈴虫	為全朝臣	雅久			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月前風：おさの葉のそよぐ夕の秋風に軒はくもらず月ぞよし人、浦月：塩塵の煙も空に立きてみるめさやけき月の浦津、月前鈴虫：澄月の影をやあかす鈴虫のふり出て鳴声もさやけし」
文政7年 8月30日	54	仙洞	組題20首(3字題)光格：秋團月	飛鳥井三位	建房			有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政7年 後8月4日	54	内裏	蘇裏に御幸					光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政7年 後8月10日	54		仙洞		光格天皇御製および事項 夜、別殿(小御所)に遊御。 新源三位、重徳朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政7年 後8月23日	54		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政7年 後8月24日	54	月次御会	内裏	雁、礎、契		左衛門督	建房		国会本内裏 有 烟川宮本	仁孝天皇御製「雁：花の香みやこの空をみ増しも月の秋 にはなびくかりがね、礎：身をさへもふけ行旅の小孩さ ぬたうらみかさねて衣うつらむ、契：底ひなく猫ゆく未 もいもせ川絶ぬながれを契りかはして」
文政7年 後8月27日	54		仙洞		小御所において管絃の御 遊。掌の御所作				光格天皇実録	
文政7年 後8月29日	54		仙洞		九月二十一日卯刻に修学院 山荘に御幸の事、治定				光格天皇実録	
文政7年 9月9日	54	重陽御会	内裏	菊花豊久		民部卿	雅久		国会本内裏 有 烟川宮本	仁孝天皇御製「いくめぐりつきぬ重葦をちぎりつゝ千年 もくまむきくのさかづき」。女房達：大典侍、宰相典侍、 督典侍、命婦伊藤、命婦伯耆、命婦大御乳(巻末)
文政7年 9月13日	54	当座御会	内裏	組題20首(2~4字 題)光格：月前紅葉	空にてる月の桂の下紅葉影 より露も落ちて染らし。(院御 製)	左衛門督	重能		国会本内裏 有 烟川宮本	仁孝天皇御製「月前風：さらでしも雲はかゝらぬ月影を 猫みがくとや秋風のふく」
文政7年 9月15日	54		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政7年 9月21日	54	修学院御幸 御会	修学 院	紅葉色添	染つくすこの山陰の千入に ぞめでこし世々の秋もしら るゝ	為則	為則		有 烟川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、翫遊軒二於テ和歌御会 ヲ行ハル、又、当座御会アリ、次ニ管絃ノ御遊アリ、笛、 笙、箏、琵琶ノ御所作アラセラル」(光格天皇実録)
文政7年 9月21日	54	於修学院御 当座	修学 院	水樹多佳題	樹々のこけうつる気色も岩 つたふたさのひゝさも澄る 池水	上皇御題	為則		有 烟川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、翫遊軒二於テ和歌御会 ヲ行ハル、又、当座御会アリ、次ニ管絃ノ御遊アリ、笛、 笙、箏、琵琶ノ御所作アラセラル」(光格天皇実録)
文政7年 9月24日	54	月次御会	内裏	組題100首(3~4 字題)仁孝：初紅葉、 夕紅葉、名所紅葉		飛鳥井三位	為脩		国会本内裏 有 烟川宮本	仁孝天皇御製「初紅葉：村しぐれまだ下染のはつ紅葉こ れもえならぬ色こそ見れ、夕紅葉：夕日影いま一しほ こそめつらしいとゝ色ます庭の紅葉ゝ、名所紅葉：いく 千八名にも立田の山ふかく麗をかけてぞめし紅葉ゝ」。
文政7年 9月28日	54		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政7年 10月4日	54		仙洞		玄猪の儀				光格天皇実録	
文政7年 10月5日	54		仙洞		夜、別殿(小御所)に遊御。 大原三位、基逸朝臣等を召 す				光格天皇実録	
文政7年 10月10日	54	当座御会	内裏	組題30首(2~3字 題)仁孝：海路		冷泉新三位	為脩		国会本内裏 有 烟川宮本	仁孝天皇御製「海路：おきつ風いたくな吹そさらでしも 渡りあやふき波の友舟」
文政7年 10月15日	54		仙洞		壽山亭で覆稻を御覧				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表一文政期編

文政7年 10月18日	54	当座御会	仙洞	内裏	組題20首(和歌の句)光格・雪ふりし さく	蘇襲に御幸 さらに又人こそはね山ざ とは雪ふりしきて道もわか れす	民部卿	為脩		光格天皇実録 有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政7年 10月21日	54		仙洞	内裏	蘇葉交雨、殘菊猶 句、海路浪通	小御所において蘇葉の御 遊。笛、琵琶の御所作	民部卿	為全		光格天皇実録 国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「蘇葉交雨：たてぬきに本葉とよもにふり いでし錦こきみだる村しくれかね、殘菊猶句：にほはず ばしられざらおくしもにもつづもれ残る庭の白きく、 海路浪通：わたの原漕行す奈もしら涼をばはるむわたる 沖のとも舟」
文政7年 10月22日	54	月次御会	仙洞	内裏			民部卿			光格天皇実録	
文政7年 10月24日	54	月次御会	仙洞	内裏	組題20首(2~4字 題)仁孝：夕雪、浦 辺雪、奇雪祝言	夜、別殿(小御所)に渡御。 左衛門督、為知等を召す	為全	為則		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夕雪：夕ぐれの道ただとし降り降つもるひ かりそしるべ野辺の白雪、浦辺雪：明石浦浦風さむみ見 渡せばゆきにごぎ行海人の釣舟。奇雪祝言：九重に山つ くりけるしら雪はげに豊年のしるし成らし」
文政7年 11月18日	54	月次御会	仙洞	内裏	組題30首(2字題) 光格：夜衾	あつぶすま重ねわぶよに賤 がやを思へば思へばさそ □らめ	左衛門督	雅久		有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政7年 11月24日	54	月次御会	仙洞	内裏	組題30首(4字題) 仁孝：蘇葉述懐		民部卿	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「蘇葉述懐：まなぶ書もしらぶる敏もそこ はかとあらでぞ年の書行はをし」
文政7年 12月15日	54	当座御会	仙洞	内裏		夜、別殿(小御所)に渡御。 新源三位、重徳朝臣を召す				光格天皇実録	
文政7年 12月17日	54		仙洞	内裏		蘇襲に御幸				光格天皇実録	
文政7年 12月21日	54		仙洞	内裏		御有卦明の御宴のため出御				光格天皇実録	
文政7年 12月23日	54		仙洞	内裏						光格天皇実録	
文政7年 12月24日	54	月次御会	仙洞	内裏	梅告春近、名所炭 竈、契行未恋		左衛門督	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「梅告春近：春かくなりにけらしら白雪 の降つもる枝に匂ふ梅が、名所炭竈：各に香き大原や まの冬されば絶すそけふぶる峯のすみがま、契行未恋：諸 共に行す奈たえすあた浪はかけしと契る恋の中河」
文政8年 1月1日	55		仙洞	内裏		四方拜に出御、諸臣に謁す				光格天皇実録	
文政8年 1月3日	55		仙洞	内裏		吉書御覧のため出御				光格天皇実録	
文政8年 1月7日	55		仙洞	内裏		千秋万歳・白馬御覧のため 出御				光格天皇実録	
文政8年 1月11日	55		仙洞	内裏		蘇襲に御幸				光格天皇実録	
文政8年 1月13日	55		仙洞	内裏		諸礼を行う。弘御所・小御 所に出御				光格天皇実録	
文政8年 1月14日	55		仙洞	内裏		太元師法・後七日御修法結 願のため西法阿闍梨参院。 弘御所に出御し謁す				光格天皇実録	
文政8年 1月17日	55		仙洞	内裏		御吉書・三翫打のため小御 所に出御				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政8年 1月18日	55	和歌御会始	仙洞	鶯声和琴	光格天皇御製および事項 春になるあつまのこのの鶯 蟲にみどりのとりもいらへ あふこゑ	飛鳥井三位	為脩	読師：皇太后宮権大 夫、講師：顕孝朝臣、 発声：冷泉新三位	有栖川宮本	大宮御歌なし。女房達：大すけ、新大納言、萬浦小路、 匂宮内侍、小少将、小侍従、命婦伊よ、命婦はづき、紀 伊（巻末）。『和歌御会始ヲ行ハル、出御アラセラル、御 親アリ』（光格天皇実録）
文政8年 1月27日	55		仙洞		夜、別殿（小御所）に渡御。 大蔵卿、保右朝臣を召す				光格天皇実録	
文政8年 1月28日	55	和歌御会始	内裏	春竹添色	此君とあふぐにつけて春毎 のめぐみの色も千尋そへて よ（院御歌）	為全	為則	読師：新源大納言、宛 講師：共福朝臣、発 声：持明院三位	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に掲載。大宮御歌な し。仁孝天皇御製「千尋あるかげもひとしほ色そひてけ にはるしるさ庭のくれたけ」（巻頭）。女房達：大典侍、 宰輔典侍、督典侍、新大納言、匂宮内侍、侍従内侍、命 婦伊予、命婦伯耆、命婦大御乳（巻末）
文政8年 2月4日	55	当座御会	内裏	組題30首（3～4字 題）：光格院：春草 漸滋	雪間のみ草のはつと見し 色のほるの日毎に青みわた れり（院御歌）	左兵衛督	為則	講師：顕孝朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「蘭樹昔霞：立ならぶ松のみどりの色そへ てたかね長閑に霞朝引」（巻頭）
文政8年 2月4日	55		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政8年 2月16日	55	当座御会	仙洞	組題30首（2～3字 題）：光格院：都早 春	うちひさす都よりまづ立そ めて千里の春をしく霞かな	左衛門督	俊明	隆光	有栖川宮本	『和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル』（光格天皇実 録）
文政8年 2月22日	55	水無瀬宮御 法楽	内裏	組題20首（3～4字 題）：仁孝：待花日暮 春		左兵衛督	建房	正房	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「待花日暮：桜花はやさかなんとまたれ つゝ霞日こす雲をながめくらしつ」
文政8年 2月22日	55	水無瀬宮御 法楽	仙洞	組題20首（3字題）： 光格院：子日松	いく千世と初ふにあかぬ初 子日手ことに野への小松受 つゝ	民部卿	為全	共福朝臣	有栖川宮本	『小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ』（光格天 皇実録）
文政8年 2月24日	55	月次御会	内裏	組題100首（3～4 字題）：仁孝：早春霞、 朝郭公、里落葉		民部卿	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早春霞：山端の雪もさながら立ちこめては るの色しる朝がすみかな、朝郭公：天の戸のあくるあし たにほととぎすすまたれし夜半の声なのるらむ、里落葉： 冬されば時雨とともにふりそひてこの葉ぞふかき山陰の 里」
文政8年 2月25日	55	聖廟御法楽	内裏	組題50首（1～2字 題）：仁孝：早春		左兵衛督	為脩	講師：為知	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早春：神垣の霞とよもにほころびてまづ 春みすす梅の初花」
文政8年 2月25日	55	聖廟御法楽	仙洞	組題25首（3～4字 題）：光格：社頭立春	かけたかき松の一夜に立か へる春をみどりの霞む神が さ	左衛門督	俊明	講師：顕孝朝臣	有栖川宮本	『小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ』（光格天皇実 録）
文政8年 3月7日	55		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政8年 3月8日	55	当座御会	内裏	組題20首（1～2字 題）：光格：桃	陰とへといはほても花の紅に ゆきよそしげき桃の下みち （院御歌）	飛鳥井中納言	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春月：えならずよ尾上の花の雲間よりか すみて匂ふ春のよの月」（巻頭）
文政8年 3月8日	55		仙洞		夜、別殿（小御所）に渡御。 大蔵卿、隆起朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政8年 3月18日	55	神影供	仙洞	風静花芳	かまりつゝ歌ことしらぬ花 とのみいふばかりにもかす むはる風	左兵衛督	俊明	読師：按察大納言、宛 講師：光輝、発声： 左兵衛督	有栖川宮本	『楠本社神影供ヲ行ハル、出御アラセラル』（光格天皇実 録）
文政8年 3月23日	55		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表 一文政期編

文政8年 3月24日	月次御会	内裏	藤原江、款冬盛、奇藤恋		左兵衛督	重能	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「藤原江：戀しほもゆぶくれなるの色そひぬ岡辺のつゝし照す日影に、款冬盛：さとの子も心やそぬもものいはぬ色にさかひの山吹、奇藤恋：思ふその契りにかゝれ藤かつらふかむらさきの色をゆかりと」
文政8年 4月22日	55	仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 男女を召さず			光格天皇実録	
文政8年 4月24日	月次御会	内裏	組題100首(2~5字題)仁孝：岸卯花、夕待郭公、夏笛		左兵衛督	俊明	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「岸卯花：しづがさらす布ともみえて玉河や岸ねつゝきに咲る卯花、夕待郭公：夕月のほのめく影をみても顔鳴ねまたる>山ほとゝぎす、夏笛：あけまきがかよふさすささひか草深き夏の>原の笹竹の声」
文政8年 5月13日	55	仙洞		壽山亭で挿袂を御覽			光格天皇実録	
文政8年 5月24日	月次御会	内裏	郭公、梅花、眺望		飛鳥井中納言	俊明	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「郭公：時きぬとしのだの社の楳より干枝にふり出て鳴ほとゝぎす、梅花：なつかしき藤のゆかりの色みせて咲やあふらの花もえならず、眺望：さみだれのはる>夕辺に見渡せば高ねすゝしく入日さすかじ」
文政8年 6月5日	55	仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 男女を召さず			光格天皇実録	
文政8年 6月10日	当座御会	内裏	組題20首(2字題)仁孝：夏雨		左衛門督	雅光	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏雨：水無月のたへぬあつさも降ほどははらひてすゝし風のむら雨」
文政8年 6月16日	55	仙洞		嘉祥の儀あり			光格天皇実録	
文政8年 6月24日	月次御会	内裏	組題10首(1~2字題)仁孝：地鏡、鳥、神祇		飛鳥井中納言	為全	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「地鏡：月に輝みがくすがたの涼しきはなつの外なる雪のふじのは、鳥：こ>かしこ魚のよる瀬か河氷にのみ毛もぬれてあさ日ささ、神祇：天てらす神のめぐみに幾よもわがあし原の国はうこかし」
文政8年 6月25日	55	聖廟御法楽	組題50首(1字題)仁孝：扇		勅題(仁孝天皇)	建房	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「扇：夏はたゝならす扇よあつさをもよそに吹やる風のすゝしさ」
文政8年 6月25日	55	聖廟御法楽	組題50首(1~2字題)光格：夏浦	浦風のいそへの松の陰すゝしくるれば月の夜しほざしきて	勅題(光格天皇)	重能	国会本内裏 有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実録)
文政8年 6月29日	55	仙洞		六月祓・茅輪のため出御			光格天皇実録	
文政8年 7月7日	55	内裏	七夕鳥	天河ほしの舟出もいそぐとやこ糸をほにあげてかりのきつらむ(院御製)	飛鳥井中納言	俊明	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製(巻頭)、光格上皇御製の順に揚載。仁孝天皇御製「鳥のねもこのあかつきは心せよとしにひと夜のほしあひのそら」。女房達：大典侍、宰相典侍、髻典侍、新大納言、勾当内侍、侍従内侍、命婦伊豫、命婦白誓、命婦大御乳(巻末)
文政8年 7月14日	55	内裏		蔡襄に御幸			光格天皇実録	
文政8年 7月18日	55	仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 武者小路三位、隆起朝臣等を召す			光格天皇実録	
文政8年 7月24日	55	内裏	秋植物、秋動物、恋雑物		雅久	雅光	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「秋植物：庭の面に花の千種をうゑてこそ野もせの秋の錦をもみれ、秋動物：初秋もおのかりはよやさきままたきに來なく衣かりかね、恋雑物：思ひをばなみだともにかきこめてけさやる書は哀も思ふよ」

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政8年 8月1日	55		仙洞		光格天皇御製 八朔の儀あり				光格天皇実録	
文政8年 8月5日	55		内裏		菘裏に御幸				光格天皇実録	
文政8年 8月10日	55		仙洞		御有卦入により賜宴あり。 出御				光格天皇実録	
文政8年 8月16日	55	当座御会	内裏	組題30首 (3~4字 字題) 光格・月前猪	月になる臥猪の床は白砂に つゆかゞやくを何とわぶら ん (院御製)	民部卿	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月前猪：つまごひのよるのおもひもいか ならん晴わたる月にをじか鳴声」
文政8年 8月21日	55		仙洞		前関白一條忠良への古今伝 受のため、石見国高角山眞 福寺に九月十五日より十七 日間、祈禱を仰せつく				光格天皇実録	
文政8年 8月23日	55		仙洞		女御藤原祺子の入内によ り、菘裏、大宮、女御等と 御祝儀の贈答あり				光格天皇実録	
文政8年 8月24日	55	月次御会	内裏	組題100首 (2~4 字題) 仁孝：兼月照 松、奇雁恋、秋浦		左衛門督	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「兼月照松：影はれて照せる月の峰高みた ちならぶ松の数もみるべく、奇雁恋：物思ふわがたくひ かも秋風になきてそきてそきてる衣かりがね、秋浦：もしほや く孝人のいそやははいふせきに猶立まふ浦の秋ざり」
文政8年 8月26日	55		内裏		菘裏に御幸				光格天皇実録	
文政8年 8月28日	55		仙洞		御有卦入の御賀により、 内々、仕舞躰子能を御覽				光格天皇実録	
文政8年 9月1日	55		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 總小路三位、基逸朝臣等を 召す				光格天皇実録	
文政8年 9月5日	55		仙洞		前関白一條忠良への古今伝 受のため、住吉・玉津島の 面社および明石月照寺に九 月十三日より十七日間、祈 禱を仰せつく				光格天皇実録	
文政8年 9月7日	55		仙洞		前関白一條忠良への古今伝 受のため、伊勢神宮・多賀 社に九月十三日より祈禱を 仰せつく				光格天皇実録	
文政8年 9月9日	55	重陽御会	内裏	菊有長生種		左兵衛督	重能		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「秋ことにつきぬこと草の薺なれはさかり もいく世白ぎくのはな。女房達：宰相典侍、勾当内侍、 侍従内侍、命婦伊藤、命婦大御乳 (卷末)」
文政8年 9月10日	55		仙洞		前関白一條忠良への古今伝 受のため、下御霊・上御 霊・下鴨・上賀茂・八幡の 五社および南都大宮社・若 宮社に、九月十三日より十 七日間、祈禱を仰せつく				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表 — 文政期編

文政8年 9月13日	55	仙洞								前園白一條忠貞への古今伝受のため、松尾・稲荷・平野・北野の四社に、九月十五日より十七日間、折椿を仰せつく					光格天皇実録	
文政8年 9月21日	55	仙洞								前園白一條忠貞へ古今伝受を相伝					光格天皇実録、宮内庁書陵部「古今和歌集伝授」(210-694)	
文政8年 9月23日	55	仙洞								小御所において管絃の御遊あり。出御。等の御所作					光格天皇実録	
文政8年 9月24日	55	内裏	月次御会	月契多秋、紅葉下菊、名所浦鶴					飛鳥井中納言		雅久				国会本内裏有烟川宮本	仁孝天皇御製「月契多秋：名におふもげに長月のひかりそとちぎり尽せぬいく千世の秋、紅葉下菊：えなちすよ秋のしきの色々はもみちのかげに匂ふむらさく、名所浦鶴：幾千とせさかえむみちをまなづるもゆたかにあそぶ和歌のうら波」
文政8年 9月24日	55	内裏								蘇我に御幸					光格天皇実録	
文政8年 10月2日	55	仙洞								後醍醐天皇の十三回忌を引き上げ、小御所において御法会を行う					光格天皇実録	
文政8年 10月3日	55	仙洞								後醍醐天皇の十三回忌を引き上げ、小御所において御法会を行う。御節法講当日により出御。等の御所作					光格天皇実録	
文政8年 10月10日	55	仙洞								玄猪の儀					光格天皇実録	
文政8年 10月13日	55	仙洞								夜、別殿(小御所)に渡御。武者小路三位、隆起朝臣等を召す					光格天皇実録	
文政8年 10月15日	55	仙洞								壽山亭で櫻稻を御覽					光格天皇実録	
文政8年 10月18日	55	和歌当座御会	松霜、浦浪						民部卿	松霜：霜に猶言葉のさかえあらはれて冬枯しらぬ松の陰かな、浦浪：かきあつむもくずも玉のかひあれば光をよする和歌のうら浪	為全				有烟川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラシ、御覧アリ」(光格天皇実録)
文政8年 10月19日	55	仙洞								御幸供奉召具衣体人数等を定む					光格天皇実録	
文政8年 10月20日	55	仙洞								小御所において管絃の御遊あり。出御。等の御所作					光格天皇実録	
文政8年 10月23日	55	修学院御当座	組題6首(2字題) 光格：冬山、冬田						為則	冬山：散紅葉るこのはをかつひろひかつつ分のほる冬山の山みち、冬田：かり衣思ひたゝすは朝まだき冬田の面の霜は具ましや	為則				有烟川宮本	「修学院齋宮ニ御幸アラセラル、先ツ壽月御二渡御、次ニ窮還軒ニ於テ和歌当座御会ヲ行ハル、寿イテ壽月御二還御、管絃ノ御遊アリ、鞠鼓、笛、琵琶ノ御所作アラセラル」(光格天皇実録)

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政8年 10月23日	55	於修学院御 当座 後座	修学 院	十月昇紅葉(各冒頭 に「かみなつぎのち のみかひえちかきや まにのこすもみちを もてあそぶ」の一字 つづを置く) 光格; み 十月見紅葉	光格天皇御製および事項 みねつゞさき比えのわかけて 冬結ましらぬ山とも見ゆる 紅葉s	為則	為則		有栖川宮本 有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先ツ壽月觀二薄御、次 二窮遠軒二於テ和歌当座御会ヲ行ハル、專メテ壽月觀ニ 遠御、管絃ノ御遊アリ、鞆鼓、笛、琵琶ノ御所作アラセ ラル」(光格天皇実録)
文政8年 10月24日	55	月次御会	内裏	細題100首(2~4 字題)仁孝:朝霜、 雪中残雁、庭早梅		為全	為則		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「朝霜: 冴々し有明のかねに此朝け思ひあ はする霜の白妙、雪中残雁: 降雪に道たどたとし天つ雁 月にさなかなばまどはじものを、庭早梅: 鶯もさそはれつ へし梅が>の春まつ庭にまださき切ひて」
文政8年 10月27日	55		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政8年 11月24日	55	月次御会	内裏	朝雪、水鳥、祝言		勅題(仁孝天 皇)	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「朝雪: 松竹もさよもまがさきもつもれて たゞしら雪の朝戸出の庭、水鳥: 池水のこぼりのとこに よもすがらうきねわびてやをしの鳴らむ、祝言: 武夫の やしまの波も動きなく風ゆたかなる戸原のくに」
文政8年 11月27日	55		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。				光格天皇実録	
文政8年 11月28日	55		内裏		源三位、基逸朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政8年 12月11日	55		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政8年 12月17日	55	和歌当座御 会	内裏	細題20首(3~4字 題)仁孝: 庭雪積		左兵衛督	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「庭雪積: 庭の面は雪より外の色もなしむ へ九重に降つもりつゞ」
文政8年 12月24日	55	月次御会	内裏	細題100首(2~5 字題)仁孝: 暁天千 鳥、契久恋、和琴		左兵衛督	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「暁天千鳥: 友千どりともよぶ声も響けし な霜夜の月の有明の空、契久恋: 契りてしそのかねごと もいたづらにむなしく過る中ぞひさしき、和琴: たぐひ なきあつまつまのこのしらべこそ神代の風を吹つたへけ れ」
文政8年 12月28日	55		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 東久世三位、保右朝臣等を 召す				光格天皇実録	
文政9年 1月1日	56		仙洞		四方拜を行う。出御なし				光格天皇実録	
文政9年 1月2日	56		仙洞		拜礼あり。諸臣に謁す				光格天皇実録	
文政9年 1月3日	56		仙洞		吉書御覽のため出御。小御 所において親王以下諸臣に 謁す				光格天皇実録	
文政9年 1月7日	56		仙洞		千秋万歳・白馬御覽のため 出御				光格天皇実録	
文政9年 1月13日	56		仙洞		諸礼を行う				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表一 文政期編

文政9年 1月14日	56	仙洞	太元帥法結願・後七日御修法のため両法阿闍梨參院。 講す	飛鳥井中納言	俊明	読師：新源大納言、講師：為和、発声：持明院三位	光格天皇実録	中宮御歌なし。女房達：木すけ、新大納言、新中納言、舊浦小路、勾当内侍、小少将、小侍従、命婦伊世、紀伊(巻末)。「和歌御会始ヲ行ハル、出御アラセラシ、御製アリ」(光格天皇実録)
文政9年 1月17日	56	仙洞	御吉書・三穂打のため小御所に出席	飛鳥井中納言	雅久	読師：皇太后宮大夫、講師：顕孝朝臣、発声：飛鳥井中納言	光格天皇実録	仁孝天皇御製「花鳥のいちねをこめて春の日のひかりのどかにかすむぞらかな」(巻頭)。女房達：大典侍、宰相典侍、督典侍、新大納言、権中納言、勾当内侍、侍従内侍、命婦伊世、命婦大乳(巻末)
文政9年 1月18日	56	仙洞	霞中春風	飛鳥井中納言	為脩	読師：隆光	光格天皇実録	仁孝天皇御製「立春：山鳥の尾上のどかにかすみつゝけさしも春は立かへるらん」(巻頭)
文政9年 1月24日	56	内裏	春天象	飛鳥井中納言	俊明	読師：共福朝臣	光格天皇実録	仁孝天皇御製「春草處々：雪消の春を見せけりむらむらにこのもかもの草のみどりば」
文政9年 1月27日	56	内裏	組題30首(1～2字題) 光格：竹	飛鳥井中納言	建房	読師：顕孝朝臣	光格天皇実録	「和歌当座御会始ヲ行ハル、出御アラセラリ」(光格天皇実録)
文政9年 2月10日	56	仙洞	夜、別殿(呉服所)に渡御。源三位、保右朝臣等を召す	左兵衛督	光成	講師：光暉	光格天皇実録	仁孝天皇御製「山早春：うちはへてのどけき風の音羽山吹よなりひく春霞かな、田家鹿：秋田もる膝が寝寒の友ならんかり庵ちかくをじか鳴こゑ、増恋：つれなしと思ひすて>も中々にまさるや何のまよひ成らん」
文政9年 2月13日	56	内裏	蔡襄に御幸始	左兵衛督	光成	講師：光暉	光格天皇実録	仁孝天皇御製「花間月：神もさぞあかずやみむ木間もる月にかすめる花の盛を」
文政9年 2月22日	56	内裏	水無瀬宮御法楽	民部卿	為脩	為知	光格天皇実録	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ振講アリ」(光格天皇実録)
文政9年 2月22日	56	内裏	組題20首(2～4字題) 仁孝：早春處々	飛鳥井中納言	重能	講師：光暉	光格天皇実録	仁孝天皇御製「山早春：うちはへてのどけき風の音羽山吹よなりひく春霞かな、田家鹿：秋田もる膝が寝寒の友ならんかり庵ちかくをじか鳴こゑ、増恋：つれなしと思ひすて>も中々にまさるや何のまよひ成らん」
文政9年 2月22日	56	仙洞	組題20首(3字題) 光格：月前桜	飛鳥井中納言	光成	講師：源大納言、講師：正房、発声：源三位	光格天皇実録	仁孝天皇御製「花間月：神もさぞあかずやみむ木間もる月にかすめる花の盛を」
文政9年 2月23日	56	仙洞	組題30首(3～4字題) 光格：霞岡山麝	左兵衛督	光成	講師：光暉	光格天皇実録	仁孝天皇御製「春草處々：雪消の春を見せけりむらむらにこのもかもの草のみどりば」
文政9年 2月24日	56	内裏	組題100首(2～4字題) 仁孝：山早春、田家鹿、増恋	民部卿	為脩	為知	光格天皇実録	仁孝天皇御製「山早春：うちはへてのどけき風の音羽山吹よなりひく春霞かな、田家鹿：秋田もる膝が寝寒の友ならんかり庵ちかくをじか鳴こゑ、増恋：つれなしと思ひすて>も中々にまさるや何のまよひ成らん」
文政9年 2月25日	56	内裏	組題5首(3字題) 仁孝：花間月	飛鳥井中納言	重能	講師：光暉	光格天皇実録	仁孝天皇御製「花間月：神もさぞあかずやみむ木間もる月にかすめる花の盛を」
文政9年 2月25日	56	仙洞	組題50首(2～3字題) 光格：漸待花	左兵衛督	光成	講師：源大納言、講師：正房、発声：源三位	光格天皇実録	仁孝天皇御製「春草處々：雪消の春を見せけりむらむらにこのもかもの草のみどりば」
文政9年 3月18日	56	仙洞	神影供	飛鳥井中納言	雅光	講師：源大納言、講師：正房、発声：源三位	光格天皇実録	仁孝天皇御製「春草處々：雪消の春を見せけりむらむらにこのもかもの草のみどりば」
文政9年 3月23日	56	修学院御当座	於修学院御当座	雅光	雅光	講師：源大納言、講師：正房、発声：源三位	光格天皇実録	仁孝天皇御製「春草處々：雪消の春を見せけりむらむらにこのもかもの草のみどりば」
文政9年 3月23日	56	修学院御当座	於修学院御当座	雅光	雅光	講師：源大納言、講師：正房、発声：源三位	光格天皇実録	仁孝天皇御製「春草處々：雪消の春を見せけりむらむらにこのもかもの草のみどりば」
文政9年 3月23日	56	修学院御当座	於修学院御当座	雅光	雅光	講師：源大納言、講師：正房、発声：源三位	光格天皇実録	仁孝天皇御製「春草處々：雪消の春を見せけりむらむらにこのもかもの草のみどりば」

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政9年 3月24日	56	月次御会	内裏	春曙花、苗代蛙、霧 旅野	光格天皇御製	雅久	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春曙花：横雲のかすむにほひにえならず もたかねの花のたむらひの、苗代蛙：けふしもや水ま かせつる苗代に小田のかはつのでなく、霧旅野：の るこまの声もどかにはるばると響をわくる武藏野>は ら」
文政9年 3月24日	55		仙洞		夜、別殿（呉服所）に渡御。 刑部卿、永鳳等を召す				光格天皇御製	
文政9年 3月26日	55		内裏		禁裏に御幸				光格天皇御製	
文政9年 4月24日	56	月次御会	内裏	組題20首（1～2字 題）仁孝：若竹、橋、 夏月		雅光	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「若竹：こと生のかげ涼しくも淡みどり 小枝にむすぶ露のわか竹、橋：今年より千世の五月も匂 はなむつるし露の庭の立花、夏月：かさゝぎのわたせる 橋の白砂に影みるほど夏よの月」
文政9年 4月30日	56	当座御会	内裏	組題30首（2字題） 仁孝：朝霞		左衛門督	重能		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「朝霞：山端の明るあしたの淡みどりはる しる色に霞そめつ>」
文政9年 5月7日	56		内裏		禁裏に御幸				光格天皇御製	
文政9年 5月8日	56		仙洞		夜、別殿（呉服所）に渡御。 源三位、恭光等を召す				光格天皇御製	
文政9年 5月14日	56		仙洞		柿本社外遷座を行う				光格天皇御製	
文政9年 5月17日	56	当座御会	内裏	組題30首（3～4字 題）仁孝：名所旅		民部卿	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「名所旅：うつの山越るやうつ>故郷を夢 にも吹ぶつたの細道」
文政9年 5月24日	56	月次御会	内裏	山郭公、浦郭公、里 郭公		左兵衛督	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「山郭公：尋ねこしかひありけりなあし曳 の山ほとゝぎす鳴わたるこ糸、浦郭公：すま明石浦づた ふ声はすゝしさの月にあくがれしほとゝぎすかも、里郭 公：時きぬと遠こちわかず里なれてなくや五月の山ほ とゝぎす」
文政9年 5月24日	56		仙洞		壽山亭で挿袂を御覽				光格天皇御製	
文政9年 6月15日	56	当座御会	内裏	組題20首（3～4字 題）仁孝：朝納涼		左兵衛督	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「朝納涼：朝まだき衣手すゝし軒ばより風 も吹わたる庭のやり水」
文政9年 6月16日	56		仙洞		嘉祥の儀あり。出御				光格天皇御製	
文政9年 6月19日	56		仙洞		この日の夜、柿本社正遷宮 を行う				光格天皇御製	
文政9年 6月21日	56		仙洞		夜、別殿（呉服所）に渡御。 今出川中納言、久雄朝臣等 を召す				光格天皇御製	
文政9年 6月24日	56	月次御会	内裏	組題33首（かな纏） 仁孝：しなでし こ、ちおち葉、か あかつき		飛鳥井中納言	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「しなでしこ：白露の重てしほ色ぞそ ふやまとなでしこ花の錦も、ちおち葉：ちり敷て唐紅 のからにしき庭は木葉に冬もやつさす、かあかつき： かねの音鳥の声より眠をしるくもみする明星のかね」
文政9年 6月25日	56	聖廟御法楽	内裏	組題50首（3～4字 題）仁孝：瀧間強		民部卿	重能	講師：顕孝朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「瀧間強：涼しくも葉のほる露こみえてけ りあしの茂みにすがるほたるは」

光格上皇主催御会和歌年表—文政期編

文政9年 6月25日	聖廟御法楽	仙詞	組題25首(3~4字 題)光格・社頭納涼 り(行)	神がきの松ぶくかぜはこと さらにしらぶる声も涼しか り(行)	為則	為則	講師：隆光	有栖川宮本	
文政9年 6月30日		仙詞		六月初・茅輪のため出御				光格天皇実録	仁孝天皇御製「光格上皇御製の順に相輔、大宮御製な し。仁孝天皇御製「ほしややさぞこころ涼き今夜ぞとお もひはれし天のうき雲」(巻頭)。女房達：大典侍、権中 相典侍、督典侍、按察使典侍、権典侍、新大納言、権中 納言、勾当内侍、侍従伊豫、命婦大御乳(巻 末)
文政9年 7月7日	七夕御会	内裏	七夕述懐	あだならぬちぎりはかくと いは枕そらにかたためし星の いもせか(院御歌)	民部卿	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「蘭：紫の色なつかしみほころびて露さへ にはほふ藤袴がな、蚕：やよさむき草葉の床の鷹わびて枕 とひよるさり言りすかも、恨：よにもつえにし成らん あま衣うらみばかりにしほたる」とは]
文政9年 7月14日		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政9年 7月24日	月次御会	内裏	蘭、蚕、恨		左兵衛督	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「蘭：紫の色なつかしみほころびて露さへ にはほふ藤袴がな、蚕：やよさむき草葉の床の鷹わびて枕 とひよるさり言りすかも、恨：よにもつえにし成らん あま衣うらみばかりにしほたる」とは]
文政9年 8月1日		仙詞		八朔の儀あり				光格天皇実録	
文政9年 8月2日		仙詞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 左衛門督、水尾等を召す				光格天皇実録	
文政9年 8月7日		仙詞		仁孝天皇の皇女成宮の葬去 により三日間、朝言を停む				光格天皇実録	
文政9年 8月16日	当座御会	内裏	組題20首(3字題) 仁孝：月下薄		飛鳥井中納言	為則		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月下薄：いさよひの月にみかきて花す> さいと>白紗の袖を露けき」
文政9年 8月24日	月次御会	内裏	組題20首(4字題) 仁孝：名所原月、名 所瀬月、名所濱月		左兵衛督	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「名所原月：秋風の吹はらふま>に波晴て さやけき月の浮嶋がはら、名所瀬月：龍の尾のたきのし ら玉夜と>もにちよの敷をもみがく月かけ、名所濱月： 心なき海人の小ふねもおのづから打出の濱の月のさやけ さ」
文政9年 9月9日	重陽御会	内裏	庭籬菊		左衛門督	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「色に香に庭のまがきをよそほひてけふな が月とにほふさきくかな。光格上皇御製・中宮御歌、な し。女房達：大典侍、権典侍、勾当内侍、侍従 内侍、命婦伊豫、命婦大御乳(巻末)
文政9年 9月14日		仙詞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 刑部卿、重徳朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政9年 9月21日		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政9年 9月24日	当座御会	内裏	組題30首(3~4字 題)仁孝：庭上菊		左衛門督	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「庭上菊：庭の面やこ>もかしこもつろ はずむべ長月の花のむら菊」
文政9年 9月24日	月次御会	内裏	紅葉有浅深、刈月惜 秋、瀧音幽		為則	為則		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「紅葉有浅深：露しくれそめはつくさぬほ どみえて薄きもこきもまじる紅葉、刈月惜秋：菊紅葉 色はふりつ>なが月も暮行かけに名残つきせぬ、瀧音 幽：山ぶかみおつる岩ねを尋ねまし言かずかにもひ>< 瀧波」
文政9年 9月24日		仙詞		前関白一條忠良へ一事伝受 のため、二十五日晩より二 十六日午半刻まで御神事を 仰せ出す				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政9年 9月26日	56		仙洞		光格天皇御製および事項 前関白一條忠良へ和歌灌頂 以後の伝受(一事伝受)を 相伝				光格天皇実録	
文政9年 9月28日	56	当座御会	仙洞	組題30首(1~2字 題)光格・田家	八束穂にあまるみのりの稲 むしろしつが門田に歌はへ て見ゆ	飛鳥井中納言	建房		有栖川宮本 「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)	
文政9年 10月4日	56		仙洞		小御所において聖徳太子像 を御覽				光格天皇実録	
文政9年 10月5日	56	内裏			禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政9年 10月6日	56		仙洞		前左大臣二条治孝、薨去。 この日より三日間、物言を 停む				光格天皇実録	
文政9年 10月18日	56	於修学院御 当座	修学 院	組題30首(3~4字 題)光格・豊紅葉	なもしらぬ木草をしなへ染 つくす野山の紅葉みれどあ かぬ也	為全	為全		有栖川宮本 「修学院離宮二御幸アラセラル、先ツ壽月御二於テ和歌 当座御会ヲ行ハル、壽イテ脚置亭二渡御、又御庭、赤山 邊ヲ御歴覧、次二露渡軒二於テ管絃ノ御遊ヲ行ハル、箏、 篳ノ御所作アラセラル」(光格天皇実録)	
文政9年 10月18日	56	於修学院御 当座 後座	修学 院	組題6首(3字題) 光格・冬居所	わがをれば雲を隙の山ほど も冬さびずして袖つたぶ也	為全	為全		有栖川宮本 「修学院離宮二御幸アラセラル、先ツ壽月御二於テ和歌 当座御会ヲ行ハル、壽イテ脚置亭二渡御、又御庭、赤山 邊ヲ御歴覧、次二露渡軒二於テ管絃ノ御遊ヲ行ハル、箏、 篳ノ御所作アラセラル」(光格天皇実録)	
文政9年 10月24日	56	月次御会	内裏	組題100首(1~4 字題)仁孝・鶯、寒 松、寄衣恋		左衛門督	重能		国会本内裏 有栖川宮本 仁孝天皇御製「鶯：うら枯の尾花の末のあけ行をわびて やつらら夜たゝ鳴声 寒松：積雪のむすほほほる夜に言た てゝたゝくも寒し庭の松かせ、寄衣恋：薨だにとかかへす もあやな小夜衣うらみのみなるつらさかさねて、	
文政9年 10月26日	56		内裏		猿蓑御覧のため禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政9年 10月27日	56	仙洞			玄雉の儀				光格天皇実録	
文政9年 10月28日	56		仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 男女ともに召さす				光格天皇実録	
文政9年 11月4日	56		仙洞		壽山亭で猿蓑を御覧				光格天皇実録	
文政9年 11月7日	56		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政9年 11月20日	56		仙洞		仁孝天皇に伊勢物語伝受を 相伝するため、十一月二十 五日より十七日間、住吉・ 五津島高社および明石月照 寺に御祈禱を仰せつく				光格天皇実録	
文政9年 11月24日	56	月次御会	内裏	名所山雪、名所野 雪、名所浦雪		飛鳥井中納言	雅久		国会本内裏 有栖川宮本 仁孝天皇御製「名所山雪：朝ゆふにむかふ丈北枝の山の はも焼かげたかく雪名隆つむ、名所野雪：しながとどり猪 名野さゝ原そよいまはおとせぬ雪のつもるしづげさ、名 所浦雪：沖つ風ふささそひきてなみひろく雪になるみの 浦の明ほの、	

光格上皇主催御会和歌年表—文政期編

文政9年 11月25日	56		仙洞				仁孝天皇に伊勢物語伝受を相伝するため、十二月一日より十七日間、伊勢神宮に御祈禱を仰せつく					光格天皇実録	
文政9年 11月29日	56		仙洞				仁孝天皇に伊勢物語伝受を相伝するため、十二月一日より七日間、上御霊・下御霊・北野社および賀茂太田社に御祈禱を仰せつく					光格天皇実録	
文政9年 12月5日	56		内裏				禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政9年 12月10日	56		仙洞				夜、別殿(皇殿所)に渡御。新源三位、為知等を召す					光格天皇実録	
文政9年 12月11日	56		内裏				禁裏に御幸し、仁孝天皇に伊勢物語伝受を相伝					光格天皇実録	
文政9年 12月21日	56	当座御会	内裏				ちりうせす采めぬかげはいやつぎに満守の浦の松の言の葉(院御製)		民部卿	為脩	講師：隆光	国奈本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「梅始開：春はいまだ朝暈むすふ庭の面にはやくも咲る梅のはつ花」(巻頭)
文政9年 12月25日	56	当座御会	仙洞				組題30首(2~3字題) 光格：名所松		民部卿	雅久		有栖川宮本	「黒日、和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政9年 12月25日	56		仙洞				組題30首(2~3字題) 光格：薦告春					光格天皇実録	
文政9年 12月24日	56	月次御会	内裏				組題100首(2~4字題)仁孝：庭冬月、歳暮梅、冬鶴		左兵衛督	俊明		国奈本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「庭冬月：鏡水のながれも氷る庭の面のまさこの月の影ぞ寒けき 歳暮梅：しら雪のつもれる年もわかさへる春待あへず匂ふ梅がえ、冬鶴：降つもるみさりの雪に立まがふつばさくもらぬ鶴の毛衣」
文政10年 1月1日	57		仙洞				四方拜のために出御。常御所に出御し諸臣に讃す					光格天皇実録	
文政10年 1月2日	57		仙洞				拜礼あり					光格天皇実録	
文政10年 1月3日	57		仙洞				吉書御覧のため出御。また、拜礼あり					光格天皇実録	
文政10年 1月4日	57		内裏				禁裏に御幸始					光格天皇実録	
文政10年 1月5日	57		仙洞				拜礼あり					光格天皇実録	
文政10年 1月7日	57		仙洞				千秋万歳・白鳥御覧のため出御					光格天皇実録	
文政10年 1月10日	57		仙洞				夜、別殿(小御所)に渡御。六角前宰相、為知等を召す					光格天皇実録	
文政10年 1月13日	57		仙洞				諸礼を行う					光格天皇実録	
文政10年 1月14日	57		仙洞				太元帥法結願・後七日御修法のため高法阿闍梨、参院					光格天皇実録	
文政10年 1月15日	57		仙洞				御吉書・三程打のため小御所に出御					光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政10年 1月18日	57	御会始	仙洞	雪透霞	光格天皇御製および事項 山姫ややなぎのきぬの霞も透 のを着つるはゆきの霞む透 かけ	民部卿	雅久	読師：民部卿、講 師：正房、発声：雅 久	有栖川宮本 有栖川宮本	大宮御歌なし。女房連：大典侍、新大典言、権中納言、 葛蒲小路、勾当内侍、小少将、命婦伊世、命婦 伯耆、紀伊(巻末)。「和歌御会始ヲ行ハル、出御アラセ ラル、御製アリ」(光格天皇実録)
文政10年 1月28日	57	和歌御会始	内裏	毎日有春色	毎朝毎朝さのふはあささき春 の色とかすみすもどもに立ま さりつ>>(院御製)	左兵衛督	為脩	読師：皇太后宮権大 夫、講師：共福朝臣、 発声：左衛門督	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の準に掲載。仁孝天皇御製 「朝日影かすみしひよいく日へて四方におまねまはる の色かな」(巻頭)。大宮御歌なし。女御・女房連：女御、 大すけ、宰相のすけ、督のすけ、あざの典侍、権すけ、 しむ大納言、侍従のなしい、命婦いほ、命婦はつぎ、命 婦大御乳、やまと(巻末)
文政10年 2月13日	57	当座御会	内裏	組題30首(4字題) 光格：花満山河	峯の雲も麓の河の波かけて つ>>くよしの>花の色かな 〔院御製〕	左兵衛督	光成	読師：顕孝朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「霞裏聞書：立こめし霞をもる>>こゑはな ほのどかにぞ聞春の露」(巻頭)
文政10年 2月20日	57	仙洞			夜、別殿(小御所)に渡御。 源三位、重徳朝臣等を召す。				光格天皇実録	
文政10年 2月22日	57	水無瀬宮御 法楽	内裏	組題20首(2~3字 題)仁孝：晴雨驚		左衛門督	光成	読師：為知	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春の色を水無瀬の山の有明にたむけてつ くる露のこゑ」
文政10年 2月22日	57	水無瀬宮御 法楽	仙洞	組題20首(2~4字 題)光格：露森山色	あさなあさなたてる霞も色 そひて山のすがたぞ春めき にける	雅久	雅久	読師：共福朝臣	有栖川宮本	「小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天 皇実録)
文政10年 2月23日	57	当座御会	仙洞	組題30首(2字題) 光格：山霞	月□(虫損)にみかさし光 たちかへてまさかさ霞む天 のかく山	左衛門督	重能	読師：為知	有栖川宮本	「和歌当座御会始ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇 実録)
文政10年 2月24日	57	月次御会	内裏	組題20首(2字題) 仁孝：初花、夕花、 河花		飛鳥井中納言	重徳		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「初花：吹風の猶芥ながら春そとてひもど く今朝の花はめつらし、夕花：長き日もあかすなめし 色も猶いましほの花の夕ばへ、河花：あたら色のつづ ろふことは早瀬河花にかけてよ水のしからみ」
文政10年 2月24日	57	仙洞			准大臣一様治濟薨養あり。 この日より三日間、物音を 停む				光格天皇実録	
文政10年 3月2日	57	聖廟御法楽	仙洞	組題10首(3字題) 光格：露中桜	薄みどりうす紅のかすみよ りもる>桜の色そえならぬ	飛鳥井中納言	俊明	講師：隆光	有栖川宮本	「小御所二於テ去月分ノ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光 格天皇実録)
文政10年 3月18日	57	神影供	仙洞	春日望山	花の雲もかすみのみをに立 こめてはほるふかさ色のやよ ひ山かな	左衛門督	重能	読師：按察大納言、 講師：光暉、発声： 左衛門督	有栖川宮本	「橋本社神影供ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政10年 3月22日	57	仙洞			中務卿昭仁親王へ八三抄抄伝 受のため、三月二十五日よ り十七日間、上御霊・下御 霊・北野の三社に御祈禱を 仰せつく				光格天皇実録	
文政10年 3月23日	57	内裏			菘裏に御幸				光格天皇実録	
文政10年 3月24日	57	月次御会	内裏	藤外燕、名所藤、契 別恋		左衛門督	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「藤外燕：花の香を吹入る風にさそはれて こすの外ちかくなる>>つばくら、名所藤：吹かゝるは ねのふらにいらしらすとも春はむらさきの芽引のたき、契別 恋：ちぎりおそくそのことの葉になくさめてわかれんとす るも思ひこそそへ」



年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政10年 6月16日	57		仙洞		光格天皇御製および事項 式部卿徳川齊明の墓奏あり。この日より三日間、物音を停む				光格天皇御製	
文政10年 6月24日	57	月次御会	内裏	組題100首(2~4字題) 仁孝：春風、鶴河虫、原上旅風		左衛門督	重能		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春風：さほ姫のかすみの袖も打なひき天つ空吹風のどけぞ、鶴河虫：河瀬こく輪舟のかより数そふとみえて虫の飛ちかぶ影、原上旅風：月ばかり枕とひつゝ、幾夜半が旅ね懸けき武蔵野>原」
文政10年 6月25日	57	聖廟御法楽	内裏	組題10首(2字題) 仁孝：百合		飛鳥井中納言	為全	講師：陸光朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「百合：波とともに露も涼しくみだれちるのじまがさきの風のさゆり葉」
文政10年 6月25日	57	聖廟御法楽	仙洞	組題50首(2字題) 光格：扇風	露のまももおかれぬ物よ夏しらぬ風を心にまかす扇は	左衛門督	為脩	講師：光暉	国会本内裏 有栖川宮本	「小御所二於于聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇御製)
文政10年 6月28日	57		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。大蔵卿、通修朝臣等を召す				光格天皇御製	
文政10年 後6月1日	57		仙洞		御庭三社に参拜。この日、徳川家齊、昇連の御礼として名代徳山侍從青山忠裕を遣わし物を献上。これに賜す				光格天皇御製	
文政10年 後6月11日	57	当座御会	内裏	組題20首(3字題) 仁孝：冬雑物		民部卿	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「うつみ火によりそひて猶善かへしふみ見る夜半は冬もわすれつ」
文政10年 後6月24日	57	月次御会	内裏	秋花夏開、納涼水、聞声忍恋		左兵衛督	光成		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「秋花夏開：夏ながら秋たらしとやこのころはまたさひもとく花のも草、納涼水：すゝしさはなつをばよそにやり水のなれまぢかいくいざまとゑせむ、聞声忍恋：近となり声きくたびにしのびつゝかげみむことはかたき中かな」
文政10年 後6月29日	57		仙洞		六月祓・茅織のため出御				光格天皇御製	
文政10年 7月7日	57	七夕御会	内裏	天河	天河とほきわたりを年毎にまつもかはらぬ蓬瀬なりけり(院御製)	左衛門督	光成		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製。光格上皇御製の順に掲載。仁孝天皇御製「ひこほしのけふ蓬瀬とや天河なみのうきざり囀わたる見ゆ」。女御・女房連：女御、大典侍、宰相のすけ、醫のすけ、按察使典侍、権すけ、新大納言、右内侍、侍従のないし、兵衛のないし、命婦伊与、命婦はうき、命婦大御乳、やまと(巻末)
文政10年 7月13日	57		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。大蔵卿、陸起朝臣等を召す				光格天皇御製	
文政10年 7月14日	57		内裏		菘蕪に御幸				光格天皇御製	
文政10年 7月24日	57	月次御会	内裏	組題20首(1字題) 仁孝：菘、松虫、楓		民部卿	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「菘：宮城野>さかりはさぞな九重にえならずには菘の戸のはな、松虫：誰がとふと何松虫のゆふべゆふべのせをひろみ囀しきること、楓：こ>かしこ染し千入の木々の木々の中に楓の紅葉とにこそみれ」
文政10年 8月1日	57		仙洞		八朔の儀あり				光格天皇御製	

光格上皇主催御会和歌年表—文政期編

文政10年 8月16日	57	当座御会	内裏	組題30首(3~4字 題)光格:松間月	者に生る松の木間にいさよ ひて心つくせと出る月かも (院御歌)	雅久	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月前番:きりきりず露わびてなく声まで も夜すらすら露る秋の月かげ」
文政10年 8月18日	57		仙洞		下御霊社神輿を御覽				光格天皇実録	
文政10年 8月19日	57		仙洞		仁孝天皇の皇女皇孫宮、薨 去。この日より三日間、物 音を悼む				光格天皇実録	
文政10年 8月24日	57	月次御会	内裏	小鷹狩、馴月、水邊 秋		左兵衛督	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「小鷹狩:さの野や花の千種をふみ分て 立色鳥にいさむたか人、馴月:夜をかさねあかすなれ行 影に猶月こそ秋の友となりぬれ、水邊秋:秋風にきり吹 はれてみつ清み心もすめる河つらの里」
文政10年 8月26日	57		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 権大納言、恭光等を召す				光格天皇実録	
文政10年 9月1日	57		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政10年 9月9日	57	重陽御会	内裏	菊匂留袖		飛鳥井中納言	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「かさしにと庭のしらぎく折つればふかく もそでにうつる花の香」。女房連:大典侍、宰相典侍、 按察使典侍、権典侍、兵衛内侍、命婦伯耆、命婦大御乳 (巻末)
文政10年 9月13日	57		仙洞		修学院離宮への御幸のた め、九月十五日より七日 間、愛宕社・貫船社・北野 社に御折檻を仰せつく				光格天皇実録	
文政10年 9月15日	57		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政10年 9月21日	57	於修学院御 当座	修学 院	組題30首(2字題) 光格:秋田	つゆ霜のおくでの稲葉刈上 て野田もやま田も秋さびに けり	雅久	雅久	有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先ツ壽月觀二於テ当座 和歌御会ヲ行ハル、尊イテ庭苑、赤山邊ヲ御歴覽、林丘 寺ニ入御、壽月觀ニ還御ノ後、管絃ノ御遊ヲ行ハル、箏、 琵琶ノ御所作アラセラル」(光格天皇実録)	
文政10年 9月21日	57	於修学院御 当座 後座	修学 院	組題6首(3~4字 題)光格:山路秋行	山めぐる雲こそしるべ峯ふ もとささの紅葉の秋をわけ つゝ	雅久	雅久	有栖川宮本	仁孝天皇御製「春雨:悠まゝに春の日照のかすみぞひは なをよほす雨の長閑さ、菊:谷河のながれも花の光そ ひえならす匂ふさしの白菊、後朝恋:みおくるもみかへ るもともに袖ぬれて別うかりし今朝の衣衣」	
文政10年 9月24日	57	月次御会	内裏	組題100首(1~4 字題)仁孝:春雨、 菊、後朝恋		左衛門督	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	
文政10年 9月27日	57		仙洞		壽山亭で釋稻を御覽				光格天皇実録	
文政10年 9月28日	57		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政10年 10月3日	57		仙洞		玄緒の儀				光格天皇実録	
文政10年 10月10日	57		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 大藏卿、公格等を召す				光格天皇実録	
文政10年 10月12日	57				盛化門院の正忌により、般 舟三昧院で御法事				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政10年 10月15日	57		仙洞		光格天皇御製および事項 玄猪の儀				光格天皇実録	
文政10年 10月16日	57		内裏		猿蓑御覧のため猿蓑に御幸				光格天皇実録	
文政10年 10月19日	57	当座御会	内裏	組題10首(1~2字 題)仁孝;忍恋		飛鳥井中納言	重能		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「ともすれば涙のしくれふりそひて忍ぶた もとの色やかかはらむ」
文政10年 10月22日	57		仙洞		小御所において管絃の御遊 あり。出御。掌の御所作				光格天皇実録	
文政10年 10月24日	57	月次御会	内裏	晴雨、落葉、恋風		民部卿	光成		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「時雨; 神無月空のならひと夕日しぐれ の雲に晴くもるかけ、落葉; こがらしの情をはらふ音た て>ちるや紅葉のまどをうつつかな、恋風; 物思ふわが こ>ろよふりく風の声もつてかとも>にこまれる」
文政10年 11月9日	57				後桃園天皇の聖忌により、 船舟三味院で御法事				光格天皇実録	
文政10年 11月10日	57		仙洞		十二月五日、中務卿詔仁親 王に入木道御伝受相伝のた め、その日時治定を仰せ出 す				光格天皇実録	
文政10年 11月23日	57		仙洞		内々に能御覧				光格天皇実録	
文政10年 11月24日	57	月次御会	内裏	組題100首(2~4 字題)仁孝;池寒蘆、 開霞、寄帯恋		左兵衛督	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「池寒蘆・霜さゆるみぎは氷りて池の面に 残るもさびしあしの冬がれ、開霞: 小夜深み塵の版戸に 音するは風のさそふ響なるらし、寄帯恋: むすびぞめ思 ひみだれず下帯の釦打とくる中ぞしたしき」
文政10年 11月24日	57		仙洞		十二月五日、中務卿詔仁親 王に入木道伝受相伝のた め、十一月二十五日から十 七日間、北野社に御折禱を 仰せつく				光格天皇実録	
文政10年 11月25日	57		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 堀川宰相、公悟等を召す				光格天皇実録	
文政10年 11月27日	57	当座御会	内裏	組題30首(3~4字 題)仁孝; 夜上霜		為全	為則		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「大井河くだすも寒さいかだしのそでの霜 はらへ奉の朝かせ」
文政10年 11月28日	57		内裏		猿蓑に御幸				光格天皇実録	
文政10年 11月30日	57		仙洞		森礼門院の三十三回忌によ り、代参として正三位高松 公樹を船舟三味院・泉涌寺 に遣わし御参奠を供える				光格天皇実録	
文政10年 12月5日	57		仙洞		中務卿詔仁親王に入木道伝 受を相伝				光格天皇実録	
文政10年 12月17日	57	当座御会	内裏	組題30首(2~3字 題)仁孝; 惜秋		民部卿	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「行秋の名残おもふはわれのみかまがきの 虫もつらみ声なる」
文政10年 12月18日	57	当座御会	仙洞	組題30首(2字題) 光格; 椿雨	降雨にあをぐもたかか板橋 をひら笠とりて渡るつち人	飛鳥井中納言	光成		有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)

光格上皇主催御会和歌年表—文政期編

文政10年 12月20日	57	仙洞										光格天皇実録	
文政10年 12月22日	57	仙洞										光格天皇実録	
文政10年 12月23日	57	内裏										光格天皇実録	
文政10年 12月24日	57	内裏	月次御会	千どり、うつみび、年のくれ	夜、別殿(小御所)に渡御。大藏卿、久雄朝臣等を召す御慶上を行う	飛鳥井中納言	俊明					国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「千どり：かも川やみがける月の清き瀬に 猶声さゆる小夜千鳥かな、うつみび：理火に猶よりそひ てまとぬするあたりはさらに冬なかりけり、年のくれ： くれて行年のなごりは忘れぬと心いさむや着をまつて」
文政11年 1月1日	58	仙洞										光格天皇実録	
文政11年 1月3日	58	仙洞										光格天皇実録	
文政11年 1月4日	58	内裏										光格天皇実録	
文政11年 1月7日	58	仙洞										光格天皇実録	
文政11年 1月8日	58	仙洞										光格天皇実録	
文政11年 1月13日	58	仙洞										光格天皇実録	
文政11年 1月14日	58	仙洞										光格天皇実録	
文政11年 1月15日	58	仙洞										光格天皇実録	
文政11年 1月18日	58	仙洞	御会始	可憐春風光	風ゆるく春のひかりのめく むより花もやなぎもまゆひ らけつ>	左衛門督	重能					有栖川宮本	大宮御歌なし。女房達：大すけ、新大納言、萬浦小路、 匂宮内侍、小少将、命婦伊与、命婦はつき(巻末)。「和 歌御会始ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政11年 1月24日	58	内裏	和歌御会始	鶯鳴梅	はるをしる花は梅がえとり はわれといふはかりなるう ぐひすのこ糸(院御歌)	民部卿	為全					国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に掲載。仁孝天皇御製 「梅がえの春しめて啼うくひすや花のかをりをこそ糸の ほひと」(巻頭)。大宮御歌なし。女御・女房達：女御、 大すけ、宰相のすけ、督のすけ、按察使典侍、権すけ、 新大納言、匂宮内侍、侍従のないし、兵衛のないし、命 婦いば、命婦伯耆、命婦大御乳、大和(巻末)
文政11年 1月26日	58	内裏	当座御会	組題30首(3~4字 題)光格：名所鶯	声の色を花とおもへばつむ 雪もよしやよし野>春の鶯 (院御歌)	左兵衛督	為脩					国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「體始終：新玉の年のひかりを先みせてそ らものどかに立かすみかな」(巻頭)
文政11年 2月1日	58	仙洞										光格天皇実録	
文政11年 2月10日	58	仙洞	当座御会	組題30首(4字題) 光格：早春朝霞	春にはや朝と吹かすむ吉野 川いはいはとかしはのこほぶし ら波	民部卿	為脩					有栖川宮本	「和歌当座御会始ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇 実録)
文政11年 2月16日	58	内裏										光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政11年 2月22日	58	水無瀬宮御 法楽	仙洞	組題20首(2字題) 光格：初鶯	光格天皇御製の色香のまだしぎに まつ鶯の声をそとけつる	飛鳥井中納言	重能	講師：光卿	有栖川宮本 皇実録)	「小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天 皇実録)
文政11年 2月23日	58	当座御会	内裏	組題20首(2字題) 仁孝：待花		飛鳥井中納言	光成		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「くりかへしまれたれまてらるる心にか かへる花つらかな
文政11年 2月24日	58	月次御会	内裏	組題100首(3字題) 仁孝：立春、女郎花、 田家鳥		左兵衛督	光成		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「立春日：とりかねも此鶯はのどかにて明 れば春とくすむ日の影、女郎花きりのまがひに ほのめえておもはゆげなる色はなつかし、田家鳥：小山 田のいほりまぢちかく春しめてなくつらむはしつもの しむ)
文政11年 2月25日	58	聖廟御法楽	内裏	組題50首(1字題) 仁孝：霞		飛鳥井中納言	建房	講師：隆光朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「さほ姫のがすみゆの袖をはなやがにかけ よそはふ春の山のは
文政11年 2月25日	58	聖廟御法楽	仙洞	組題50首(2～3字 題)光格：早春	浅みどり朝な朝なにかすみ そひかせもやはらく花鳥の 春	雅久	雅久	講師：重基朝臣	有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実 録)
文政11年 3月13日	58		仙洞		小御所において管絃の御遊 あり。出御。琵琶の御所作				光格天皇実録	
文政11年 3月18日	58	神影供	仙洞	瑞籬花	春いく世神のしめゆふみづ がきは花のさかりもひさし かるらし	民部卿	為全	読師：皇太后宮権大 夫、講師：光政、衆 声：前新源大納言	有栖川宮本	「柿本社神影供ヲ行ハル、出御、御製アラセラル」(光格 天皇実録)
文政11年 3月22日	58	水無瀬宮御 法楽(去月 分)	内裏	組題20首(3字題) 仁孝：花映日		雅光	雅光	講師：重基朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「朝日かけてらすみなせの山たかみさかり の花も雲と見えつゝ」
文政11年 3月23日	58	修学院御 当座	修学 院	眺望春	かすみつゝ野辺も山へも遠 近も春のながめに心ゆくな り	為則	為則		有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、壽月觀二於テ和歌当座 御会ヲ行ハル、尊イテ庭苑、赤山邊ヲ御座駕ノ後、林丘 寺二臨御アラセラシ、壽月觀二還御、管絃ノ御遊ヲ行ハ ル、尊、笛、琵琶ノ御所作アリ」(光格天皇実録)
文政11年 3月23日	58	於修学院御 当座 後座	修学 院	組題30首(3～4字 題)光格：山鶯	うぐひすの声にひかれて分 のまる山路の花の雪吹をも みつ	為則	為則		有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、壽月觀二於テ和歌当座 御会ヲ行ハル、尊イテ庭苑、赤山邊ヲ御座駕ノ後、林丘 寺二臨御アラセラシ、壽月觀二還御、管絃ノ御遊ヲ行ハ ル、尊、笛、琵琶ノ御所作アリ」(光格天皇実録)
文政11年 3月24日	58	月次御会	内裏	遊糸、蛙、逢恋		右衛門督	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「遊糸：すがのねのいとながき日にいとゆ ふの糸くりかへしなびく長閑さ、蛙：水がくれて鳴やか はつのもる春もどかにかぞ聞春の小山田、逢恋：あさか らぬ人のこぼれに年月のつらみもこよひとけし下も」
文政11年 3月26日	58	当座御会	内裏	組題30首(3～4字 題)仁孝：昔上落花		右衛門督	建房		有栖川宮本	仁孝天皇御製「ちりりきて上は白妙下はみどり花と昔と の春の山みち
文政11年 3月28日	58		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政11年 4月6日	58		仙洞		小御所で法隆寺所蔵の聖徳 太子御影ならびに什宝を御 覧				光格天皇実録	
文政11年 4月18日	58		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政11年 4月21日	58		仙洞		内々に猿蓑御覧				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表—文政期編

文政11年 4月23日	58	和歌当座御 会	内裏	組題20首 (3～4字 題) 仁孝：(恋) 袖 浦		民部卿	為全		国会本内裏 有 栖川宮本	仁孝天皇御製「浦の名の袖はしほひにしほたれてほすひ まもなくこふふるとし月」
文政11年 4月24日	58	月次御会	内裏	組題31首 (2～3字 題) 仁孝：牡丹、五 月雨、蛭		民部卿	為全		国会本内裏 有 栖川宮本	仁孝天皇御製「牡丹：朝な夕なぞむむる心もふかみぐさげ にたくひなき花とこそ見れ、五月雨：五月雨は月のみふ ねもいよくはかへたてゝ雲の波ぞ立ける、蛭：あつめね と虫ぞてらす窓のうちおこたるふみを影にいさめて」
文政11年 4月27日	58		仙洞		夜、方違のため別殿 (小御 所) に渡御。大藏卿、美久 朝臣を召す				光格天皇実録	
文政11年 5月17日	58		仙洞		齋山亭で構袂を御覧				光格天皇実録	
文政11年 5月18日	58		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政11年 5月21日	58	当座御会	内裏	組題30首 (3～4字 題) 仁孝：水網郭公		左衛門督	俊明		国会本内裏 有 栖川宮本	仁孝天皇御製「水無瀬河声はいづこにありて行やまもと とほく鳴ほとゝぎす」
文政11年 5月24日	58	月次御会	内裏	早苗参、五月雨、海 上舟		左衛門督	建房		国会本内裏 有 栖川宮本	仁孝天皇御製「早苗参：しほはさぞうれしと見つゝ思ふ らし千町にあまき水のかなへ、五月雨：夏引の手ひき のいとのがき日に猶くり返しきみなるゝ空、海上舟： 海はらや波もをさまるときつ風つれてゆたかにかよふ返 ふね」
文政11年 6月2日	58		仙洞		徳川家祥の任官叙位の御礼 として、将軍徳川家齊の名 代の侍従酒井忠美・副侍 従織田信美、家祥の名代の 侍従前田長泰が参院して物 を献上するのに講す				光格天皇実録	
文政11年 6月10日	58		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 左大辨宰相、実徳朝臣、公 格等を召す				光格天皇実録	
文政11年 6月16日	58		仙洞		嘉祥の儀に出御				光格天皇実録	
文政11年 6月19日	58	当座御会	内裏	組題20首 (3～4字 題) 仁孝：紅梅遅		左兵衛督	顕孝		国会本内裏 有 栖川宮本	仁孝天皇御製「紅のこぞめの色は春ふかくまたれて咲る 梅のいくしほ」
文政11年 6月21日	58		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政11年 6月24日	58	月次御会	内裏	組題20首 (1～6字 題) 仁孝：夏草、五 節、待人窓		民部卿	俊明		国会本内裏 有 栖川宮本	仁孝天皇御製「夏草：夏草のしげるもよこ秋のい ろいろの花のさくを思へば、五節：明らけき月にいく度 えならすもかへかす乙女の袖のよそほひ、待人窓：したひ てもうらみてもつらきあだ人を猶よよなほに待がわりな さ」
文政11年 6月25日	58	聖廟御法楽	内裏	組題50首 (2字題) 仁孝：夏露		左衛門督	光成	講師：正房	国会本内裏 有 栖川宮本	仁孝天皇御製「神のめぐみ夏しら露のかゝればそよひかき の木くさことにすゝしき」
文政11年 6月25日	58	聖廟御法楽	仙洞	組題50首 (2～3字 題) 光格：蛭虫	飛虫よたゝ照すも夜をかさ ねはや秋ちかき暁の影	民部卿	為脩	講師：為知	有 栖川宮本	「小御所二於予聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」 (光格天皇実 録)
文政11年 6月30日	58		仙洞		六月祓・茅輪のため出御				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政11年 7月7日	58	和歌御会	内裏	七夕琴	光格天皇御製および事項 天河吹かよふかぜのすがほ はことさらまほしのしらべう くらし(院御製)	左兵衛督	光成		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「光格上皇御製の順に題載。仁孝天皇御製 「たむけにと心のいとみひく琴のしらべをほしほいか さくらむ」(巻頭)。大宮御歌なし。女御・女房達：女御、 大すけ、幸相典侍、督のすけ、按察使典侍、権すけ、新 大納言、勾当内侍、侍従ないし、兵衛内侍、命婦いよ、 みやつぶ伯耆、命婦大乳、やまと(巻頭)。
文政11年 7月14日	58		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政11年 7月24日	58	月次御会	内裏	風庭孫、尋虫、恋餘 波		左兵衛督	顕孝		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「風庭孫：霞かけて吹くる風の秋のこゑは 軒端の秋のそこに聞つゝ、尋虫：巨首の花野をわけてた つぬればなれも我をやまむむしのなく、恋餘波：いまは とて悪むすてしをいをいかに獨なり消やらぬ恋さの露」
文政11年 7月24日	58		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 今出川中納言、実徳朝臣等 を召す				光格天皇実録	
文政11年 8月1日	58		仙洞		八朔の儀あり				光格天皇実録	
文政11年 8月7日	58		仙洞		歡喜心院宮、葬去。この日 より三日間、洞中、物言を 停む				光格天皇実録	
文政11年 8月20日	58		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政11年 8月24日	58	月次御会	内裏	組題100首(2~3 字題)仁孝：春朝、 夏河、秋祝		飛鳥井中納言	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春朝：山たかみかみすみのほる朝日かけ のかかにほふ花のしら雲、夏河：波をふく風になびさ て河の瀬にむれつゝあゆめはしる涼しさ、秋祝：民の戸 の年ある秋のまに出て千町のいなばなびく豊けさ」
文政11年 8月25日	58	当座御会	内裏	組題30首(3~4字 題)仁孝：名所桜		飛鳥井中納言	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春はまた寂にも名の立田山ゆふ日いくし ほ霞みそへつゝ」
文政11年 9月8日	58		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 裏久世三位、実路朝臣等を 召す				光格天皇実録	
文政11年 9月9日	58	重陽御会	内裏	菊句隨風		民部卿	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「なが月のけふ咲きくの花さかり庭のあき かせ香に匂ひつゝ」。女御・女房達：女御、督のすけ、 権すけ、勾当内侍、侍従ないし、命婦伯耆、大和(巻 末)。
文政11年 9月18日	58		内裏		猿楽御覧のため禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政11年 9月24日	58	月次御会	内裏	秋山朝、秋野夕、秋 浦夜		雅久	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「秋山朝：朝かぜにきりのとばりはふき晴 て紅葉のしきにはふ山のは、秋野夕：あきふかみ露ふ く風も身にぞしむしかのねさびし野へのたぐれ、秋浦 夜：よる波のよを長月の影みつゝさぞなこゝろもすまの つら入」
文政11年 10月7日	58		仙洞		後桃園天皇の五十回聖忌を 引き上げ、この日より三日 間、洞中において御法事				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表―文政期編

文政11年 10月12日	58	仙洞				盛化門院の御忌により、般舟三昧院において御法事のため、般舟三昧院ならびに泉涌寺に代参を運わす					光格天皇実録
文政11年 10月20日	58	仙洞				壽山亭で種稻を御覽					光格天皇実録
文政11年 10月20日	58	仙洞				夜、別殿(小御所)に渡御。大原三位、公格等を召す					光格天皇実録
文政11年 10月21日	58	仙洞				玄緒の儀					光格天皇実録
文政11年 10月24日	58	内裏 月次御会	組題100首(2~4 字題)仁孝：霜夜月、 冬顯恋、冬竹				左衛門督	顯孝			国会本内裏 有栖川宮本
文政11年 11月3日	58	仙洞				後桜町天皇の聖忌により般舟三昧院において御法事。般舟三昧院ならびに泉涌寺に代参を運わす					光格天皇実録
文政11年 11月24日	58	内裏 月次御会	月光映氷、寒雁添 声、閑路行客				左兵衛督	為脩			国会本内裏 有栖川宮本
文政11年 12月5日	58	仙洞				夜、別殿(小御所)に渡御。大原三位、有言朝臣等を召す					光格天皇実録
文政11年 12月21日	58	仙洞				弘御所前庭において御疑上げ					光格天皇実録
文政11年 12月24日	58	内裏 月次御会	組題100首(1~2 字題)仁孝：柳、秋 雨、神楽					飛鳥井中納言	雅久		国会本内裏 有栖川宮本
文政12年 1月1日	59	仙洞				四方拝を行うが出御せず。朝阿闍婆で御園の事。拜礼を行い諸臣に謁す。夜、小御所に渡御					光格天皇実録
文政12年 1月2日	59	仙洞				拜礼あり。小御所に出御し諸臣に謁す					光格天皇実録
文政12年 1月3日	59	仙洞				吉書御覧のため出御					光格天皇実録
文政12年 1月7日	59	仙洞				千秋万歳・白馬御覧のため出御					光格天皇実録
文政12年 1月13日	59	仙洞				諸礼のため弘御所に出御。次に小御所に出御					光格天皇実録
文政12年 1月14日	59	仙洞				太元帥法結願・後七日御修法のため向法阿闍婆、参院。弘御所に出御し謁す					光格天皇実録
文政12年 1月15日	59	仙洞				御吉書・三替打のため小御所に出御					光格天皇実録

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政12年 1月18日	59	御会始	仙洞	氷消雪残	光格天皇御製および事項 はるをしろいけのこゝろよ 消かての雪のいはねもどく るこほりは	左兵衛督 飛鳥井中納言	顕孝	読師：松察大納言、講 師：光政、発声： 飛鳥井中納言	有栖川宮本	大宮御歌・仁孝天皇御製なし。女房連：女典侍、新大納 言、権中納言、菟瀨小路、常盤井、勾当内侍、命婦伊与、 命婦はづき、紀伊(巻末)。「和歌御会始ヲ行ハル、出御、 御製アラセラル」(光格天皇実録)
文政12年 1月24日	59	和歌御会始	内裏	浪澄鶴影浮	春の日の空うらゝかにまぶ 影もあしへの田鶴も浮ぶ江 の浪(院御製)	左衛門督	光成	読師：民部卿、講 師：重基朝臣、発 声：源三位	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格天皇御製の順に掲載。仁孝天皇御製 「水かゝつまつるすかたものどけしな春の池へのなみの ともつる」(巻調)。大宮御歌なし。女御・女房連：女御、 大すけ、宰相典侍、権すけ、新大納言、権中納言、勾当 のないし、侍従内侍、兵衛のいし、命婦伊豫、命婦伯 耆、大和(巻末)。
文政12年 1月26日	59	当座御会	内裏	組題30首(3字題) 光格：朝見花	いひしらぬ色にももあるか朝 顔に匂こぼれて吹る初は な(院御製)	民部卿	雅光	読師：光政	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早香水：春さぬと水ながかれて浅みどり霞 もにほふ庭のやり水」(巻頭)
文政12年 2月14日	59	仙洞	仙洞		<b>夜、別殿(小御所)に渡御。 男女を召さず</b>				光格天皇実録	
文政12年 2月22日	59	水無瀬宮御 法楽	内裏	組題20首(4字題) 仁孝：春風降氷		飛鳥井中納言	雅久	講師：光政	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「山木やのどかに春の風みえてこほりもな みの水無瀬河かな」
文政12年 2月24日	59	月次御会	内裏	組題100首(2~4 字題)仁孝：待花、 水御花、花錦		民部卿	顕孝	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「待花：二月や時しきぬれど風さえてなほ 待遠の花さくらかな、水御花：大井河花のさかりに成に けりいろかになびく筏士のそで、花錦：名にしおふ都の 春のひかりがながないづくも花の錦かさねて」	
文政12年 2月25日	59	聖廟御法楽	内裏	組題50首(2~4字 題)仁孝：尋梅		左兵衛督	俊明	講師：為知	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「香をしるへこの袖垣に尋ねきてえならぬ 梅の咲しをぞ見る」
文政12年 2月30日	59	当座御会	仙洞	組題30首(2~3字 題)光格：初春鶯	鶯の啼なる声に山陰の垣ね の春の雪消をもしる	左衛門督	光成	読師：陸光朝臣	有栖川宮本	「和歌当座御会始ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇 実録)
文政12年 3月7日	59	当座御会	内裏	組題20首(2字題) 仁孝：春日		左衛門督	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「のどかなるやよひの空のけしきかな照す 日かげもかすみ匂ひて」
文政12年 3月16日	59	内裏	内裏		<b>禁裏に御幸始</b>				光格天皇実録	
文政12年 3月17日	59	仙洞	仙洞		昨夜、前右大臣花山院愛 徳、薨去。この日より三日 間、物音を停む				光格天皇実録	
文政12年 3月19日	59	仙洞	仙洞		修学院離宮への御幸のた め、三月二十一日より七日 間、下御霊・北野社・愛宕 長床坊に御祈禱を仰せつく				光格天皇実録	
文政12年 3月20日	59	内裏	内裏		<b>猿蓑御覽のため禁裏に御幸</b>				光格天皇実録	
文政12年 3月22日	59	水無瀬宮御 法楽(去月 分)	仙洞	組題20首(2字題) 光格：春日	一夜明しみつの朝のかすみ よりよにこのどかなる春の日 のかげ	民部卿	雅久	読師：為知	有栖川宮本	「小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ、去月分 ナリ」(光格天皇実録)
文政12年 3月25日	59	聖廟御法楽 (去月分)	仙洞	組題10首(4字題) 光格：霞添春色	はるの色毎朝毎朝に見え 行は空うらゝなる霞みなり けり	飛鳥井中納言	建房	読師：陸光朝臣	有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ、去月分ナリ」 (光格天皇実録)

光格上皇主催御会和歌年表 一文政期編

文政12年 3月26日	59	於修学院御 当座	修学 院	春日遊覧	和良らに霞む光に野へ山へ みつゝ心も春の日ぐらし	雅光	雅光	有栖川宮本 格天皇実録	「修学院離宮二御幸アラセラル、先ツ壽月觀二於テ当座 和歌御会ヲ行ハル、尋イテ上離宮二渡御、庭苑、赤山邊 ヲ御歴覽、林丘寺二入御、下離宮二還御ノ後、壽月觀二 於テ管絃ノ御遊ヲ行ハル、等ノ御所作アラセラル」(光 格天皇実録)
文政12年 3月26日	59	於修学院御 当座(後 座)	修学 院	組題30首(2~3字 題)光格：夕香草、 朝田家	夕香草：かり衣小草つむ 野、花にきて胡蝶もなるゝ 袖の夕露、朝田家：朝けふ りかすみとゝもに立なひく しつが門田の春で長閑さ	雅光	有栖川宮本 格天皇実録	「修学院離宮二御幸アラセラル、先ツ壽月觀二於テ当座 和歌御会ヲ行ハル、尋イテ上離宮二渡御、庭苑、赤山邊 ヲ御歴覽、林丘寺二入御、下離宮二還御ノ後、壽月觀二 於テ管絃ノ御遊ヲ行ハル、等ノ御所作アラセラル」(光 格天皇実録)	
文政12年 3月27日	59		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 修理權大夫、美濃朝臣等を 召す		光格天皇実録		
文政12年 3月28日	59	月次御会	内裏	梨花、杜若、躑躅		為全	国会本内裏 有栖川宮本 格天皇実録	仁孝天皇御製「梨花：春ふかき山路も雪のこるかとよ それに見しはなしの咲かけ、杜若：池水にはるをふかめ てさく花はこきむらさきのかきつばたかな、躑躅：夕日 影てらすをかへのいはつゝし今一しほの花のくれなゐ」	
文政12年 4月3日	59		仙洞		新皇嘉門院の七回忌によ り、代参として正三位高松 公祐を般舟三昧院ならびに 泉涌寺に遣わし御香奠を供 えしむ		光格天皇実録		
文政12年 4月11日	59		内裏		禁裏に御幸		光格天皇実録		
文政12年 4月18日	59	神影供	仙洞	首夏新樹	朝もよびさのふのはなの雲 はれて山はあを葉におもか げりをり	頭孝	有栖川宮本 格天皇実録	「神本社神影供ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)	
文政12年 4月24日	59	月次御会	内裏	組題10首(5字題) 仁孝：梅花琴上飛、 水辺唯遊畧、遠近香 光満		雅光	国会本内裏 有栖川宮本 格天皇実録	仁孝天皇御製「梅花琴上飛：琴のをのしらも花の香を やそむむぬ散かゝる軒の春風、水辺唯遊畧：くめは猶置 もしならなみながれ出てまとお涼しき庭の眞清水、遠近香 光満：のへ山へ道行人やたどるとらん遠近わかぬ雪のひか りに」	
文政12年 4月24日	59		仙洞		故徳川家源に贈太政大臣の 宮礼使として刑部大輔今川 義用・侍従本荘宗茂が同伴 して参陸、将軍徳川家齊と りの白銀三百枚を献上。弘 御所に出御、讀す		光格天皇実録		
文政12年 4月28日	59		仙洞		内々に仕舞雜子能を御覧		光格天皇実録		
文政12年 5月8日	59		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 武者小路三位、水尾朝臣等 を召す		光格天皇実録		
文政12年 5月15日	59	当座御会	内裏	組題30首(2~4字 題)仁孝：雪中興遊		光成	国会本内裏 有栖川宮本 格天皇実録	仁孝天皇御製「思ふどち袖打かざし駒なべてゆくゆめ つる雪の野山路」	
文政12年 5月20日	59		内裏		禁裏に御幸		光格天皇実録		

年月日	年齢	御会名 月次御会	場所 内裏	歌題 夏草、照射、恋月	光格天皇御製および事項	題者 民部卿	奉行 雅久	その他の諸役	出典	備考
文政12年 5月24日	59		内裏		光格天皇御製および事項	民部卿	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏草：夏の野もさゆりなりでこあちさゝ に草のこしきの秋ばかりかは、照射：おもひやれこれ よわたるわなれどもしに鹿のさわくあはれを、恋 月：さやけさもわが涙よりくもりけり物思ふ袖にをしき 月影」
文政12年 6月4日	59		仙洞		壽山亭で挿袂を御覽				光格天皇実録	
文政12年 6月8日	59	当座御会	内裏	組題20首(2字題) 仁孝：翟妻		飛鳥井中納言	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「咲しよよりから瓶のからにしきまがきよそ ほふ花のとこなつ」
文政12年 6月16日	59		仙洞		嘉祥の儀あり、出御				光格天皇実録	
文政12年 6月21日	59		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 源三位、美徳朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政12年 6月24日	59	月次御会	内裏	組題50首(3~4字 題)仁孝：簾夕顔、 朝次室、瀬辺輝		左兵衛督	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「簾夕顔：たそがれにほのほの肝をとひし よりちざりぞかゝる花の夕がほ、朝次室：人がたの月も 残りてむろ山いとゝすゝしき余の朝風、瀬辺輝：すゝ しくもみだれあひけり松陰に瀧のしらいと御のもろ声」
文政12年 6月25日	59	聖廟御法楽	内裏	組題50首(3字題) 仁孝：夏月明		左衛門督	顕孝	講師：陸光朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「てる影に瀧すゝしさはまし氷のながれく もらぬ夏の夜の月」
文政12年 6月25日	59	聖廟御法楽	仙洞	組題50首(1字題) 光格：泉	幕ぬけば月もつかひていは 清水よすがらすゝし結ひ明 さむ	左衛門督	光成	講師：正房	国会本内裏 有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実 録)
文政12年 6月30日	59		仙洞		六月祓・茅織のため出御				光格天皇実録	
文政12年 7月7日	59	七夕御会	内裏	乞巧奠	君が代の久望のあさのほし まつりねがひの糸のながさ 千筋も(院御製)	飛鳥井中納言	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に挿戴。仁孝天皇御製 「秋いく世なほつきせしな今日毎のほしのちざりもには の手持も」(巻頭)。大宮御歌なし。女御・女房達：女御、 大典侍、宰相のすけ、投察使典侍、権すけ、新大納言、 権中納言、勾当内侍、侍従のないし、兵衛内侍、命婦(巻 末)、命婦伯耆、女藏人相模、女くら入越後、やまと(巻 末)。
文政12年 7月24日	59	月次御会	内裏	權、露、花		民部卿	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「權：空の色にすゝしく咲ておく露ほほし の光の花の朝がほ、露：百草におきみだれつゝしら露の わが物がほの野へのたくれ、花：柳木つみかよふ谷川の 瀧をはやみせかれても瀧下すまいかたし」
文政12年 8月1日	59		仙洞		八朔の儀あり				光格天皇実録	
文政12年 8月5日	59		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 新中納言、美徳朝臣等を召 す				光格天皇実録	
文政12年 8月19日	59		仙洞		後水尾天皇の百五十回聖忌 により、代参として右兵衛 督藤谷為備を船舟三昧院な らびに泉涌寺に連わす				光格天皇実録	
文政12年 8月22日	59		内裏		菘蕘に御幸				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表一文政期編

文政12年 8月28日	59	(去廿四日 御延引)月 次御会	内裏	組題50首(3~4字 題)仁孝;有曙月、 田上月、奇月増恋	仁孝天皇は、題のみで御製 なし。	左衛門督	光成		国会本内裏 有栖川宮本	
文政12年 9月2日	59		仙洞		伊勢皇大神宮造替正遷宮の 儀を行つたにあつて、常御 所南庭で御拜			光格天皇実録		
文政12年 9月5日	59		仙洞		豊受大神宮造替正遷宮の儀 を行つたにあつて、常御所 南庭で御拜。この夜、洞中 の御格子を下さず			光格天皇実録		
文政12年 9月9日	59	重陽御会	内裏	菊班如錦		右兵衛督	顕孝	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「ませの中にとばりよそひてから錦おりか くる花は菊のたねぬき」。女房連：大典侍、宰相のすけ あせちの典侍、女御、勾当内侍、侍従内侍、兵衛内侍、 命婦いよ、命婦白誓、女藏人相模、女くら人越後(卷末)	
文政12年 9月14日	59	於修学院御 当座	修学 院	山水秋深	いろいろつげる山の本葉のかけ すみて池の心も秋ふかく見 ゆ	為全	為全	有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先ズ壽月觀二於テ当座 和歌御会ヲ行ハル、尋イテ上離宮ニ渡御、庭苑、赤山邊 ヲ御歴覧ノ後、林丘寺ニ入御、下離宮ニ遷御、壽月觀二 於テ管絃ノ御遊ヲ行ハル、尊ノ御所作アラセラル」(光 格天皇実録)	
文政12年 9月14日	59	於修学院御 当座(後 座)	修学 院	組題30首(3~4字 題)光格;野外虫、 月照籠	野外虫;小夜ふけて何をま つ虫こゝらなく秋雲き露の 野への草へに、月照籠;音 にさゝし音羽の漣のみね晴 てかけさし照す月をみるか な	為全	為全	有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先ズ壽月觀二於テ当座 和歌御会ヲ行ハル、尋イテ上離宮ニ渡御、庭苑、赤山邊 ヲ御歴覧ノ後、林丘寺ニ入御、下離宮ニ遷御、壽月觀二 於テ管絃ノ御遊ヲ行ハル、尊ノ御所作アラセラル」(光 格天皇実録)	
文政12年 9月16日	59		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 刑部卿、通修朝臣を召す			光格天皇実録		
文政12年 9月21日	59		仙洞		昨夜、大業院門跡慶範遷化 により、この日、物音を停 む			光格天皇実録		
文政12年 9月24日	59	月次御会	内裏	構衣、紅葉、蓬恋		飛鳥井中納言	為脩	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「構衣;うつたへの声もしきりて小夜きぬ た闇によさむのあはれさそふ、紅葉;薄くこき紅葉の にしきたてぬきにおりわけ染る衣手のもちり、蓬恋;とし 月にうらまじものをこよむしもくちとくち中としり なば」	
文政12年 9月24日	59		仙洞		小御所において管絃の御遊 を行つたため出御。等の御所 作			光格天皇実録		
文政12年 9月27日	59		仙洞		權中納言飛鳥井雅光に三部 抄伝受を相伝			光格天皇実録		
文政12年 10月2日	59		仙洞		後嵯町天皇の十七回聖忌に より、十月二日・三日に仙 洞において備法講を行う			光格天皇実録		
文政12年 10月7日	59	当座御会	仙洞	組題30首(2~3字 題)光格;松上霞	すみの江の涼風ゆらく春の 日は松のみどりも霞みそひ つ	民部卿	為脩	有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)	
文政12年 10月13日	59	和歌当座御 会	内裏	組題20首(3字題) 仁孝;朝時雨		飛鳥井中納言	為全	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「朝日影ほのめく峰にむら雲のかゝることみ れば時雨ふるそら」	
文政12年 10月14日	59		仙洞		玄猪の儀あり			光格天皇実録		

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政12年 10月17日	59		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政12年 10月19日	59		仙洞		小御所において管絃の御遊 を行つたため出御。琵琶の御 所作				光格天皇実録	
文政12年 10月20日	59		仙洞		壽山亭で權稻を御覽				光格天皇実録	
文政12年 10月21日	59		仙洞		普通院宮尊実親王が勅令伝 法灌頂を行つたに、御祝儀 のため俊を運むし物を擲つ			光格天皇実録		
文政12年 10月24日	59	月次御会	内裏	組題67首 (1~4字 題) 仁孝・落葉、不 違忍、旅		民部卿	雅久		国会本内裏 有 栖川宮本	仁孝天皇御製「落葉：白妙の霜の重砂をくかれなるにふか くも染めてちる木葉かな、不違忍：せめてたゞかりぞめ にだに運よしのあらば思ひをいひもはるけむ、旅：旅衣 ひなの長路に重ねきてきのふもけふも袖ぞしくる。」
文政12年 10月25日	59		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政12年 11月24日	59	月次御会	内裏	浦伝千鳥、夜寒重 森、雪中眺望		飛鳥井中納言	為全		国会本内裏 有 栖川宮本	仁孝天皇御製「浦伝千鳥：すまあかし霜夜の月も影さゆ る波路の千どり浦つたふこ森、夜寒重森：うつみ火のひ かりもあれどさゆる夜はふすまをいく重かさねてぞぬ る、雪中眺望：こすまきて外山を寒み見渡せば雪にあさ 日のかけぞかゝやく」
文政12年 12月2日	59	当座御会	内裏	組題30首 (3~4字 題) 仁孝・名所雪		民部卿	賢孝		国会本内裏 有 栖川宮本	仁孝天皇御製「名にたかきあたご大ひえをしなべてたゞ 白妙の雪の山々」
文政12年 12月11日	59		仙洞		夜、別殿(小御所)に遊御。 権大神言、重徳朝臣等を召 す				光格天皇実録	
文政12年 12月13日	59		仙洞		小御所において管絃の御遊 を行つたため廉中に出御。事 の御所作				光格天皇実録	
文政12年 12月22日	59		仙洞		弘御所前庭において御髪上 げ				光格天皇実録	
文政12年 12月24日	59	月次御会	内裏	組題100首 (2~4 字題) 仁孝：河千鳥、 竹雪、歳暮松		左衛門督	光成		国会本内裏 有 栖川宮本	仁孝天皇御製「河千鳥：さほ河やきをのしづくも氷るよ に舟とぶ千どり声の寒けき、竹雪：はちへともあともよ つも雪にけさ下折おもき庭のなよ竹、歳暮松：雪とど もに年もつもりの薄寒みいそへに春を松の一しほ」
文政13年 1月1日	60		仙洞		四方拜を行つた出御せず。 朝餉間に出御し御徳固の 事。拜礼を行う。常御所に 出御し諸臣に諭す				光格天皇実録	
文政13年 1月2日	60		仙洞		拜礼あり。小御所に出御し 諸臣に諭す				光格天皇実録	
文政13年 1月3日	60		仙洞		吉書御覽のため出御				光格天皇実録	
文政13年 1月4日	60		内裏		禁裏に御幸始				光格天皇実録	



年月日	年齢	御会名 当座御会	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政13年 3月7日	60	内裏 当座御会	内裏	組題20首(3字題) 仁孝：春夕月(有栖川宮本では題は「春草蒨」)	光格天皇御製および事項 春の夜の木間もつぎの影は花はなはかけにぞかすみあひぬる	雅久	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「ひばり鳴春の野はらを見わたせば花の小草の錦かすめり」
文政13年 3月18日	60	神影供	内裏	花間春月		飛鳥井中納言	雅久	読師：鷲尾前大納言、講師：為知、築声：左京大夫	有栖川宮本	「柿本社神影供行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政13年 3月24日	60	月次御会	内裏	花霞、田蛙、風帆		民部卿	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「花霞：立ちめしかすみがくれはひとしほに瀧しのばるゝ花のおもかけ、田蛙：しづのみか苗代みづはわれもちると蛙の声のすたく小山田、風帆：まほにみえかたはほにみえて浦波にこぎつる舟やかぜのまにまに」
文政13年 3月28日	60		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政13年 後3月4日	60		仙洞		夜、別殿(呉服所)薄御。東久世三位、有春朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政13年 後3月5日	60		仙洞		宇多天皇の九百回聖忌により、仁和寺金堂において曼陀羅供養を修す。御講経使として院別当高松保右を遣わす				光格天皇実録	
文政13年 後3月7日	60	当座御会	内裏	組題30首(かな題) 仁孝：みぬ人こふる		民部卿	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「それどのみきゝし思ひにいく月日みぬ人こふる恋そよしなき」
文政13年 後3月16日	60	於修学院御 当座	修学院	春日運々	斧の柄の山路おもひし春の目をけふの遊びにむべとしるしも	雅久	雅久		有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先づ壽月觀二於テ和歌御会ヲ行ハル、尊イテ上離宮二渡御、庭苑、赤山邊ヲ御遊覧、隣雲亭二少時御休憩、後、音羽瀧ヲ御覧アラセラル、林丘寺二臨御、次二隣雲亭二還御ノ後、諸臣ト笛ノ合奏アラセラル、戌終烈、下離宮二還御、壽月觀二於テ管絃ノ御遊ヲ行ハル、笛、羯鼓、琵琶ノ御所作アラセラル」(光格天皇実録)
文政13年 後3月16日	60	於修学院御 当座(後座)	修学院	組題6首(3~4字題)光格：湘月見花	いはねふみ浦波とめて山ざくらくはゝる春のかひに見るかな	雅久	雅久		有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先づ壽月觀二於テ和歌御会ヲ行ハル、尊イテ上離宮二渡御、庭苑、赤山邊ヲ御遊覧、隣雲亭二少時御休憩、後、音羽瀧ヲ御覧アラセラル、林丘寺二臨御、次二隣雲亭二還御ノ後、諸臣ト笛ノ合奏アラセラル、戌終烈、下離宮二還御、壽月觀二於テ管絃ノ御遊ヲ行ハル、笛、羯鼓、琵琶ノ御所作アラセラル」(光格天皇実録)
文政13年 後3月24日	60	月次御会	内裏	組題5首(1字題) 仁孝：夏、秋、恋		左兵衛督	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏：ほとゝぎす声をも洩せ夕月に光をかはず庭の卯花、秋：露かゝる萩の上風そよぐ音のあきをしればやきなく初雁、恋：こがれつゝつれなき恋をするがなるふしの煙もむねのけふりと」
文政13年 後3月24日	60		内裏		舞楽御覧のため禁裏に御幸				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表—文政期編

文政13年 後3月28 日	60									光格天皇実録	
文政13年 4月17日	60									光格天皇実録	
文政13年 4月24日	60	月次御会	内裏	新樹露、郭公待五 月、遇不逢恋	雅光	雅光				国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「新樹露：わかみどりしりげるわか葉のさ の枝にむすびてすゝし露のしら玉、郭公待五月；かた らは五月の空と思ふにも顔まなれつる山ほとゝぎす、遇 不逢恋；あはぬまのつらさつらみしそれさへも今はつき 身にしたはれそする」
文政13年 4月27日	60	当座御会	内裏	組題10首（3字題） 仁孝：卯花盛	飛鳥井中納言	為備				国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「青葉さへみえぬばかりに咲みちてたゝ白 妙の卯花のかげ」
文政13年 5月18日	60		仙洞	壽山亭で挿秧を御覽						光格天皇実録	
文政13年 5月24日	60	月次御会	内裏	組題21首（3～5字 題）仁孝：郭公教声、 海郭公、郭公稀	左衛門督	為備				国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「郭公教声：雨になき月にかたならふほと ぎすおのが時ぞと声しきるなり、海郭公：ほとゝぎすな れも影をやめでゝ晴月のあかしの波のよるよる、郭公 稀：郭公ころろすきぬとやさみだれのはれ行まゝに遠ざか る声」
文政13年 5月28日	60		仙洞	皇女倫宮、棄去。この日よ り三日間、物音を停む						光格天皇実録	
文政13年 6月2日	60		仙洞	夜、別殿（兵衛所）に渡御。 大蔵卿、公恰朝臣等を召す						光格天皇実録	
文政13年 6月16日	60		仙洞	嘉祥の儀あり、出御						光格天皇実録	
文政13年 6月24日	60	月次御会	内裏	夏夜月庭、瀧上禪、 鞠旅	左兵衛督	俊明				国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏夜月庭：月影のくまなくてらすよもす から涼しさあかぬ庭のまさこち、瀧上禪：あひにあひて 涼しかりけりいはがねの瀧のひゝきにせみのものろこゑ、 鞠旅：旅衣きのふは山路けふは野ち明日は舟路とたちか はり行」
文政13年 6月25日	60	聖廟御法楽	内裏	組題10首（3字題） 仁孝：誓妻露	飛鳥井中納言	顕孝	講師：正房			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「いろいろにける御の床夏を今一しほと 露やむすへる」
文政13年 6月25日	60	聖廟御法楽	仙洞	組題50首（2～4字 題）光格：嶺松	民部卿	為全	講師：為和			国会本内裏 有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ詠上アリ」（光格天皇実 録）
文政13年 6月29日	60		仙洞	六月祓・茅輪のため出御						光格天皇実録	
文政13年 7月2日	60		仙洞	禊震あり。院中噴動し、常 御所東庭に御座を設け渡御						光格天皇実録	
文政13年 7月4日	60		仙洞	時々地震。常御所御修復に より、この日より小御所に 渡御						光格天皇実録	
文政13年 7月13日	60		仙洞	四五度、地震。夜、別殿に 渡御。男方、召さす						光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政13年 7月24日	60	月次御会	内裏	組題100首(2~4 字題)仁孝:菟露、 奇虫恋、浦舟	光格天皇御製および事項	民部卿	顕孝		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「菟露:折とらばみだれやするとましめども もみつゝやむべき菟の露かは、奇虫恋:おもひわかれ もよすがらねになかかん草のしけみの虫ならねども、浦 舟:すまの浦や名におふ秋の月夜よしよゝしとらふあ まのつり舟」
文政13年 7月25日	60		仙洞		將軍徳川家齊の女和姫の逝 去を奏聞。この日より三日 間、物音を停む				光格天皇御製	
文政13年 8月1日	60		仙洞		八朔の儀あり				光格天皇御製	
文政13年 8月24日	60	月次御会	内裏	雲収月明、搗屋月、 奇月祝世		左兵衛督	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「雲収月明:心あれやさやけき影をへたて じと月出る空にはるゝうき雲、搗屋月:けふりさへかけ にけたれてすまの浦しほやさやけき月のよなよな、奇月 祝世:久かたの空すも七月は秋つものよもゆたかなる万代 の影」
文政13年 8月27日	60		仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 刑部卿、有容朝臣等を召す				光格天皇御製	
文政13年 8月30日	60		仙洞		常御所、御修儀により還御				光格天皇御製	
文政13年 9月9日	60	重陽御会	内裏	菊有延年色		左衛門督	顕孝		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「さゝれ石のいはほととならん秋幾世なほつ させめやきくのだかりは」。女房運:女御、大典侍、幸 相のすけ、写当内侍、侍従のないし、兵衛内侍、命婦い よ、命婦伯耆、女藏人相模、女藏人桑ちこ(巻末)。
文政13年 9月24日	60	月次御会	内裏	組題100首(2~4 字題)仁孝:庭紅葉、 奇秋雲恋、秋野		左衛門督	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「庭紅葉:染つく守山の千しほやいかなら んみざりもふかき秋の紅葉、奇秋雲恋:つれなしやな の心の秋みせてあはれ白雲のへだてはてぬる、秋野:八 千種の花もつつらふ秋ふかかみのを寒しとややつつら鳴に 哀」
文政13年 10月10日	60		仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 右衛門督、美徳朝臣等を召 す				光格天皇御製	
文政13年 10月15日	60		仙洞		玄雉の儀				光格天皇御製	
文政13年 10月17日	60		仙洞		壽山亭で穫稻を御覽				光格天皇御製	
文政13年 10月24日	60	月次御会	内裏	松霜深、水鳥多、相 恋恋		飛鳥井中納言	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「松霜深:深みどりしげるみざりの楳の葉 にかざねて白くおけるしもかな、水鳥多:かれあしもむ すぶ氷も毛もむとつにしきの池のみつとり、相思 恋:ちろともにかゝるおもひの中ならば人をも身をも何 つらむべき」
文政13年 11月22日	60		仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 左衛門督、重徳朝臣等を召 す				光格天皇御製	
文政13年 11月23日	60		仙洞		聖靈院宮益仁親王、薨去。 この日より三日間、御願。 物音を停む				光格天皇御製	

光格上皇主催御会和歌年表 — 文政期編

文政13年 11月28日	60	月次御会	内裏	組廻20首(2~4字 題)仁孝天皇：雪隨 風、		左兵衛督	俊明		国会内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「雪隨風：おとたて、吹さそふ空に打ちら し降しきる雪ぞ風のまゝなる、花洛雪：散かふも花の郡 の名にあひてかをるばかりのけさの白ゆき、望雪：から さきの松も白妙にうつもれて雪をのせ行しかの浦ふね」
天保1年 12月19日	60		仙洞		弘御所前庭において御髪上 げ				光格天皇実録	
天保1年 12月23日	60		仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 六角前宰相、恭光を召す				光格天皇実録	
天保1年 12月24日	60	月次御会	内裏	早梅句、歳中黨、歳 上苔		為全	為全		国会内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早梅句：年さむきまだ冬ながらこの朝け 春の立枝と匂ふ梅が、歳中黨：けふたちし春をば声に 先つけて年の中にもきなく黨、歳上苔：千とせふるいは ほがうへの苔むしろ猶いく世々にしきかさぬらん」